令和7年3月定例会

飯 島 町 議 会 会 議 録

令和7年2月25日 開会

令和7年3月11日 閉会

飯 島 町 議 会

令和7年3月飯島町議会定例会議事日程（第1号）

令和7年2月25日 午前9時10分 開会・開議

1 開会（開議）宣告

1 議事日程の報告

1 町長議会招集挨拶

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定について

日程第 3 諸般の報告

日程第 4 第 1 号議案 飯島町教育長の任命について

日程第 5 第 2 号議案 飯島町教育委員会委員の任命について

日程第 6 第 3 号議案 人権擁護委員候補者の推薦について

日程第 7 第 4 号議案 人権擁護委員候補者の推薦について

日程第 8 第 5 号議案 飯島町固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第 9 第 6 号議案 飯島町生物多様性保全条例

日程第 10 第 7 号議案 飯島町議会の個人情報保護に関する条例等の一部を改正する条例

日程第 11 第 8 号議案 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例

日程第 12 第 9 号議案 公益的法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例

日程第 13 第 10 号議案 飯島町特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例

日程第 14 第 11 号議案 飯島町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

日程第 15 第 12 号議案 飯島町公園条例の一部を改正する条例

日程第 16 第 13 号議案 飯島町水道事業及び水道用水供給事業並びに下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例

日程第 17 第 14 号議案 企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例

日程第 18 第 15 号議案 飯島町公共下水道条例の一部を改正する条例

日程第 19 第 16 号議案 飯島町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例

日程第 20 第 17 号議案 飯島町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例

日程第 21 第 18 号議案 令和6年度飯島町一般会計補正予算（第7号）

日程第 22 第 19 号議案 令和6年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算（第5号）

日程第 23 第 20 号議案 令和6年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算（第4号）

日程第 24 第 21 号議案 令和6年度飯島町介護保険特別会計補正予算（第4号）

日程第 25 第 22 号議案 令和6年度飯島町水道事業会計補正予算（第4号）

日程第 26 第 23 号議案 令和6年度飯島町下水道事業会計補正予算（第4号）

日程第 27 第 24 号議案 令和7年度飯島町一般会計予算

- 日程第 28 第 25 号議案 令和 7 年度飯島町国民健康保険特別会計予算
- 日程第 29 第 26 号議案 令和 7 年度飯島町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第 30 第 27 号議案 令和 7 年度飯島町介護保険特別会計予算
- 日程第 31 第 28 号議案 令和 7 年度飯島町水道事業会計予算
- 日程第 32 第 29 号議案 令和 7 年度飯島町下水道事業会計予算
- 日程第 33 第 30 号議案 飯島町道路線の変更について
- 日程第 34 第 31 号議案 令和 6 年度インターネット接続系端末購入事業に関する物品売買契約の
締結について
- 日程第 35 第 32 号議案 令和 6 年度飯島町機構改革に伴うカウンター等購入事業に関する物品売
買契約の締結について

○出席議員（11名）

1番	伊藤 秀明	2番	坂井 活広
3番	折山 誠	4番	坂本 紀子
5番	宮脇 寛行	6番	浜田 稔
7番	三浦寿美子	8番	堀内 学
9番	星野 晃伸	11番	吉川 順平
12番	久保島 巖		

○欠席議員（1名）

10番 片桐 剛

○説明のため出席した者

出席を求めた者	委任者
飯島町長 唐澤 隆	副 町 長 宮下 寛 総 務 課 長 大島 朋子 企画政策課長 座光寺満輝 住民税務課長 松村 和夫 健康福祉課長 林 潤 産業振興課長 堀越 康寛 建設水道課長 片桐 雅之 地域創造課長 久保田浩克 会計管理者 松澤 京子 企画政策課財政係長 小林 正司
飯島町教育委員会 教育長 片桐 健	教 育 次 長 齊藤 鈴彦
飯島町代表監査委員 本多 昇	飯 島 町 監 査 委 員 事 務 局 長 (議会事務局長兼)

○本会議に職務のため出席した者

議会事務局長	那須野一郎
議会事務局書記	松下 知冬

本会議開会

開 会	令和7年2月25日 午前9時10分
事務局長	御起立をお願いいたします。(一同起立) 礼。(一同礼「おはようございます」) 御着席 ください。(一同着席)
議 長	おはようございます。(一同「おはようございます」) 町当局並びに議員各位におかれましては大変御苦勞さまでございます。 これから令和7年3月飯島町議会定例会を開会いたします。 本定例会におきましては本多代表監査委員の御出席をいただいております。大変御多 忙中のところ、よろしく願いをいたします。 3月定例会は、令和7年度各会計予算をはじめ、重要な案件の審議が予定されてお ります。議員各位におかれましては、会期中の本会議及び委員会審査を通じ慎重かつ精 力的に御審議いただくとともに、円滑な議事運営に御協力いただきますようお願いを いたします。 これから本日の会議を開きます。 本日の議事日程についてはお手元に配付のとおりです。 開会に当たり町長から御挨拶をいただきます。 〔唐澤町長登壇〕
町 長	おはようございます。(一同「おはようございます」) 令和7年3月議会定例会招集に当たりまして御挨拶を申し上げます。 令和7年2月3日付、飯島町告示第10号をもって令和7年3月飯島町議会定例会を 招集いたしましたところ、議員各位には、時節柄、御多忙中にもかかわらず全員の皆様の 御出席を賜り、厚くお礼を申し上げます。 また、本多代表監査委員さんにおかれましては、お忙しい中、出席を賜り、厚くお 礼を申し上げます。ありがとうございます。 さて、早いもので、あと数日で3月を迎えます。昨日までの3連休も寒波に襲われ寒 い日が続きましたけれども、いち早く春の訪れを告げるマンサクも咲き始め、これ から3月に入りますと少しずつ暖かさが増してくると思われれます。気温は平年より 高めと予想され、東日本の桜の開花は平年より早めという予報が出ております。 本格的な春の到来が待ち遠しいところでございます。 今議会では令和7年度の予算を上程いたします。 新年度予算は、公約に掲げた施策を結びつけながら第6次総合計画の将来像実現 に向け予算編成を行ってまいりました。具体的な施策につきましては、後ほど施政 方針の中で詳しく私の考えを申し上げます。 本議会定例会に提案申し上げます案件は、人事案件5件、条例案件12件、 予算案件12件、一般案件3件の計32件でございます。

いずれも重要な案件でございますので、何とぞ、慎重な御審議の上、適切なる御決定を賜りますようお願い申し上げまして、議会招集の挨拶といたします。

どうかよろしく願いいたします。

[唐澤町長降壇]

議長 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。
本議会の会議録署名議員は会議規則第122条の規定により3番 折山誠議員、4番 坂本紀子議員を指名いたします。

議長 日程第2 会期の決定についてを議題といたします。
本定例会の会期につきましては、過日開催されました議会運営委員会において協議をいただき、議会運営委員長より会期は本日から3月11日までの15日間とすることが適当との協議結果の報告がありました。

お諮りいたします。

本定例会の会期は議会運営委員長の報告のとおりといたしたいと思っておりますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長 異議なしと認めます。したがって、会期は本日から3月11日までの15日間とすることに決定いたしました。

会期の日程は事務局長から申し上げます。

事務局長 会期日程説明

議長 日程第3 諸般の報告を行います。
初めに請願、陳情等の受理について報告いたします。
受理しました請願、陳情等は、お手元の請願・陳情等文書表のとおりであり、会議規則第89条第1項及び第92条の規定により所管の常任委員会に審査を付託いたします。

次に例月出納検査における結果について報告いたします。

1月から2月における例月出納検査の結果、特に指摘事項はありません。

次に、議会閉会中の議員派遣に関する報告につきましてはお手元に配付のとおりでございます。研修等、大変御苦労さまでございました。

次に、片桐議員から本日欠席の旨の通告がありました。

次に、本会議に説明員として出席を求めた方は別紙のとおりであります。

また、本会議は新年度予算がありますので企画政策課財政係長に出席を願うことといたしました。

次に町当局からの報告を求めます。

[唐澤町長登壇]

町長 それでは、私から2件の御報告を申し上げます。
初めに飯島町土地開発公社の令和7年度事業計画及び予算について申し上げます。

飯島町土地開発公社の令和7年度事業計画及び予算につきましては、去る2月4日の飯島町土地開発公社理事会において審議をお願いし、御議決いただきましたので、その概要を地方自治法の規定により御報告申し上げます。

まず令和7年度の事業計画であります、新規での用地取得及び開発の計画はございません。

続きまして完成土地の売却について、栗加工販売施設用地の分割売却は令和7年度末に完了となる見込みでございます。

残る住宅分譲地は親町の1区画のみとなりますので、完全売却となるよう販売促進に努めてまいります。

次に予算概要について申し上げます。

主な収入見込みとしましては、栗加工販売施設への分割売却及び住宅分譲地等の売却による土地造成事業収益により、収入合計でおよそ3,000万円を予定しております。

これに対しまして、支出見込みとしましては、土地造成事業原価およそ2,930万円など、事業支出およそ3,130万円を予定しており、この結果、単年度収支ではおよそ130万円の赤字となる予算でございます。

詳しくはお手元の事業計画及び予算書のとおりですので、御覧いただきたいと思っております。

続きまして株式会社エコーシティー・駒ヶ岳の令和7年度事業計画及び予算計画について申し上げます。

株式会社エコーシティー・駒ヶ岳の令和7年度事業計画及び予算計画につきまして去る2月12日開催の取締役会におきまして承認されましたので、地方自治法の規定によりその概要を報告いたします。

初めに本年度の事業実施状況等につきまして御報告申し上げます。

加入状況につきましては、テレビサービスが微減、インターネット、電話の各サービスは純増となっております。

また、大手通信事業者との提携サービスは引き続き順調に契約が増えております。

決算見込みにつきましては、データ放送システム導入等の設備投資が計画どおりに進んだこと及びインターネットの加入者数が順調に伸びたこと等から、予算計画を上回る利益を計上できる見通しでございます。

詳しい内容につきましては6月定例会で報告をさせていただきます。

次に令和7年度の事業計画及び予算計画について御説明を申し上げます。

資料を御覧いただきたいと存じます。

基本方針は本年度とほぼ同様でございます。

運営方針につきましても、主には本年度と同様でございますが、地域DXの推進ではデータ放送を利用して地域回覧板の実証実験を駒ヶ根で実施してまいります。当初はデータテキストによる地域回覧版の実証実験となります。

また、引き続き人材育成として研修の強化や地域振興事業等に積極的に関わり、連携の拡大を図ってまいります。

主な事業計画といたしましては、新しいサービスの展開と次世代サービスの研究でパスルー方式による新たな多チャンネル放送サービスの運用を開始します。これは、現在はテレビ1台ずつにセットトップボックス——S T Bでございますけれども——の取り付けが必要でございますが、それらが老朽化により故障等も増えていることから、直接各家庭へ電波で配信することでセットトップボックス——S T Bがなくてもテレビ単体で多チャンネルサービスを楽しめるものです。これらにつきましては、C S波を利用してサービスを開始する予定でございます。

予算概要につきましては、営業利益として6,030万円、営業外利益として1,120万円、合計7,150万円の利益を見込んでおります。詳しくはお手元の事業計画及び予算計画のとおりです。御覧いただきたいと存じます。

なお、今回の取締役会において役付取締役の選任について提案され、承認されております。

以上2件について御報告を申し上げます。よろしく願いいたします。

〔唐澤町長降壇〕

議長 長 ただいま町長から報告のありました2件につきましては、最終日の議会全員協議会で質疑を受けることといたしますので、よろしく願いいたします。

以上で諸般の報告を終わります。

ここで暫時休憩といたします。そのままお待ちください。

休憩 午前9時24分

再開 午前9時24分

議長 長 会議を再開いたします。

議長 長 日程第4 第1号議案 飯島町教育長の任命についてを議題といたします。

事務局に議案を朗読させます。

事務局長 議案朗読

議長 長 本案につきましての提案理由の説明を求めます。

〔唐澤町長登壇〕

町長 第1号議案 飯島町教育長の任命について提案理由の説明を申し上げます。

現在、教育長としてお務めいただいております片桐健さんがこの3月31日をもって任期満了となります。

任期満了後の教育長として山積する多くの教育課題に対処していただくため、また人格、見識とも最適と考え、片桐健氏を引き続き教育長として任命いたしたく、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第1項の規定により議会の同意をお願いするものでございます。

経歴につきましてはお手元の資料を御覧ください。

なお、任期につきましては、地方行政の組織及び運営に関する法律第5条第1項の規定により令和4年4月1日から3年間でございます。

よろしく御審議の上、御同意を賜りますようお願い申し上げます。

[唐澤町長降壇]

議 長 これより質疑を行います。

質疑はありませんか。

6 番

浜田議員

片桐教育長は、在任中、非常に適切な業務の遂行をしたと思っておりますけれども、一般質問において個人的な意見ですがということで個人的な意見を発言されたことがありました。それで、これは公人としての役割を超えたものではないかと思っておりますけれども、推薦側としてはどういうふうに考えているのか、お尋ねいたします。

町 長

私もそのような発言を確認しておりますけれども、一つの参考例として個人的な意見を申されたということで、全体の教育行政につきましては、教育委員会内部、また教育委員会議等で確認されておりますので、問題はないと考えております。

議 長

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

この議案は討論を省略し、これより第1号議案 飯島町教育長の任命についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本案は、これに賛成する方の起立を求めます。

[賛成者起立]

議 長

お座りください。(起立者着席)

起立多数です。したがって、第1号議案は原案のとおり同意することになりました。

暫時休憩といたします。しばらくお待ちください。

休 憩

午前9時29分

再 開

午前9時30分

議 長

会議を再開いたします。

ここで、ただいま教育長に選任同意されました片桐健さんから御挨拶をいただきます。

[片桐教育長登壇]

教 育 長

ただいま議会の皆様から御承認をいただき2期目の教育長として新たに出発することになりました。

たくさんの地域の皆さんのお支えをいただきながら、何とかここまで3年間、私なりに取り組んでまいることができました。

しかしながら、まだまだ道半ばであることを今実感しております。今後スタートする

こども家庭センターのこと、令和10年度に開催される国民スポーツ大会のこと、町内スポーツ施設の在り方、第三の居場所のこと、歴史資料保存に関わって陣嶺館のこと、文化館及び文化館周辺の居場所づくりなどの取組や部活動の地域クラブ化に向けての取組、町内小中学校の在り方等、具体的に検討して取り組んでいかなければならないことが数多くあります。

しかしながら、そのような状況の中でも忘れてはならないこととして何よりも大切にしなければならないと考えているのは、飯島の子どもたちや地域の皆さんがそれぞれの持ち味を生かして交じり合い、触れ合い、支え合い、学び合うこと、寄せ鍋の学びに向かうことだと思っております。そんな寄せ鍋の学びの力によるまちづくりを通して、子どもたちからお年寄りまで、地域の全ての皆さんが笑顔で過ごす日々を実現させ、すてきなふるさと飯島を実現させていきたいと思っております。

とはいえ、所詮、力不足の私であります。議会の皆様をはじめ、町職員の皆様、地域の皆様、そして子どもたちの力をお借りしながら、小さくても確かな一歩の歩みを前に進めるべく、精いっぱい取り組んでまいりたいと思っております。

簡単ではございますが、教育長としての所信の一端をお話しさせていただきました。

どうぞよろしくお願いいたします。(一同拍手)

[片桐教育長降壇]

議長 長 ありがとうございます。

議長 長 日程第5 第2号議案 飯島町教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

事務局長に議案を朗読させます。

事務局長 議案朗読

議長 長 本案についての提案理由の説明を求めます。

[唐澤町長登壇]

町長 第2号議案 飯島町教育委員会委員の任命について提案理由の説明を申し上げます。

本年3月31日付をもちまして、2期8年、教育委員として町の教育行政のために御尽力をいただきました桃澤宗夫さんが退任されることになりました。ここに改めて町教育行政に対する御尽力に感謝を申し上げたいと思います。

任期満了後の教育委員として御提案申し上げます本郷第4自治会、鈴木むつみさんは、お手元の経歴書にございますとおり、昭和53年3月に信州大学教育学部国語科を卒業後、同年4月に長野県立伊那養護学校に勤務されました。その後、長野県立飯田養護学校に御勤務されるなど、長年、養護学校での教育の場で御勤務されております。これまでの経験を生かし、教育行政の振興に御尽力いただけるものと思っております。

つきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定により議会の同意をお願いするものでございます。

なお、任期につきましては令和7年4月1日から令和11年3月31日までの4年間となります。

よろしく御審議の上、御同意を賜りますようお願い申し上げます。
 [唐澤町長降壇]

議 長 これから質疑を行います。
 質疑はありませんか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 質疑なしと認めます。
 これで質疑を終わります。
 本案は討論を省略し、これから第2号議案 飯島町教育委員会委員の任命についてを採決いたします。
 この採決は起立によって行います。
 お諮りいたします。
 本案は、これに同意することに賛成の方は御起立をお願いします。
 [賛成者起立]

議 長 着席ください。(起立者着席)
 起立全員です。よって、第2号議案は原案のとおり同意することに決定いたしました。
 ここで、ただいま任命に同意いただきました鈴木むつみさんに御挨拶をいただくところではありますが、所要のため本日は欠席の御連絡をいただいておりますので、省略いたします。

議 長 日程第6 第3号議案 人権擁護委員候補者の推薦について
 を議題といたします。
 事務局長に議案を朗読させます。

事務局長 議案朗読

議 長 本案についての提案理由の説明を求めます。
 [唐澤町長登壇]

町 長 第3号議案 人権擁護委員候補者の推薦について提案理由の説明を申し上げます。
 人権擁護委員は法務大臣が任命する委員で、任期は3年となっております。
 町では4名の委員にお務めいただいておりますが、現任の伊藤洋子さんが本年6月30日をもって任期満了となるため、後任の委員候補者として、再度、伊藤洋子さんを法務省に推薦するに当たり議会の意見を求めるものでございます。
 任期は令和7年7月1日から令和10年6月30日までの3か年となります。
 なお、法務省の手続は任命までに3か月程度を要するため、今議会での御審議をいただき、御同意を賜りますようお願い申し上げます。

[唐澤町長降壇]

議 長 これから質疑を行います。
 質疑ありませんか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案は討論を省略し、これから第3号議案 人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りいたします。

本案は、これに同意することに賛成の方は御起立を願います。

[賛成者起立]

議長 長 お座りください。(起立者着席)

起立全員です。よって、第3号議案は原案のとおり同意することに決定いたしました。

議長 長 日程第7 第4号議案 人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

事務局長に議案を朗読させます。

事務局長 議案朗読

議長 長 本案についての提案理由の説明を求めます。

[唐澤町長登壇]

町長 第4号議案 人権擁護委員候補者の推薦について提案理由の説明を申し上げます。

人権擁護委員は先ほど申しあげましたように法務大臣が任命する委員で、任期は3年でございます。

現在お務めいただいております倉澤信二さんが本年6月30日をもって任期満了となります。

任期満了後の後任の委員候補者として堀内誠さんを法務省に推薦するに当たり議会の意見を求めるものでございます。

任期は令和7年7月1日から令和10年6月30日までの3か年となります。

なお、法務省の手続は任命までに3か月程度を要するため、今議会での御審議いただき、御同意を賜りますようお願い申し上げます。

[唐澤町長降壇]

議長 長 これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

議長 長 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案は討論を省略し、これから第4号議案 人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りいたします。

本案は、これに同意することに賛成の方は御起立を願います。

[賛成者起立]

議 長 お座りください。(起立者着席)
起立全員です。よって、第4号議案は原案のとおり同意することに決定いたしました。

議 長 日程第8 第5号議案 飯島町固定資産評価審査委員会委員の選任について
を議題といたします。
事務局長に議案を朗読させます。

事務局長 議案朗読

議 長 本案についての提案理由の説明を求めます。
[唐澤町長登壇]

町 長 第5号議案 固定資産評価審査委員会委員の選任について提案理由の説明を申し上げます。
本年3月31日付をもちまして、2期6年間、固定資産評価審査委員として町の固定資産課税台帳の価格に関する審査のために御尽力をいただきました内山喜夫さんが任期満了により退任されることになりました。ここに改めて御尽力に感謝を申し上げます。
任期満了後の固定資産評価審査委員として御提案を申し上げます本郷第6自治会の三石昌志さんは、お手元の経歴書にございますとおり、これまでの経験を生かして御尽力いただけるものと思っております。
つきましては、地方税法第423条第3項の規定により議会の同意をお願いするものであります。
なお、任期につきましては令和7年4月1日から令和10年3月31日までの3か年となります。
よろしく御審議の上、御同意を賜りますようお願い申し上げます。
[唐澤町長降壇]

議 長 これから質疑を行います。
質疑はありますか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 質疑なしと認めます。
これで質疑を終わります。
本案は討論を省略し、これから第5号議案 飯島町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを採決いたします。
この採決は起立によって行います。
お諮りいたします。
本案は、これに同意することに賛成の方は御起立を願います。
[賛成者起立]

議 長 お座りください。(起立者着席)
起立全員です。したがって、第5号議案は原案のとおり同意することに決定いたしました。

議 長	<p>日程第 9 第 6 号議案 飯島町生物多様性保全条例</p> <p>を議題といたします。</p> <p>本案について提案理由の説明を求めます。</p> <p>〔唐澤町長登壇〕</p>
町 長	<p>第 6 号議案 飯島町生物多様性保全条例の制定について提案理由の説明を申し上げます。</p> <p>飯島町は豊かな自然環境と生物の多様性が育むあらゆる恵みを楽しんでおります。この貴重な環境を私たちは祖先から受け継ぎ、末永く後世まで伝えていく必要があります。このため、町民等の協働による生物多様性保全活動の推進、生息地の保全、種の指定と保全等を行い、人と自然が共生する文化の醸成と町民一丸となったまちづくりを推進するため本条例を制定するものでございます。</p> <p>細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願いいたします。</p> <p>〔唐澤町長降壇〕</p>
住民税務課長	<p>補足説明</p>
議 長	<p>提案理由の説明がありました。</p> <p>これから質疑を行います。</p> <p>なお、議事運営上、ここでは総括的な事項につき質疑されるようお願いいたします。質疑はありませんか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
議 長	<p>質疑なしと認めます。</p> <p>これで質疑を終わります。</p> <p>ここでお諮らいたします。</p> <p>ただいま議題となっております第 6 号議案は社会文教委員会に付託し審査することにいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。</p> <p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
議 長	<p>異議なしと認めます。したがって、第 6 号議案は社会文教委員会に付託することに決定いたしました。</p>
議 長	<p>日程第 10 第 7 号議案 飯島町議会の個人情報の保護に関する条例等の一部を改正する条例</p> <p>を議題といたします。</p> <p>本案について提案理由の説明を求めます。</p> <p>〔唐澤町長登壇〕</p>
町 長	<p>第 7 号議案 飯島町議会の個人情報の保護に関する条例等の一部を改正する条例について提案理由の説明を申し上げます。</p> <p>情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律の施行</p>

期日を定める政令が公布されたことに伴いまして、関係する条例について改正をするものでございます。

細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。

[唐澤町長降壇]

総務課長

補足説明

議 長

提案理由の説明がありました。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

初めに反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

次に賛成討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第7号議案 飯島町議会の個人情報の保護に関する条例等の一部を改正する条例を採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

異議なしと認めます。したがって、第7号議案は原案のとおり可決されました。

議 長

日程第11 第8号議案 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例

を議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。

[唐澤町長登壇]

町 長

第8号議案 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例について提案理由の説明を申し上げます。

育児・介護休業法の改正により人事院規則の一部が改正されたことに伴い、町の職員につきましても国家公務員に準じた改正を行うものでございます。

内容としましては、超過勤務の免除の対象となる子の範囲の拡大、介護離職防止のた

めの強化をするものでございます。

細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。

〔唐澤町長降壇〕

総務課長 補足説明

議 長 これから質疑を行います。
質疑はありませんか。

4 番

坂本議員 1つ質問いたします。
この項には配偶者の範囲は書いてあるわけですが、その範囲が、距離、要するに国内や国外までを含むという理解——距離は書いてないんですが、それはどうなっているのでしょうか。

総務課長 基本的には同居の方というふうに認識をしておりますが、また状況によりまして状況を聞きながらしていきたいと思いますが、基本的には同居の方というふうに認識しております。

議 長 ほかに。

2 番

坂井議員 すみません、2点あるんですけども、現行の改正案も職員が請求した場合には残業させてはならないという規定になっていて、職員の請求というのが基になっているんですけども、過去、年間平均でどの程度この請求っていうのがあったのかっていうのが1点と、あと、請求するっていう関係上、本人が言わないといけないんですけども、本人が言いやすいような環境整備についてはどのように考えているのか、答弁を求めます。

総務課長 請求の件数ですけども、具体的に、請求は、ここ近年はないかというふうに認識をしております。
それから……。はい。

副 町 長 これを実施するに当たりましては、これが可決になった後になると思いますが、職員に対して周知をする必要があると思っております、当然、ないと申出ができないというふうに理解をしておりますので。今までは、総務課長が申しますとおり、なかったというふうに理解をしておりますけども、これからは多分あるだろうなというふうに思っておりますので、そんな周知をしてまいりたいというふうに思っております。
以上です。

議 長 ほかに質疑はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 質疑なしと認めます。

6 番

浜田議員 周知しなければいけないという話と、それから、新旧対照表の2ページの12条の3第2項、任命権者は職員に対して当該職員が40歳に達したときに事項を知らせなければい

けないと、この40歳の規定って今の説明と整合しているんでしょうか、お尋ねいたします。

副町長 40歳ぐらいになると介護の関係が始まってくるというふうな、そういう状況に陥る職員が多くなるというふうに理解をしております。

実際に、うちの職員の中でもそんな関係になっている、ちょっと見受けられる部分がございますので、そこら辺に対する——法的に40歳というのはちょっと私のほうでよく理解をしておりますけれども、そんぐらいの理解ではないかというふうに理解しております。

以上です。

議長 よろしいですか。

6番

浜田議員 40歳でなければならないという話と一般的に周知するという話との関係は一体どうなっているんでしょうか、御説明をお願いします。

副町長 こういうものができたよっていうことは一般の職員にも全部お知らせする必要はあるという理解をしておりますので、状況により40歳以上の方がそういう状況に陥る可能性が高いという理解でございます。

4番

坂本議員 今、副町長の発言で、法的にっていうことは、国が40歳というふうにしているの、うちの町も40歳ということなんですか。

あともう一つは、40歳より若い世代でこういう現実的なことが起こった場合は、対応はどうするんでしょうか。

総務課長 40歳というのは、介護保険の該当に——保険料の徴収とかも40歳っていうところで、今回の人事院勧告の中でも40歳ということを示されているところがございますので、こちらのほうも40歳というところで周知をするということになっております。（「40歳より若い人はどうするか」と呼ぶ者あり）

総務課長 説明をするというところでここでは定義しておりますけれども、年齢に関係なく、介護が必要になった場合は申出をしていただくというところになっております。年齢は関係ないというふうに認識しております。

議長 坂本議員、3回目です。

4番

坂本議員 もう一度確認しますが、ということは、40歳より若い年齢で状況的にこういう状況になった場合は対応できるという認識でいいんですか。

総務課長 そういうふうに思っております。認識しています。

議長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長 じゃ質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

初めに反対討論はありませんか。
 〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長 長
 2番
 坂井議員 次に賛成討論はありませんか。

賛成の立場で討論をいたします。
 制度改正の趣旨自体はとてもいいものだと思っております。
 ただ、過去にこういった請求の事例がないってということだったので、先ほど副町長のおっしゃったとおり、職員に対する周知、または言いやすい環境の整備というものをしていたきたいということを求めて、賛成といたします。

議長 長
 2番
 坂本議員 ほかに……。

私も賛成の立場で討論いたします。
 非常に、これ、国で、上位で決まったことを、またすぐ町で行うというのは非常にいいことでありまして、公務員の間でこれが周知されて、一般企業のほうにまで波及できるような形に、皆さんの認識がそうなればいいかと思えます。
 これからの高齢化社会は、やはり若い方々に頼らざるを得ない状況もありますので、この制度をしっかりと周知して、役場内で認識を高めていただきたいと思います。

議長 長 ほかに討論はありませんか。
 〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長 長 討論なしと認めます。
 これで討論を終わります。
 お諮りいたします。
 これから第8号議案 職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例を採決いたします。
 お諮りいたします。
 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長 長 異議なしと認めます。したがって、第8号議案は原案のとおり可決されました。

議長 長 日程第12 第9号議案 公益的法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例
 を議題といたします。
 本案について提案理由の説明を求めます。
 〔唐澤町長登壇〕

町 長 第9号議案 公益的法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例について提案理由の説明を申し上げます。
 令和6年人事院勧告に基づき国家公務員の寒冷地手当が改正されたことに伴い、公益的法人等への派遣職員への支給できる手当において寒冷地手当が廃止となる改正をする

ものでございます。

細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。

[唐澤町長降壇]

総務課長 補足説明

議 長 これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

初めに反対討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 次に賛成討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第9号議案 公益的法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例を採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

議 長 異議なしと認めます。したがって、第9号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 日程第13 第10号議案 飯島町特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例

を議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。

[唐澤町長登壇]

町 長 第10号議案 飯島町特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例につきまして提案理由の説明を申し上げます。

令和6年人事院勧告に基づき国家公務員の寒冷地手当が改正されたことに伴い、町の常勤の特別職の職員へ支給する寒冷地手当においても寒冷地手当を廃止するよう改正するものでございます。

細部につきましては担当課長から説明を申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。

[唐澤町長降壇]

総務課長 補足説明

議	長	これから質疑を行います。 質疑はありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	質疑なしと認めます。 これで質疑を終わります。 これから討論を行います。 初めに反対討論はありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	次に賛成討論はありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	討論なしと認めます。 これで討論を終わります。 これから第 10 号議案 飯島町特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する 条例を採決いたします。 お諮りいたします。 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	異議なしと認めます。したがって、第 10 号議案は原案のとおり可決されました。
議	長	日程第 14 第 11 号議案 飯島町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する 条例 を議題といたします。 本案について提案理由の説明を求めます。 〔唐澤町長登壇〕
町	長	第 11 号議案 飯島町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例につ きまして提案理由の説明を申し上げます。 令和 6 年の人事院勧告に基づき一般職の国家公務員の給与に関する法律が一部改正さ れたことに伴い、町の一般職の職員の給与について国家公務員に準じた改正を行うもの でございます。 内容は、寒冷地手当の廃止と、それに伴う経過措置を定めるものとなります。 また、扶養手当につきましては、配偶者に対する手当の廃止と、子に関する手当を 1 万 3,000 円へ増額するもの等の改定となります。 細部につきましては担当課長から説明を申し上げますので、よろしく御審議の上、御 議決を賜りますようお願い申し上げます。 〔唐澤町長降壇〕
総務課長		補足説明
議	長	説明を終わりました。 これから質疑を行います。

議長 質疑はありませんか。
 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
 議長 質疑なしと認めます。
 これで質疑を終わり、これから討論を行います。
 初めに反対討論はありませんか。
 議長 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
 議長 次に賛成討論はありませんか。
 議長 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
 議長 討論なしと認めます。
 これで討論を終わります。
 これから第 11 号議案（「議長」と呼ぶ者あり） 1 番 伊藤さん。
 1 番
 伊藤議員 動議を出しますけど、トイレ休憩をやりたいと思いますが……
 議長 はい。じゃこれが終わりましたら……。
 議長 討論なしと認めます。
 これで討論を終わります。
 これから第 11 号議案 飯島町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を採決いたします。
 お諮りいたします。
 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
 議長 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
 議長 異議なしと認めます。したがって、第 11 号議案は原案のとおり可決されました。
 ここで休憩を取ります。再開時刻を 10 時 35 分といたしたいと思いますが、いかがですか。
 10 時 35 分再開といたします。休憩。
 休憩
 再開
 議長 会議を再開いたします。
 議長 日程第 15 第 12 号議案 飯島町公園条例の一部を改正する条例を議題といたします。
 本案について提案理由の説明を求めます。
 〔唐澤町長登壇〕
 町長 第 12 号議案 飯島町公園条例の一部を改正する条例について提案理由の説明を申し上げます。
 本条例案は、坊主平キャンプ場において今後の有料化のため利用料金を定める所要の

		改正を行うものでございます。
		細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。
		〔唐澤町長降壇〕
地域創造課長	補足説明	
議 長		これから質疑を行います。
		質疑はありませんか。
		〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議 長		質疑なしと認めます。
		これで質疑を終わります。
		これから討論を行います。
		初めに反対討論はありませんか。
		〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議 長		次に賛成討論はありませんか。
		〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議 長		討論なしと認めます。
		これで討論を終わります。
		これから第 12 号議案 飯島町公園条例の一部を改正する条例を採決いたします。
		お諮りいたします。
		本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
		〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
議 長		異議なしと認めます。したがって、第 12 号議案は原案のとおり可決されました。
議 長		日程第 16 第 13 号議案 飯島町水道事業及び水道用水供給事業並びに下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例
		を議題といたします。
		本案について提案理由の説明を求めます。
		〔唐澤町長登壇〕
町 長		第 13 号議案 飯島町水道事業及び水道用水供給事業並びに下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例につきまして提案理由の説明を申し上げます。
		議会の同意を要する賠償責任の免除の規定につきまして、引用する地方自治法の部改正により所要の改正をするものでございます。
		細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。
		〔唐澤町長降壇〕
建設水道課長	補足説明	
議 長		これから質疑を行います。
		質疑はありませんか。

議 長	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>質疑なしと認めます。</p> <p>これで質疑を終わります。</p> <p>これから討論を行います。</p> <p>初めに反対討論はありませんか。</p>
議 長	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>次に賛成討論はありませんか。</p>
議 長	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>討論なしと認めます。</p> <p>これで討論を終わります。</p> <p>これから第 13 号議案 飯島町水道事業及び水道用水供給事業並びに下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例を採決いたします。</p> <p>お諮りいたします。</p> <p>本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。</p>
議 長	<p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>異議なしと認めます。したがって、第 13 号議案は原案のとおり可決されました。</p>
議 長	<p>日程第 17 第 14 号議案 企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例</p> <p>を議題といたします。</p> <p>本案について提案理由の説明を求めます。</p>
町 長	<p>〔唐澤町長登壇〕</p> <p>第 14 号議案 企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例につきまして提案理由の説明を申し上げます。</p> <p>令和 6 年人事院勧告等に基づいた国家公務員の各種手当の改正に伴い、企業職員の各種手当について所要の改正をするものでございます。</p> <p>細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決賜りますようお願い申し上げます。</p>
建設水道課長	<p>〔唐澤町長降壇〕</p> <p>補足説明</p>
議 長	<p>これから質疑を行います。</p> <p>質疑はありませんか。</p>
議 長	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>質疑なしと認めます。</p> <p>これで質疑を終わります。</p> <p>これから討論を行います。</p> <p>初めに反対討論はありませんか。</p>
議 長	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>

議 長 次に賛成討論はありませんか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 討論なしと認めます。
 これで討論を終わります。
 これから第 14 号議案 企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例を採決いたします。
 お諮りいたします。
 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
 [「異議なし」と呼ぶ者あり]

議 長 異議なしと認めます。したがって、第 14 号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 日程第 18 第 15 号議案 飯島町公共下水道条例の一部を改正する条例を議題といたします。
 本案について提案理由の説明を求めます。
 [唐澤町長登壇]

町 長 第 15 号議案 飯島町公共下水道条例の一部を改正する条例につきまして提案理由の説明を申し上げます。
 国が定めております標準下水道条例の改正によりまして所要の改正をするものでございます。
 細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。
 [唐澤町長降壇]

建設水道課長 補足説明

議 長 これから質疑を行います。
 質疑はありませんか。

4 番 坂本議員 今、群数と、それから菌数っていうふうな発言したんですけど、具体的に内容はどう違ってくるのでしょうか。

建設水道課長 具体的な内容ということでございます。
 大腸菌群数っていうのは、本来、ふん尿汚染のものを評価する検査項目であるんですけども、自然由来で、そもそもふん尿汚染に関わりのない菌も含めた——検査が、今までは、今までの技術の関係上、全てを含めた菌群数でしか数を数えられなかったところが、近年の技術によりましてふん尿汚染に直接関わる大腸菌を検査できるようになったことから、この改正が行われております。

議 長 よろしいですか。
 そのほか質疑ありませんか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。
これから討論を行います。
初めに反対討論はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 次に賛成討論はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 討論なしと認めます。
これで討論を終わります。
これから第 15 号議案 飯島町公共下水道条例の一部を改正する条例を採決いたします。
お諮りいたします。
本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、第 15 号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 日程第 19 第 16 号議案 飯島町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例を議題といたします。
本案について提案理由の説明を求めます。
〔唐澤町長登壇〕

町 長 第 16 号議案 飯島町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例につきまして提案理由の説明を申し上げます。
非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令の一部が改正されたことに伴い、損害補償の額の算定の基礎となる補償基礎額及び扶養に係る補償基礎額の加算額について所要の改正を行うものでございます。
細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。
〔唐澤町長降壇〕

総務課長 補足説明

議 長 これから質疑を行います。
質疑はありませんか。

4 番

坂本議員 この改正による金額はどの程度変わってくるのでしょうか。

総務課長 金額は、補償基礎額ということで 9,100 円が 9,700 円に改められて、階級ごとにそれぞれ単価が上がりますので、補償の額につきましては、その障害の程度にもよりますので、ちょっとそこのところは分かりませんが、単価が上がるということでございます。

議 長 よろしいですか。
ほかに質疑はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議	長	<p>質疑なしと認めます。</p> <p>これで質疑を終わります。</p> <p>これから討論を行います。</p> <p>初めに反対討論はありませんか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
議	長	<p>次に賛成討論はありませんか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
議	長	<p>討論なしと認めます。</p> <p>これで討論を終わります。</p> <p>これから第 16 号議案 飯島町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例を採決いたします。</p> <p>お諮りいたします。</p> <p>本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。</p> <p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
議	長	<p>異議なしと認めます。したがって、第 16 号議案は原案のとおり可決されました。</p>
議	長	<p>日程第 20 第 17 号議案 飯島町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例</p> <p>を議題といたします。</p> <p>本案について提案理由の説明を求めます。</p> <p>〔唐澤町長登壇〕</p>
町	長	<p>第 17 号議案 飯島町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例につきまして提案理由の説明を申し上げます。</p> <p>消防団員等公務災害補償等責任共済等に関する法律施行令の一部を改正する政令が公布され、非常勤消防団員に対する退職報償金につきまして、消防団員等公務災害補償等共済基金が市町村に支払う消防団員退職報償金の区分に新たに 35 年以上の区分が追加されたことに伴いまして所要の改正を行うものでございます。</p> <p>細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>〔唐澤町長降壇〕</p>
総務課長		<p>補足説明</p>
議	長	<p>これから質疑を行います。</p> <p>質疑はありませんか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
議	長	<p>質疑なしと認めます。</p> <p>これで質疑を終わります。</p> <p>これから討論を行います。</p> <p>初めに反対討論はありませんか。</p>

議 長 「なし」と呼ぶ者あり
次に賛成討論はありませんか。

4 番 坂本議員 賛成をいたしますが、35 年以上と枠が広がったことで消防団員の数が少しは増えればと思っておりますが、取りあえずこれを多くの方々に周知しないと参加もしていただけないと思いますので、その点を、PR をよくしていただいて、今後に期待したいと思います。

議 長 ほかに討論はありませんか。

議 長 「なし」と呼ぶ者あり
討論なしと認めます。
これで討論を終わります。
これから第 17 号議案 飯島町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例を採決いたします。
お諮りいたします。
本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

議 長 「異議なし」と呼ぶ者あり
異議なしと認めます。したがって、第 17 号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 日程第 21 第 18 号議案 令和 6 年度飯島町一般会計補正予算（第 7 号）
日程第 22 第 19 号議案 令和 6 年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算（第 5 号）
日程第 23 第 20 号議案 令和 6 年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 4 号）
日程第 24 第 21 号議案 令和 6 年度飯島町介護保険特別会計補正予算（第 4 号）
日程第 25 第 22 号議案 令和 6 年度飯島町水道事業会計補正予算（第 4 号）
日程第 26 第 23 号議案 令和 6 年度飯島町下水道事業会計補正予算（第 4 号）
以上 6 議案を一括議題といたします。
それでは本 6 議案について提案理由の説明を求めます。
〔唐澤町長登壇〕

町 長 第 18 号議案から第 23 号議案につきまして一括して提案理由の説明を申し上げます。
まず第 18 号議案 令和 6 年度飯島町一般会計補正予算（第 7 号）について申し上げます。
予算の規模につきましては、歳入歳出予算の総額にそれぞれ 3,437 万 3,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 64 億 8,193 万 5,000 円とするものでございます。
今回の補正につきましては、令和 6 年度の当初予算及び補正予算により各種の事務事業を実施してまいりましたが、決算を迎えるに当たり、事業実績等の見通しによる調整、そのほか 3 月中に事業執行が必要な経費の補正を行うものでございます。
なお、これから 3 月末にかけて流動的な事務事業もありますので、必要に応じて 3 月 31 日付で補正をしなければならないもの、また繰越明許費として次年度にわたって事業

を実施するものが見込まれますので、精査の上、必要な措置を講じてまいりたいと考えております。

主な歳入の内容につきましては、国庫支出金ではG I G Aスクール端末更新事業をおよそ 400 万円、町債では公営住宅建設事業債を 880 万円減額する一方、町税は固定資産税におよそ 100 万円、国庫支出金では新しい地方経済・生活環境創生交付金におよそ 1,150 万円、社会資本整備総合交付金事業補助金におよそ 890 万円、町債では一般補助施設整備等事業債に 1,150 万円増額する補正を計上いたしました。

次に、主な歳出の内容につきましては、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金を 2,900 万円、民間宅地開発支援事業補助金を 200 万円、上伊那広域連合の情報センター負担金等をそれぞれ減額する一方、J R七久保駅に係る防災トイレ整備工事及び設計監理業務におよそ 2,300 万円、介護保険事業特別会計繰入金におよそ 740 万円、中央道跨水路橋に係る県営事業花の里地区負担金におよそ 630 万円増額する補正を計上いたしました。

そのほか、各種事務事業において決算を見込み、それぞれ補正計上したところでございます。

続きまして第 19 号議案 令和 6 年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算（第 5 号）について提案理由の説明を申し上げます。

予算規模につきましては、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 219 万 5,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 9 億 3,968 万 8,000 円とするものでございます。

今回の補正につきましては、国民健康保険の収納状況、国庫支出金の交付決定等により補正するものでございます。

歳入では、国民健康保険税を 107 万 4,000 円、国庫支出金を 93 万 7,000 円、繰入金を 13 万 5,000 円、諸収入を 11 万 4,000 円、それぞれ増額し、使用料及び手数料は 6 万 5,000 円を減額、歳出では総務費を 20 万 1,000 円増額し、差額を予備費で調整するものでございます。

続きまして第 20 号議案 令和 6 年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 4 号）について提案理由の説明を申し上げます。

予算規模につきましては、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ 118 万 9,000 円を減額し、歳入歳出それぞれ 1 億 8,620 万円とするものでございます。

今回の補正につきましては、今年度の後期高齢者医療保険料の賦課状況等により補正をするものでございます。

歳入では、後期高齢者医療保険料を 120 万 2,000 円減額し、繰入金を 1 万 3,000 円増額、歳出では総務費を 1 万 3,000 円増額し、後期高齢者医療広域連合納付金を 120 万 2,000 円減額するものでございます。

続きまして第 21 号議案 令和 6 年度飯島町介護保険特別会計補正予算（第 4 号）について提案理由の説明を申し上げます。

予算規模につきましては、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 6,827 万 5,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 12 億 919 万 9,000 円とするものでございます。

今回の補正につきましては、保険給付費、また地域支援事業費を補正するものでございます。

歳入では、国庫支出金を1,695万9,000円、支払基金交付金を1,876万5,000円、県支出金を1,000万7,000円、繰入金を2,248万9,000円、諸収入を5万5,000円、それぞれ増額し、歳出では総務費を119万9,000円減額し、保険給付費を6,800万円、地域支援事業費を150万円、基金積立金を5万6,000円、それぞれ増額し、差額を予備費で調整するものでございます。

続きまして第22号議案 令和6年度飯島町水道事業会計補正予算(第4号)について提案理由の説明を申し上げます。

今回の補正につきましては、収益的収支の収入及び支出に関する補正を行うものでございます。

まず収入につきましては、衛星画像を活用した漏水調査の実績により営業外収益補助金を94万3,000円減額し、収益総額を2億4,161万3,000円とするものです。

次に、支出につきましては、営業外費用消費税を決算見込みにより210万円増額、不能欠損処理のため特別損失を6万4,000円増額、支出総額を2億3,625万2,000円とするものでございます。

続きまして第23号議案 令和6年度飯島町下水道事業会計補正予算(第4号)につきまして提案理由の説明を申し上げます。

今回の補正につきましては、移動式汚泥脱水車の売却処分に関する収益的収支の支出及び資本的収支の収入に関する補正を行うものでございます。

まず収益的収支の支出につきまして、移動式汚泥脱水車の中川村負担分としまして営業外費用を121万円、固定資産売却損として特別損失を414万4,000円、それぞれ増額し、支出総額を4億2,692万円とするものでございます。

次に、資本的収支の収入につきましては、移動式汚泥脱水車売却として有形固定資産売却代金を302万5,000円増額し、収入総額を3億5,872万5,000円とするものでございます。

その他細部につきましては、第18号議案の一般会計につきましては担当課長からそれぞれ説明を申し上げ、第19号議案から23号議案までの特別会計につきましては御質問により説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。

[唐澤町長降壇]

企画政策課長	補足説明
総務課長	補足説明
住民税務課長	補足説明
健康福祉課長	補足説明
産業振興課長	補足説明
建設水道課長	補足説明
地域創造課長	補足説明

教育次長	補足説明
議長	提案理由の説明がございました。 これから本6議案に対して一括して質疑を行います。 質疑はありませんか。
6番	
浜田議員	一般会計の5ページの繰越明許についてお尋ねします。 上から3つ目からですかね、定額減税不足給付金から次のこども加算の分まで、これは国、県の事業で行われたと思うんですけども、これが年度内に終了しなかった理由は何かということと、それは全体の何割に当たるかをお尋ねします。
企画政策課長	基本的には給付に対するシステム改修を主に行っておりまして、それが間に合わずに年度内給付が難しいということでございます。実際の給付は新年度になってから給付されるってということになっておりますので、今システム改修をかけているという感じでございますので、そんな形で御理解いただけたらというふうに思っております。(浜田議員「こども加算」と呼ぶ)
	失礼しました。 定額減税の給付につきましては今進めておりますので、それ以外のこども加算等の給付については新年度になってからってということをお願いしたいと思います。
議長	ほかに。
2番	
坂井議員	14ページの1152, 17節の備品購入費なんですけれども、通話録音装置ということで、これ、趣旨としてはカスタマーハラスメント対策という趣旨でいいのかということと、あと、設置するというのは大体いつぐらいからかと、この2点をお願いします。
総務課長	おっしゃられたように、電話での苦情ですとか、あと不当要求などの電話対応のために設置をしていくものでございます。 いつ頃からってというのは、ここでもしお認めいただければ、至急、年度内に設置ができるように進めてまいります。
議長	ほかに……。
	関連で、坂井さん。
2番	
坂井議員	設置するということで……。すみません、ちょっと討論じゃないんであれなんですけども。それは積極的に評価したいんですけど、これって、事前に「録音しています」みたいなこととあって、そういうのって言うんですかね。
総務課長	これから機種を選定とかもしてまいるんですけども、ちょっと選定するときを確認をしながらやっていきたいと思います。
議長	ほかに。
4番	
坂本議員	15ページの1194の——すみません。1194じゃなかったです。すみません。 踏切の新田第一踏切の件なんですけど、ちょっとページが……。ページが分かんなくなっ

ちゃたんですけど。そこで土地の買収に時間がかかって遅れているという話だったんですけど、その具体的内容と、それから完成予定が今後どの程度ずれ込んでいくのかについてお尋ねしたいと思います。

建設水道課長

踏切内の用地交渉につきまして時間を要しているって説明をさせていただきました。その現状でございますけども、踏切内の用地についてはJ R東海とJ R貨物が土地を保有しております。それで、J R側との協議により、J R東海が代表してそこら辺の整理をするということで進めてきたところなんですけども、若干、J R貨物さんとのちょっとやり取りで時間を要しているという状況でございます。

そういうこともありまして、本来その後に行う道路改良を、先行して今回行うようにしたいと思いますので、全体の工期としては、向こう3年で計画してはいたけども、変更はないところで今のところ考えておるところでございます。

9番

星野議員

15ページに防災トイレ整備工事設計監理というのがあるんですけど、例えば、これから物を造っていくときに、その監理、設計と施工っていうのを分けてやるのは何か範囲があるのかっていうことなんですけど、今いろいろなものが高騰していて、設計をしていてその設計は駄目だよっていうことになると、また設計料がかかるっていうことにもなったりするんですけど、設計施工でいくほうが何となく効率がいいような気がするんですけど、その点はどんなふうに区別をしてやっているのかっていうことをお聞きしたいと思います。

副町長

設計というのは、設計は、あくまでもこの工事に対するどのくらいかかるか、どういうものを使うかっていう設計、本当に今頭で考えているのはそういうことでございまして、監理は、工事になったときに事業過程を監理していくっていう、そこまでやらしてもらってっていうことで設計監理というふうに委託料を盛ってあるというもので、設計業務をやった設計士さんが監理もしていただくと、こういうことで設計、監理というふうに区分——実際的には設計と監理に分かれるということでございます。

効率がいいか悪いかはちょっと分かりませんが、一連でやっていただいたほうが、我々の意図、それから設計した方の意図も伝わるということで、工事の適切な監理ができるというふうに理解しております。

議長

宮下副町長、星野さんは、工事と一緒にやったらどうか、そういうことですよね。

副町長

設計者と、それから、あと建設業者は、実際問題として別物だというふうに理解をしております、一貫発注というのもあるんですけども、我々といたしましてはこのくらいの工事ですと別に分けてやっても支障はないというふうに理解をしております。

金額的な、物すごく、昭和伊南総合病院クラスになりますとそういうことも考えなきゃいかんかなというふうに思いますけども、このくらいの、2,000万円3,000万円くらいの工事であれば、地元の業者を使うという観点もございまして、分けないでやっていくというふうにしたいと、入札を別に、分けるという、そういうことでございまして。委託と、それから工事は分けてやっていくということでございます。

議長

ほかに。

11 番	
吉川議員	19 ページ、民生費の認可保育園運営事務費の物価高騰に対する給食材料費、小学校の場合は 1 人 29 円、それから中学校の場合は 30 円っていうことで助成をするということですが、保育園の関係、これ、ちょっともう少し、150 万円、内訳をお聞かせください。
教育次長	保育園のほうの食材につきましては、保護者負担とはなっておりません。町負担となっておりますので幾らということではないんですが、全体の 6 %ほどが高騰分ということで計上させていただいております。
議 長	ほかに。
8 番	
堀内議員	24 ページにあります 4411、14 の工事請負費の道路照明って広小路の LED 化の工事なんですけれども、今工事されている一部のところを拝見しますと、やっぱり支柱の下の部分が除草剤かなにかで腐食がかなり進んでいるような形になっていると見えるんですよね。そのあたりも踏まえて、長寿命化っていうのを考えると、現状のままのものがいいのかわかっていうところはどのような考えでしょうか。
建設水道課長	やはり、鉄といますか、街路灯の肉厚が減っているようなところがあれば、そもそも換えるとか補強するとかっていう必要はあろうかと思えますけども、一応設計士さんのほうに見ていただいて見積りをいただいておりますので、塗装でいけるだろうということで今回は判断をしておるところでございます。
議 長	よろしいですか。
	ほかには。——よろしいですか。
	〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議 長	質疑なしと認めます。
	これで質疑を終わります。
	ここは案件ごとの採決になりますので、少々時間がかかりますからここで昼食にしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。
	ここでは、じゃ昼食のため休憩といたします。再開時刻を 13 時 30 分といたします。休憩。
休 憩	午前 11 時 59 分
再 開	午後 1 時 30 分
議 長	午前中に質疑が終了いたしております令和 6 年度補正予算関連 6 議案につきまして議案ごとに討論、採決を行ってまいります。
	初めに第 18 号議案 令和 6 年度飯島町一般会計補正予算（第 7 号）について討論を行います。
	初めに原案に反対討論はありませんか。
	〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議 長	次に原案に賛成討論はありませんか。

6 番

浜田議員

質問でも言いましたけれども、国と県の物価高騰に対する補助事業については、繰越明許になっていきますけれども、もう可能な限り速やかに実施することを求めて、賛成といたします。

議 長

ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第 18 号議案 令和 6 年度飯島町一般会計補正予算（第 7 号）について採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

異議なしと認めます。したがって、第 18 号議案は原案のとおり可決されました。

次に第 19 号議案 令和 6 年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算（第 5 号）について討論を行います。

初めに原案に反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

次に原案に賛成討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第 19 号議案 令和 6 年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算（第 5 号）について採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

異議なしと認めます。したがって、第 19 号議案は原案のとおり可決されました。

次に第 20 号議案 令和 6 年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 4 号）について討論を行います。

初めに原案に反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

次に原案に賛成討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第 20 号議案 令和 6 年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 4 号）について採決いたします。

		お諮りいたします。 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	異議なしと認めます。したがって、第 20 号議案は原案のとおり可決されました。 次に第 21 号議案 令和 6 年度飯島町介護保険特別会計補正予算（第 4 号）について討論を行います。 初めに原案に反対討論はありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	次に原案に賛成討論はありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	討論なしと認めます。 これで討論を終わります。 これから第 21 号議案 令和 6 年度飯島町介護保険特別会計補正予算（第 4 号）について採決いたします。 お諮りいたします。 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	異議なしと認めます。したがって、第 21 号議案は原案のとおり可決されました。 次に第 22 号議案 令和 6 年度飯島町水道事業会計補正予算（第 4 号）について討論を行います。 初めに原案に反対討論はありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	次に原案に賛成討論はありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	討論なしと認めます。 これで討論を終わります。 これから第 22 号議案 令和 6 年度飯島町水道事業会計補正予算（第 4 号）について採決いたします。 お諮りいたします。 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	異議なしと認めます。したがって、第 22 号議案は原案のとおり可決されました。 次に第 23 号議案 令和 6 年度飯島町下水道事業会計補正予算（第 4 号）について討論を行います。 初めに原案に反対討論はありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議	長	次に原案に賛成討論はありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 討論なしと認めます。
 これで討論を終わります。
 これから第 23 号議案 令和 6 年度飯島町下水道事業会計補正予算 (第 4 号) について採決いたします。
 お諮りいたします。
 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
 [「異議なし」と呼ぶ者あり]

議 長 異議なしと認めます。したがって、第 23 号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 日程第 27 第 24 号議案 令和 7 年度飯島町一般会計予算
 日程第 28 第 25 号議案 令和 7 年度飯島町国民健康保険特別会計予算
 日程第 29 第 26 号議案 令和 7 年度飯島町後期高齢者医療特別会計予算
 日程第 30 第 27 号議案 令和 7 年度飯島町介護保険特別会計予算
 日程第 31 第 28 号議案 令和 7 年度飯島町水道事業会計予算
 日程第 32 第 29 号議案 令和 7 年度飯島町下水道事業会計予算
 以上 6 議案を一括議題といたします。
 ここで町長の施政方針並びに提案理由の説明を求めます。
 [唐澤町長登壇]

町 長 令和 7 年 3 月議会定例会を招集しまして令和 7 年度の一般会計予算案をはじめ特別会計及び公営企業会計予算を含めました 6 議案を提案するに当たりまして、新年度の施策に関する私の所信の一端と、これに基づく予算案の大綱について申し上げ、議員各位並びに町民の皆様の御理解と御協力を賜りたいと思います。
 関係する各議案並びにあらかじめ配付いたしました予算書及び予算概要資料等を併せて御覧いただければと思います。
 まず初めに経済情勢と国の予算編成でございます。
 内閣府発表の 1 月の月例経済報告によりますと、我が国の経済状況は、一部に足踏みが残るものの緩やかな景気回復を見せているとしています。今後も雇用情勢や所得環境が改善する中で各種政策の効果により回復が続くことが期待されていますが、一方、海外景気の下振れや物価上昇、今後のアメリカ合衆国の政策動向、中東地域等をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に留意する必要があります、依然として予断を許さない状況が続いております。
 こうした中、令和 7 年度の国家予算案は、官民連携の下での AI・半導体分野の投資促進や G X 投資促進の実施、こども未来戦略に基づく子育て支援の本格実施、防衛力の抜本強化の着実な実施といった複数年度で計画的に取り組むこととしている重要課題への対応のほか、地方創生交付金の倍増など、重要政策への予算が重点的に配分されております。
 あわせて、公務員、教職員、保育士の給与改善や物価動向の反映などを行いつつ政策的予算を適切に確保するなど、経済財政運営と改革の基本方針 2024 に基づき経済・物価

動向等に配慮しながら、これまでの歳出改革努力を継続するとしています。

その結果、予算規模は115兆5,400億円となり、前年度当初予算に対しましておよそ2兆9,700億円の増額となる見込みでございます。

主な内訳を見ますと、歳出については、社会保障関係費は経済・物価動向や高齢化伸び率に配慮しまして前年度比5,600億円の増、また地方交付税と地方特例交付金を合わせました地方交付税交付金等はおよそ1兆3,000億円の増となっているところであります。

次に歳入につきましては、税収がおよそ8兆8,000億円の増を見込む一方、借金に当たる新規の国債の発行額は前年度より6兆8,000億円減となったものの、歳出のおよそ25%と大きな割合を占めている構図は変わっておらず、依然厳しい財政状況が続いております。

このような国の動向を注視しながら堅実な行財政運営に努めなければならないと考えております。

次に地方財政でございます。

令和7年度における国の地方財政対策を見ますと、地方の安定的な財政運営に必要な一般財源の総額については令和6年度の水準を下回らないように実質的に同水準を確保するとしております。

また、臨時財政対策債の発行額を平成13年度の制度創設以来初となるゼロとしております。

歳入では、地方特例交付金、地方債を減額する一方、地方税、地方譲与税、地方交付税、国庫支出金を増額しております。

また、歳出では、令和6年度の人事院勧告に伴う常勤職員、会計年度任用職員に係る給与改定のほか、自治体施設の光熱水費、施設管理の委託料の増加分が措置されるなど、地方公共団体が安定的に財政運営を行うことができるように配慮されているところであります。

これらにより令和7年度の予算規模は総額でおよそ97兆円となり、前年度に比べ3.6%、およそ3兆4,000億円の増となっております。

このうち地方交付税総額はおよそ19兆円で、前年度に比べ1.6%、およそ3,000億円の増となっております。

令和7年度予算編成の考え方と重点事項について申し上げます。

このような情勢の中、令和7年度予算につきましては、物価高騰対策を継続しながら、今後も変化を続ける社会に迅速かつ柔軟に対応しつつ、第6次総合計画に掲げる主要施策の実現に向け各種施策を展開してまいります。

特に重点ポイントとしては、「子どもの元気と学びの力」「安全で安心なまちづくり」「共に支えあえる地域づくり」「環境共生・GXの推進」、この4点を掲げてございますので、主なポイントについて内容を御説明申し上げます。

最初に「子どもの元気と学びの力」に関する施策でございます。

安心して子育てできる環境整備としましては、妊娠、出産、子育てに関する各種相談

や健診を行う母子保健機能と子どもへの虐待事案や特定妊婦など支援を必要とする方への対応を行う児童福祉機能を一体化し子どもへのきめ細かい支援を実施するため飯島町こども家庭センターを設置するほか、町内の学校に通う全ての子どもたちが未来に希望を持ち、自己肯定感の醸成と地域の人や社会と関わる力を育み、子どもらしく安心して過ごすことができる教育支援センターとしての飯島町子ども第三の居場所を整備いたします。

子育て世帯への支援としましては、自宅で育児をされる家庭への支援としまして在宅育児支援金制度を創設するほか、学校給食費や中学校入学準備品の一部を支援してまいります。

なお、子どもたちの学ぶ力、生きる力、地域愛を育む活動を支援するため、日常英会話の支援や防災力を高める学習、キャリア教育の推進を図ってまいります。

また、令和10年度開催の信州やまなみ国スポ関連としまして柏木運動場整備に着手するほか、大会の受入れ体制の準備を進めるため実行委員会組織の立ち上げを行ってまいります。

2つ目に「安全で安心なまちづくり」でございます。

災害対策基本法の改正や発生が心配されている南海トラフ地震をはじめとする大地震や頻発する豪雨災害など、変化する災害状況に対応するため地域防災計画を改定、更新するとともに、タイムラインや個人のタイムラインなど行動計画の策定を実施するほか、消防団関連では第1分団第1部の車両の更新をいたします。

また、消防団員が消防団車両を運転するために必要な準中型免許の取得費用の助成や、団員間の連携と連帯感を図るために消防団が企画、実施する交流会開催への支援を行うことで団員の確保や消防団の組織強化を図ってまいります。

3つ目に「共に支え合える地域づくり」でございます。

母子保健事業の充実としましては、低所得者の妊婦に対しまして保険適用とならない妊婦の初回受診料を助成するほか、医学的な理由で遠方の分娩取扱い施設へ行かなければならない妊婦に対する交通費や宿泊費の助成を実施いたします。

また、次世代を担う子どもの出生に対しまして出産祝い金を創設し経済支援を行うとともに、地域全体で支えるための子育て世帯への支援を充実してまいります。

福祉、健康増進の取組では、グループホーム事業者へ町が家賃等の助成をすることで低所得利用者の経済的負担の軽減を図り、また引き続き居場所づくりや街角ベンチ設置事業によりまして高齢者やその家族も安心して地域で生活できるよう施策を実施してまいります。

最後に「環境共生・GXの推進」でございます。

環境共生の推進は脱炭素、生物の多様性の醸成、リサイクルの推進の3本柱で引き続き取り組んでまいります。

生物の多様性の取組では、生物多様性いじま戦略及び飯島町版レッドリストの策定に向けた町内の希少種の分布や生息状況調査を行うとともに、飯島町の豊かな自然と生物多様性を大切に保全し後世まで伝えるため、ミヤマシジミをはじめとする希少な動植

物の生息地の荒廃を防ぎ、生息環境を回復させるための施策を町、住民、事業者がそれぞれの役割を持って取り組み、命への共感に満ちたまちづくりを進めてまいります。

以上が令和7年度の4つの主なポイントになります。

そのほかに多くの課題と住民要望にも総合的に対応するため各種事業を展開してまいります。

続きまして予算規模の概要でございます。

今議会に提案いたします令和7年度の各会計の予算概要について総括的に御説明を申し上げます。

各会計の予算規模と主な内容ですが、一般会計は65億4,500万円、前年度に比べ8億6,500万円、15.2%の増額となりました。

国民健康保険特別会計はおよそ8億7,900万円、前年度に比べおよそ5,400万円、5.8%の減となりました。県の運営が定着し、歳出では国民健康保険事業納付金及び保険給付費、歳入では県支出金の額を基に編成しており、予算規模は保険給付費の減を見込み減額としておるところであります。引き続き国民健康保険事業計画に沿った保健事業を推進してまいります。

後期高齢者医療特別会計はおよそ1億8,900万円、前年度に比べおよそ200万円、1.2%の増となりました。予算規模は、保険料率の改定に伴う広域連合納付金の増により増額となっております。今後の医療制度等の状況を踏まえ、町民の皆様への周知や手続など、適正に実施してまいります。

介護保険特別会計はおよそ11億4,000万円、前年度に比べおよそ1,000万円、0.9%の増となりました。町の高齢化率は依然上昇しており、予算規模は保険給付費の増により増額となっております。介護保険の保険者として適正な事業運営を行うとともに、高齢者の自立支援や介護予防、重度化防止を進め、引き続き住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けることができる地域づくり、地域で暮らす高齢者の支援に取り組んでまいります。

水道事業会計はおよそ4億2,200万円、前年度に比べおよそ3,000万円、6.5%の減となりました。引き続き老朽管布設替え工事を推進するとともに、配水池の耐震2次診断調査を実施し、安全・安心な水道の維持に努めてまいります。

下水道事業会計はおよそ9億3,300万円、前年度に比べおよそ700万円、0.7%の増となりました。引き続き適切な維持管理に努めてまいります。

以上、6会計の合計予算規模はおよそ101億1,000万円、前年度に比べおよそ8億円、8.6%の増として編成をいたしました。

それでは一般会計の歳入の概要について説明を申し上げます。

町税は、税制改正及び固定資産の家屋の新築等による増を見込み、町民税は12.4%、固定資産税は0.5%の増などにより、町税全体としましては前年度に比べおよそ5,600万円の増といたしました。

次に、地方譲与税と各種交付金、地方交付税につきましては、予算編成時における国や県からの情報、また前年度までの交付実績などから試算を行い、地方譲与税と各種交

付金は全体でおよそ4,900万円の減、地方交付税は近年の実績及び国の地方財政対策の情報から普通交付税及び特別地方交付税、それぞれを増と見込み、前年度に比べ合わせて8,700万円、4.1%の増として計上いたしました。

次に国庫支出金は、町道上ノ原幹線や昭和通り線等に関わります社会資本整備総合交付金や役場情報システムの標準化、共通化に関わりますデジタル基盤改革支援補助金等の増により増して前年度に比べ81.7%、3億2,500万円の増となったほか、県支出金も柏木運動場整備に関わります国民スポーツ大会市町村競技施設整備費補助金等の増により前年度に比べ68.6%、およそ2億3,800万円の増となりました。

また、繰入金は、重点事業をはじめ各事業の財源不足を補うため各基金から繰入れを行い、全体では前年度に比べまして23.8%、およそ8,000万円の増額といたしました。

最後に町債は、町営住宅除却事業の終了や臨時財政対策債等の減があったものの、柏木運動場整備に関わります一般事業債や社会資本整備総合交付金の公共事業等債の増により前年度に比べおよそ8,100万円増の5億3,000万円を計上いたしました。

以上、歳入の主な点について申し上げましたが、年度途中の制度改正や経済情勢により不確定な要素も含んでおりますので、現時点で得た情報を基に精査の上、それぞれ予算計上したところでございます。

次に、歳出予算の概要につきまして、第6次総合計画の基本構想に掲げております町の将来像実現のために進むべき方向の8項目のうち前段で触れましたポイント以外の主な取組について御説明を申し上げます。

第1に「住民と行政の総合力による 安全で安心なまちづくり」では、住民への防災情報等の周知に欠かせないJアラートや県の衛星系防災無線の老朽化に伴う設備更新を行うとともに、住民や事業者がインターネット上で正確かつ迅速にインフラ情報や防災対策についての閲覧ができる公開型のGIS——これは地理情報システムでございますけれども——これらを整備することで分かりやすい情報発信を行い、便利で安心・安全な生活が可能な地域づくりを目指してまいります。

第2に「美しく快適な暮らしの環境を 将来へつなぐ」では、飯島町カーボンニュートラル実行計画に基づきまして再生可能エネルギーの導入を推進するため、町が専門的知見を持つ事業者から技術的支援や制度設計の構築に関するサポートを受けることで事業推進の体制強化を図るほか、生活環境の向上対策としては、特定の飼い主のいない地域猫や多頭飼育の猫に対する去勢手術、避妊手術について、県の補助制度が終了するため、町が新たに助成をすることでふん尿被害等の地域課題の解消を図ってまいります。

第3に「誰もが健康で居場所と出番があり 共に支え合える地域づくり」では、高齢者の補聴器購入費助成事業を拡充しまして対象者の非課税要件を世帯でなく本人とするとともに、助成金額を増額することで負担軽減を図るほか、健康増進の場として好評いただいておりますフレイル予防教室につきましては開催数とコースを拡充することで健康寿命の延伸を図ってまいります。

第4でございます。「地域特性を生かした 産業の創造と振興のまちづくり」では、長野県の伴走支援を受け当町の地域資源である地域複合営農——これは集落営農でありま

すが——これをベースに3年をかけて農業農村の維持、活性化を目指す輝く農山村地域創造推進事業の取組に着手するほか、町の農業農村活性化計画であります地域複合営農への道パートVの後期計画策定に向けて見直しを進めてまいります。

また、平成28年度から実施している道の駅田切の里の移動販売車事業の終了に伴いまして、新たに移動販売事業を行う民間事業者への運行経費の支援を行い、買物弱者対策の継続を図ってまいります。

次に、日曾利地区と島河原地区の圃場整備では、持続可能な農業生産基盤を整備し農業生産力の維持、向上を図るため、引き続き県やJR、地元との調整を図りながら計画的に事業を進めてまいります。

第5「暮らしを支える 強靱で快適なライフラインの創造」では、町道関連では社会資本整備総合交付金事業を活用して実施する上ノ原幹線、鳥居原横断線などの道路改良工事や高尾原北線の道路舗装補修工事を進めるほか、七久保地区のJR新田第一踏切の周辺箇所改良工事を実施してまいります。

河川関連では、近年の大雨による越水が心配されている北河原・中平地区の古川について、改修工事を引き続き実施してまいります。

また、住宅施策におきましては、住宅の瓦屋根の点検経費の助成制度を創設することで住宅の耐震化対策を進め、安全で快適な住まいの確保に努めてまいります。

第6として「魅力向上で住みたい・住み続けたい地域づくり」では、観光関連におきましては傘山第1展望台へのトイレの追加設置を行うほか、i i ネイチャー春日平につきましては地域おこし協力隊を活用しながら町と民間企業の官民連携で運営することで利用者の利便性とサービスの向上を図り、魅力ある観光地域づくりに取り組んでまいります。

また、出会い・婚活推進事業では、飯島町を移住先として結婚相手を見つけていただく移住婚に重点を置いたイベントを民間企業のノウハウを入れながら実施することで定住促進を図ってまいります。

なお、住民との町長懇談で多くの住民の皆さんから御意見をいただきました自治組織の在り方の課題については、研究、検討を行うため関係者を含めた検討組織を立ち上げ、将来的な方向性を研究してまいります。

第7「子どもの元気」と「学びの力」で いきいき豊かな暮らし」では、保育園業務支援システムを導入することで児童の登降園や保護者との連絡などをアプリ上で行うことによりまして保護者の利便性の向上と業務の効率化を図るほか、子どもたちの見聞を広めるためALTを2名体制に増員し、保育園児から中学生までの英語教育の充実を図ることで国際理解教育を推進してまいります。

また、生涯学習関係では、指定避難所でもある本郷公民館の長寿命化と環境改善を図るため屋根や外壁等の改修工事を行うほか、飯島陣屋の活性化を図るため利便性の高い場所へ新たに駐車場を確保し、バスによる来館者への対応や文化財や地域などを散策できる環境整備等を図ってまいります。

最後に8番目としまして「将来像を実現する 創造力にあふれた行政基盤づくり」で

は、引き続き令和8年4月の運用に向け飯島町第6次総合計画の改定を進めるとともに、国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンや国勢調査結果等と整合を図りながら飯島町人口ビジョンの改定を進めてまいります。

以上、新年度の施策に関します所信の一端と新年度予算案の大綱について申し上げます。

結びになりますけれども、令和7年度は第6次総合計画の5年度目に当たり、折り返し地点となります。町の将来像実現のため、つなぐ力で誰一人取り残さない、子どもからお年寄りまで生き生きと安全で豊かに暮らす予算として編成し、厳しい財政状況ではございますが、各事業の進捗状況を確認し、検証を行いながら効果的な事業実施に取り組み、飯島町の美しい自然に育まれた生活環境を守り、10年先の町の姿を見据え、将来の世代に引き継ぐため、人への投資や官民連携をさらに推し進め、住民の皆さんが安全で安心で住み続けられるまちづくりを着実に推進してまいります。

そして、引き続き物価高騰対策を図りつつ、住民の皆様の暮らしを守り、幸福度が高まるような施策の展開を適切な時期に実行することが町民の皆様に信頼される行政運営であると考えております。

町民の皆様からの負託と信頼に応えるべく、全職員が行動力を発揮しまして、一丸となって全力で行財政運営に当たってまいります。

最後に、町民の皆様とその代表であります議員各位の格別なる御理解と御協力を賜りますようお願いを申し上げ、令和7年度の施政方針としたいと思っております。

以上で一般会計並びに特別会計の予算概要の説明といたします。

どうかよろしく願いいたします。

[唐澤町長降壇]

議 長

引き続き各課長から補足説明を求めます。

なお、説明に当たっては、主要な事務事業を中心に要点を捉えて的確な説明に努めていただくようお願いをいたします。

企画政策課長

補足説明

総務課長

補足説明

住民税務課長

補足説明

健康福祉課長

補足説明

産業振興課長

補足説明

建設水道課長

補足説明

地域創造課長

補足説明

教育次長

補足説明

議 長

ただいま提案理由の説明がありました。

これから令和7年度予算6議案につきまして一括して質疑を行います。

なお、議事運営上、ここでは総括的な事項につき質疑されるようお願いをいたします。

質疑はありませんか。

では質問します。

予算書なんですけれども、その49ページにあります地域力創造推進プロジェクトについて質問します。よろしいですかね。

まず、ちょっと前提となる事実について御説明します。

令和7年2月13日付、日本経済新聞にこのような記事が出ています。「地方創生に群がる「補助金ハンター」「死角の特別交付税」、記事を一部引用します。

東北地方のある町は2023年末、東京都内の会社代表の男性との契約を解除した。国のお墨付きの「地域力創造アドバイザー」として22年度から迎え入れていた。地域の魅力を高める知見やノウハウを持つ専門家として総務省がサイトで紹介する一人だった。

放置状態の空き家が失敗を物語る。男性は移住体験スペースとして活用すると説き、所有者が解体する予定だったのを格安で購入した。その後、特に動きのないまま時間だけが過ぎた。周辺の雑草は伸び放題で、かやぶき屋根の損傷も激しい。集落の区長は「治安の上でも問題で、非常に迷惑している」と憤る。

(中略)

この男性は23年度に全国5市町でアドバイザーに就いていた。いずれも24年度の更新はなかった。24年度は別の自治体と契約を結んだ。

続いて飯島町のホームページ。

飯島町と地域力創造株式会社が包括連携協定を締結しました

飯島町と地域力創造株式会社は、去る令和6年9月24日(火曜日)に包括連携協定を締結しました。

今後、町と地域力創造株式会社が相互に連携し、様々な地域課題に取り組んでいきます。

日経新聞の記事にある東京都内の男性の会社代表者という人物と地域力創造株式会社の代表者、これは同一人物です。これ、東北のある町というところに私は電話で確認したんで、これは間違いないです。まず、これが税となる事実。

じゃ予算に関連して質問します。

町は令和6年9月24日に包括連携協定というものを締結しているんですけども、記事によると、令和5年時点でこの男性は全国5市町村でアドバイザーに就いていたが、いずれも令和6年度の更新はなかった、このように記載されています。

それで、町は、昨年——令和6年ですね、令和6年8月の全員協議会でこの記事にある男性が代表を務める地域力創造株式会社と協定を結びたいとして議会に提案してきました。時系列から言って、この時点で全国5市町村のアドバイザー契約というものの更新がなかったことは明らかになっています。そうであるならば、令和6年8月の全員協議会においてこの事情を議会に報告するべきだったと考えるのですが、報告しなかった理由をお尋ねします。もしくは、ここ事実を把握していなかったとしたら、把握できなかった理由をお尋ねします。これがまず1つ。

次、2つ目ですね。このような報道が令和6年2月13日にされているんですけども、今日の今に至るまで議会に対して報告がないんですけども、それはなぜかというのが2点。

そして、最後の3点目ですね。このような報道があるにもかかわらず、町は令和7年度予算に地域力創造アドバイザーとして560万円を計上していますけど、この計上した理由、正当化根拠をお答えください。

以上です。

町長

御質問のあった案件につきましては承知をしているところであります。

それで、8月の段階で議会に報告しなかったということですが、その事実はつかんでおりませんでした。ただ、状況として、新潟の事案ですとか、あるいは、西川町は、自分、町長とも面識がございまして、いろいろ情報を得ていたんですけども、その時点で確定となる情報をつかんでおりませんでしたので、議会に報告する状況ではなくて、町は包括連携協定を結んだというところであります。

町としましては、やはり、先ほどの施政方針でも示したように、民間活力、これをしっかり取り入れていきたいということで、その展望に立って取り組んできたところであります。

2月13日に報道が出た内容につきましては、こちらも承知しておりますけれども、現段階では、今、情報を収集しているところであります。本社にも連絡しておりますし、また西川町にも状況を確認いたしました。そういった状況がまとまった段階でアドバイザーと面談を行いまして、最終的な調整をしていきたいと思っております。

それで、総務省の地域創造力アドバイザーにつきましては、今、全国に560人以上が登録されておまして、この該当者と契約していくかどうかというのは今後の面談等を踏まえて最終結論を出して、それで、それから議会のほうに報告してまいりたいと考えています。

ですので、来年度も引き続き予算を計上しておりますけれども、まずは1チームということで、アドバイザーを誰にするか、また起業人を誰にするのか、地域おこし協力隊員を誰にするのかわかるというのは、今後の状況を把握しながら再検討をしてみたいと考えております。

ですので、同じ事業で展開していくかどうかというのは今後の調査の結果を踏まえて行っていきたいと考えています。

2番

坂井議員

じゃ、そうすると、これから予算の調査が始まるんですけども、アドバイザーの交代はあり得るということと、事実確認ができれば、その都度、報告はしていただけると、こういう理解でよろしいですか。

町長
議長

3月4日の面談を終えまして、その結果によりまして報告をしていきたいと考えます。ほかには、——よろしいですか。

1番

伊藤議員

今の関連ですけど、そのアドバイザー、聞いた限りでは、ちょっと……

議 長 立って質問してください。

1 番
伊藤議員 失礼しました。
今聞いた限りでは、次年度、契約を結んでいないところが多いということは、実績がなかったりとか、あまりいい成果が得られなかったという判断が付きますが、その点を慎重に考えて、3月4日の面談ではしっかり事実関係を聞いたりして、町で適切な判断をぜひお願いしたいと思います。

議 長 質問事項は何ですか。

1 番
伊藤議員 質問ではなくて、その人に対する……

議 長 質問を求めています。

1 番
伊藤議員 質問……。
ですから、そういう人を採用することをしっかり考えてほしいという意見に対して答えてください。

町 長 協定を結びましてから、毎月、面談を行っております。それで、毎月、契約に基づく事業報告もいただいております。今年度の目標であります空き家の実態調査、これについても最終的に3月までに実績報告をいただくような状況になっています。
こういう課題が出てまいりましたので、しっかりと相手方と話をしながら最終結論を出していきたいと思っております。
ですけど、先ほど申し上げましたように、やはり町としましては官民連携で、やっぱり民の力を借りていく、婚活事業もそうですけれども、民の力をしっかりと活用しながら様々な事業を進めていきたいという考えは変わりませんので、引き続きこの事業については検討してまいりたいと思います。

3 番
折山議員 聞いていてちょっとショックでした。やっぱり、こういう議員がいて初めてこういう実態が解明されるっていう議会だなんていうことを改めて感じて、これ、予算を通すと今までの禍根と同じような経過をたどるような気がするんで、この後、付託があつて審査のほうへ回ると思うんですが——審査というか、勉強会に回ると思うんですが、ある程度、そこでは、3月何日を待っているのではなくて、町の腹積もりをきちっと据えて出てきていただきたいなと思います。
何となく、いつも情報の出し方が遅くて、こういう議員がおつてくれたから、今日、こういうびっくりするような事態が耳に入ってきたっていう、これではちょっと切な過ぎるんで、そこら辺は態度を改めてもらえるのかどうか、質問します。

町 長 この会社につきましては、成功している事例もあります。それが報道されていません。ですから、成功している事例もあれば、西川町のように——西川町は、今年、物すごい雪で、日本一の積雪地帯で、その10棟借りている建物が瓦ぶきで、倒壊しそうだということで、雪下ろしをしてほしいということですが、全くされていないという状況で、そ

のような報告になっているかと思えます。

報告については、やはり正確な情報を得て、それで報告していきたいと思えますので、報道にあるような情報をきちんと裏を取って報告してまいります。

議長 ほかには。

3番

折山議員 それは、今のお言葉は、この審査っていうか、勉強会までに——付託っていうのは間違いましたね。勉強会までに町なりきにきちっと情報を集めて、この予算を通すべきか、そうでなくてももう一回ゼロに戻って考え直すべきか、それぞれの委員が判断できる内容をお持ちいただけるかどうか、その点をお聞きます。

町長 審議をいただく……（折山議員「審議じゃない。勉強会ね」と呼ぶ）勉強会をしていただくときまでにはしっかりと報告できるような形を取りたいと思えます。

議長 ほかにはありますか。——よろしいですか。

副町長 すみません。勉強会っていうのは何でしょうか。

議長 予算に対する……。

副町長 いつやる……。折山議員「事業調査ってやつです」と呼ぶ）事業調査……。いつやるんですか。（折山議員「それは、またこの後です」と呼ぶ）あ、この後、事業調査……。折山議員「3日の予定です」と呼ぶ）3日ね。

議長 ほかには。——よろしいですか。

それでは質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

ここでお諮らいたします。

第24号議案から第29号議案は調査に時間を要するため3月11日の定例会最終日に採決いたしたいと思えますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長 異議なしと認めます。したがって、本6議案は3月11日——本定例会最終日に採決いたすことに決定いたしました。

ここで休憩を取ります。再開時刻を午後2時55分といたします。休憩。

休憩 午後2時41分

再開 午後2時55分

議長 休憩を解き会議を再開いたします。

議長 日程第33 第30号議案 飯島町道路線の変更についてを議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。

〔宮下副町長登壇〕

副町長 第30号議案 飯島町道路線の変更について提案理由の説明を申し上げます。

本件につきましては、道路改良工事などにより道路区域が変更となった路線について、道路法第 10 条第 3 項の規定により町道上ノ原幹線ほか 15 路線の変更をお願いするものでございます。

細部につきましては御質問により担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決賜りますようお願い申し上げます。

〔宮下副町長降壇〕

議 長 これから質疑を行います。
質疑はありませんか。

議 長 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。
これから討論を行います。

議 長 初めに原案に反対討論はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 次に原案に賛成討論はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 討論なしと認めます。
これで討論を終わります。

これから第 30 号議案 飯島町道路線の変更についてを採決いたします。
お諮りいたします。

議 長 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
異議なしと認めます。したがって、第 30 号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 日程第 34 第 31 号議案 令和 6 年度インターネット接続系端末購入事業に関する物品売買契約の締結について
を議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。

〔唐澤町長登壇〕

町 長 第 31 号議案 令和 6 年度インターネット接続系端末購入事業に関する物品売買契約の締結について提案理由の説明を申し上げます。

役場庁舎及び各施設で使用しておりますインターネット接続系端末の購入について物品売買の契約を締結するため、地方自治法及び飯島町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定によりまして議会の議決を求めらるものでございます。

細部につきましては担当課長から御説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。

〔唐澤町長降壇〕

<p>総務課長 議 長</p> <p>1 番 伊藤議員</p> <p>総務課長</p> <p>1 番 伊藤議員</p> <p>総務課長</p> <p>議 長 1 番 伊藤議員</p> <p>総務課長</p> <p>議 長 4 番 坂本議員</p> <p>総務課長</p> <p>議 長 4 番 坂本議員</p> <p>総務課長 議 長</p>	<p>補足説明</p> <p>これから質疑を行います。 質疑はありませんか。</p> <p>パソコンの購入という、55 台購入、新しく入れ替えるということですが、既存のパソコンの処分方法とデータ処理はどのようにするか、ちょっと教えてください。</p> <p>この更新につきましては、購入してから8年経過ということで更新の時期を迎えるもの、またウィンドウズ10のセキュリティー更新期限が2025年10月までということでもありますので更新を進めるものとなっております。</p> <p>今あるものにつきましては、使えるか使えないかっていうところも含めまして、また処分をしていくというところになろうかと思っております。</p> <p>その処分ってどういう処分をするんですか。廃棄するんですか、それともリサイクルするんですか、そこら辺を具体的にお願いします。</p> <p>引き取る業者とかがございますので、そちらのほうに、中身のほうを、入っている情報等の削除も含めながら、削除しながら、最終的には業者に出していくということになると思います。</p> <p>伊藤さん、3回目です。</p> <p>業者に委託するということがありますが、問題になっているケースがあるんですよ、情報が入っていたっていう、そのまんま業者がいい加減な処理をして漏れたという。どこかの市でもあったんですが、そこら辺は大丈夫なんでしょうか。</p> <p>業者のほうへ出すことになれば、当然のことながら業者との打合せをしながら確実にデータの削除をするというところで、確実にやるということ、何だ、契約の中に盛り込んで発注、出していくようにいたします。</p> <p>ほかに。</p> <p>伊那バスということで、ちょっとびっくりしたわけですが、ほかの5者という5者は、ちなみにどこの会社かは公表していただけるんでしょうか。</p> <p>指名業者選定委員会の中にかけてまいったわけでございます。その中で、指名の業者につきましては、町内業者または市内ネットワークシステムの関係業務で現在契約のある業者へ出していったところでございます。</p> <p>ほかには。</p> <p>すみません。ということは、その中で伊那バスさんが一番安かったということで、入札したということによろしいんでしょうか。</p> <p>はい。そのとおりです。</p> <p>ほかに。——よろしいですか。</p>
---	---

質疑なしと認めます。
 これで質疑を終わります。
 これから討論を行います。
 初めに原案に反対討論はありませんか。
 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
 議長 次に原案に賛成討論はありませんか。
 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
 議長 討論なしと認めます。
 これで討論を終わります。
 これから第 31 号議案 令和 6 年度インターネット接続系端末購入事業に関する物品
 売買契約の締結についてを採決いたします。
 お諮りいたします。
 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
 議長 異議なしと認めます。したがって、第 31 号議案は原案のとおり可決されました。
 議長 日程第 35 第 32 号議案 令和 6 年度飯島町機構改革に伴うカウンター等購入事業に
 関する物品売買契約の締結について
 を議題といたします。
 本案について提案理由の説明を求めます。
 〔唐澤町長登壇〕
 町長 第 32 号議案 令和 6 年度飯島町機構改革に伴うカウンター等購入事業に関する物品
 売買契約の締結について提案理由の説明を申し上げます。
 機構改革に伴いますカウンターの更新及びオープンスペース設置のためのパーティ
 ション等の購入について物品売買の契約を締結するため、地方自治法及び飯島町議会の
 議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定によりまして議会の議
 決を求めるものでございます。
 細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしく御審議の上、御議
 決を賜りますようお願いいたします。
 〔唐澤町長降壇〕
 総務課長 補足説明
 議長 これから質疑を行います。
 質疑はありませんか。
 1 番
 伊藤議員 今、建設課のカウンターには触れていなかったんですが、建設課のカウンターはその
 ままか、それが 1 点。
 あと、今あるカウンターって、あれ、杉板で何か作ったような感じですが、今度、ト
 マトで買う購入のものは既製品っていうか、杉板で今のようなカウンターではないとい

う考えでいいわけですか。

それと、再利用して残ったものは処分ということですが、処分代がかかるんで、町の住民で欲しい人には譲るとか、もったいないんで。そういうことは考えていますか。

副町長 たしか、各課別にアンケートとといいますか、希望を取って、ローカウンターかハイカウンターかを取ったので、建設水道課は全部ハイカウンターだったと思います、たしか。

業者さんが見える割合とか、そういうのがございますので、そういう部分も勘案してローカウンターとハイカウンターをちょっと分けております。

それで、あと何でしたっけ。あ、処分。

今のカウンターは、本当は、実は、あれを切ってローカウンターにできないかなと思っ
てやってみたんですけど、かなり金がかかるという見積りができたもんですから、やめて新規購入したほうが安いということになりました。

それで、残っているものにつきましては、一旦は倉庫に置きます。それで、使えるところがあれば、皆さんのおっしゃるような要るところがあれば公売等もいいかなというふう
に考えておりますので、ここで全部処分してしまうわけではございませんので、取っ
ておいてから考えるということで、使えるところがあれば使うということでございます
ので、よろしく願いいたします。

議長 ほかに。——よろしいですか。

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

初めに原案に反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長 次に原案に賛成討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第 32 号議案 令和 6 年度飯島町機構改革に伴うカウンター等購入事業に関
する物品売買契約の締結についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長 異議なしと認めます。したがって、第 32 号議案は原案のとおり可決されました。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日の会議を閉じ、これで散会といたします。

お疲れさまでした。

事務局長 御起立をお願いいたします。(一同起立) 礼。(一同礼「お疲れさまでした」)

散会 午後 3 時 10 分

令和7年3月飯島町議会定例会議事日程（第2号）

令和7年2月27日 午前9時10分 開議

1 開議宣告

1 議事日程の報告

日程第1 一般質問

質問者	質問事項
吉川順平	<ol style="list-style-type: none"> 1 農山村の将来像について問う 2 地域に根ざし、生きる力を培う食農教育について 3 農産物加工施設の建設について
星野晃伸	<ol style="list-style-type: none"> 1 町内の土地取得と開発について 2 不法投棄について 3 教育委員会の関わる施設のWi-Fi整備の状況は。 4 飯島流ワーケーション事業について
宮脇寛行	<ol style="list-style-type: none"> 1 基幹産業の農業支援について 2 伊南バイパス田切中央交差点南西の活用について 3 田切クリーンセンター廃棄物最終処分場の跡地活用について
伊藤秀明	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校体育館空調整備について 2 小中学生の使用後の端末機の取り扱いについて 3 制服検討委員会の進捗状況は 4 福祉タクシー券について 5 帯状疱疹ワクチン補助について
片桐剛	<ol style="list-style-type: none"> 1 国スポ開催に向けた準備と、柏木グラウンド整備計画について問う 2 会場となる施設を持つ自治体として国スポ開催をどのように捉えているか 3 国スポ終了後の計画を問う。
坂本紀子	<ol style="list-style-type: none"> 1 生物多様性保全条例について 2 高齢者や一人暮らし、困窮世帯への対応について

○出席議員（12名）

1 番	伊藤 秀明	2 番	坂井 活広
3 番	折山 誠	4 番	坂本 紀子
5 番	宮脇 寛行	6 番	浜田 稔
7 番	三浦寿美子	8 番	堀内 学
9 番	星野 晃伸	10 番	片桐 剛
11 番	吉川 順平	12 番	久保島 巖

○欠席議員（0名）

○説明のため出席した者

出席を求めた者	委任者																		
<p>飯島町長 唐澤 隆</p>	<table border="0"> <tr> <td>副 町 長</td> <td>宮下 寛</td> </tr> <tr> <td>総 務 課 長</td> <td>大島 朋子</td> </tr> <tr> <td>企画政策課長</td> <td>座光寺満輝</td> </tr> <tr> <td>住民税務課長</td> <td>松村 和夫</td> </tr> <tr> <td>健康福祉課長</td> <td>林 潤</td> </tr> <tr> <td>産業振興課長</td> <td>堀越 康寛</td> </tr> <tr> <td>建設水道課長</td> <td>片桐 雅之</td> </tr> <tr> <td>地域創造課長</td> <td>久保田浩克</td> </tr> <tr> <td>会計管理者</td> <td>松澤 京子</td> </tr> </table>	副 町 長	宮下 寛	総 務 課 長	大島 朋子	企画政策課長	座光寺満輝	住民税務課長	松村 和夫	健康福祉課長	林 潤	産業振興課長	堀越 康寛	建設水道課長	片桐 雅之	地域創造課長	久保田浩克	会計管理者	松澤 京子
副 町 長	宮下 寛																		
総 務 課 長	大島 朋子																		
企画政策課長	座光寺満輝																		
住民税務課長	松村 和夫																		
健康福祉課長	林 潤																		
産業振興課長	堀越 康寛																		
建設水道課長	片桐 雅之																		
地域創造課長	久保田浩克																		
会計管理者	松澤 京子																		
<p>飯島町教育委員会 教育長 片桐 健</p>	<p>教 育 次 長 齊藤 鈴彦</p>																		

○本会議に職務のため出席した者

議会事務局長	那須野一郎
議会事務局書記	松下 知冬

本会議再開

開 議	令和7年2月27日 午前9時10分
事務局長	御起立をお願いいたします。(一同起立) 礼。(一同礼「おはようございます」) 御着席 ください。(一同着席)
議 長	おはようございます。 これから本日の会議を開きます。 議事日程につきましてはお手元に配付のとおりです。
議 長	日程第1 これから一般質問を行います。 通告順に質問を許します。 なお、一般質問は通告制ですので、質問趣旨にのっとり明確に質問するようお願いを いたします。 11番 吉川順平議員。 〔吉川議員質問席へ移動〕
11番 吉川議員	おはようございます。 通告により始めさせていただきます。 今回は、昨年12月の一般質問でできなかった内容「農山村の将来像について問う」で あります。町長が一番答弁したかった内容だったと思います。 また、4年間の任期の中での集大成として再度確認したい内容について質問をいたし ます。 1番、農山村の将来像についてであります。 1-1。少子高齢化で人口減少が加速しております。農山村としてこの問題にどう向 き合うべきだと考えているか、町長の考え方はいかがでしょうか。 農山村は飯島町のことを言っておるわけではありますが、特に人口減少、あるいは定住 促進、それが奥にあるかと思えますけど、よろしく願いいたします。 〔唐澤町長登壇〕
町 長	おはようございます。(一同「おはようございます」) 農山村の将来ということでございますけれども、特に、今、少子高齢化、人口減少が 加速しております、その中で農山村としてそういうふうに向き合っていくかという ところでございます。 少子高齢化、人口減少が加速していることは、もうはっきりしております。 特に、伊那谷を中心としましては、若い女性の皆さん、こちらの人口が非常に減少し ているということで、町にとっても喫緊の課題として認識しているところであります。 現実のところ、何とか人口減少の速度を緩やかにするといった視点で、現在最も重要

なこととして取り組んでいきたいと考えています。

特に、人口減少に対する施策っていうのはすぐに効果が出てくるものではありません。今掲げております第6次総合計画、また町が進めていきますデジタル田園都市国家構想総合戦略、こういったものに掲げた施策を、危機感を持って、また町の実情に合わせて柔軟に取り組んでいくということが、今、農山村の将来に向き合うに当たって非常に重要なことだということと考えております。

〔唐澤町長降壇〕

吉川議員 それを踏まえて、1—2にありますけども、持続可能な地域とするにはどう築いていったらいいっていうことが考えられるでしょうか、よろしく申し上げます。

町 長 まず、飯島町のおかれている農山村、こういったものを少しお話しさせていただきたいと思います。

今まで、日本はずっと成長を追い求めてまいりました。消費を促して、それが豊かさだと捉えてきたところでもありますけれども、地球環境がこのように追い詰められて、それが私たちの身の回りで実感できるような事態になってきていること、また格差ですとかゆがみ、そういったものに苦しむ人たちと、またそれらに気づいてきた人たちが増えてきた。

そういったことを背景に、やはり物も情報もあふれる消費の豊かさ、こういったものに疲れを感じている人たちも多い。そういった中で、自分たちがどう生きるか、こういったことを模索している、そういった模索をしながら、豊かさですとか幸せ、そういったものを考え直す人たちが現れてきている、そういった状況があると思います。

私たちは、とかく、コンビニやおしゃれなお店、大型ショッピングモール、ゲームセンター、映画館、遊園地など、遊びの場やスポーツセンターなどがなくて、何にもない、こういった状況で、これまで農山村で育った多くのお子さんたちは、そういった思いの中で——都市部では、そのような状況の中で、私たちの命がどのように支えられているか、そういったものが見えにくくなってきているというのがあります。

何かあったときには自立できない弱さ、また美しい山河や田んぼの光景、自然からの恵み、幸、人々との近さと優しさ、こういったものを持つ農山村、ここで地に足をつけて足を知る、そういった暮らしをしている私たちからすると、都会というのは不安だらけな環境だと言えらると思います。

そうした中で、農山村は、やっぱり学び、いろいろなものを学んでいく宝庫だと思います。自然の中で仕事をして暮らしてきた人たちは本当にたくましくて、自然とともに生きる知恵や技を持っているところでもあります。こうした生きる知恵や哲学ですけれども、そういったものには持続可能な社会を実現するためのヒントがたくさんあると思います。そういった価値観に触れる大切な教えもあると思います。

農山村地域では、歴史的に、飢饉の際や何か金策が必要な人がいた際に支え合う仕組みというものを持って、農山村全体として生き延びてまいりました。農山村の人たちは都会にはない地縁、血縁のしがらみの中で培われる許容力や信頼感、安定感を持っておりまして、人と人とがある種の距離感を保ちつつ、近い信頼関係で結ばれて助け合っ

ております。それが安全保障であり、また豊かさでもあると思われま

す。人や自然との関係性で成り立つ農山村で安全で健康な暮らしを実現できる豊かさを享受するためには、取り巻く自然と共生し、自然や生態系とのバランスを取りながら持続可能な循環型経済を現代流につくり直していく、そのことが持続可能な社会につながると考えるところであります。

人も社会も持続していくためには、水と食べ物とエネルギー、それ以外にも大切なものがあると思います。人にとって大きな危険というのは、食料がないとか、燃料が尽きたとか、天候が荒れているというような、そんなことよりも、やはり希望を失うこと、これが一番危機的な状況かと思ひます。もう駄目かもしれないと思う心の隙間から一気に生存の可能性が危うくなってくると思ひます。

また、同時に、美ですとか喜び、これは内的に大きな力になります。美しい光景や生命力あふれる環境に身を置く喜びは、希望にもなって、人を強くしたり、あるいは幸福をもたらしたりします。

また、様々な危険に対する最大の防御ってというのは、他の人たちと信頼関係でつながるコミュニティをつくっていくことであります。

こうした希望を持っている限り、農山村は末永く続いていくと思ひます。そして、農山村にある幸せや喜びに気づいてやってくる人たちも希望となります。これは移住・定住でございますけれども、そういった農山村の希望にあこがれて来ていただける方もたくさんいらっしゃると思ひます。

都会には、既にそうした価値観を持っている若い人たちや、丁寧に暮らすことの価値観、そうしたものへの憧れを持つ人たちが増えておりますので、都市中心で大量消費するだけであった社会を持続可能な社会に変革する場として農山村が持つ力を見直して発揮していく必要があるかと思ひます。そのために、町としましては、第6次総合計画の実現に向け、あらゆる施策を総動員して持続可能なまちづくりに努めてまいりたいと思ひます。

吉川議員

支え合う仕組み、それから自然、コミュニティということでございます。

ちょっと——1—3にも入ってくるわけでありましてけれども——やはり、コロナ禍に入り、住民、人と人との接触が大分薄れてきてしまっているという内容でございまして、やはり住民との話合い——行政はいいですけども——やはり町民の話合い、人との付き合いがちょっと薄れてきているんじゃないかということでもあります。

それで、ここで1つ紹介をしたいと思ひます。

地域づくりの未来ということで、過疎・高齢化が進む農村で持続可能な地域をつくるには産業の創出や生活環境の整備が欠かせないと。

住民による自発的な地域づくりの代表例、高知県の推進する集落活動センターっていうものがあるわけでありまして。現在66のセンターが活動しております。住民自らが地域の方向性を定めて運営し、食品加工業を創出するなど成果を上げております。自分たちで何とかしないといけないという住民同士の団結を生んで、主体は住民、行政はサポート役に回るといった高知県の例がございまして。

話合いの中でサポートをする役割を担う自治体は職員の数が不足する課題を抱えております。サポート役の確保をはじめ、現場をどう支援するかが問われております。ですから、行政では、地域おこし協力隊、あるいは、せんだんってからちょっと問題になっております地域創造の新しい外部の人材を入れての視点を生かして、新たな展開が生まれる可能性を期待しておるわけであります。

1—3に入っていきますが、やはり、人口の減少を恐れず、受け入れた上で年齢や性別などを超えて多様な住民が話合い、農山村の将来に向けて住民が模索することこそが重要と考えますが、どう捉えておるでしょうか、今のことも含めて、よろしく願います。

町長 やはり、住民の皆さんが農山村の将来に向けてきちんと正面から向き合って、みんなで力を合わせて将来に向けて取り組んでいくということが非常に重要かと思えます。

特に、町が目指す町の将来像、これは第6次総合計画に掲げておりますけれども、「新しい発想で考えるアルプスのまち 豊かな未来・自然・暮らし」というのをスローガンに掲げ、それを実現するために誰一人取り残さないという思いを胸に対話を重ねながら取り組んでいるところであります。

多くの町民の皆さんの声を聞く中で、やはり町民の皆さんをはじめとした様々な多様な主体、こういった方々と一緒に飯島町をつくっていくことが非常に重要だということを感じているところであります。

引き続き町民の皆さんとの対話を通じて複雑化、多様化している町民の皆さんのニーズを地域課題としてしっかりと把握していきたいと考えております。

また、行政だけでは実現できない課題もあります。そういったことで官民連携ということ掲げておりますけれども、企業や大学、また国や県、他の自治体、地域と一緒にあって、産学官民の多様な主体とともに、そういった住民の皆さんのニーズに沿った地域課題解決に向けて実践的な取組を行っていきたく考えます。

吉川議員 分かりました。

1—4に入りますけれども、実は、ここに1冊の本がございます。(現物を示す) これをまた町長にも見てもらいたいんですが、「にぎやかな過疎をつくる」という本、小田切徳美明治大学教授が最新版を出しております。

中を見てみますと、この内容につきましては、ちょっとお話しをしますが、にぎやかな過疎は2013年に放映されたテレビ金沢のドキュメンタリー「にぎやかな過疎—限界集落と移住者たちの7年間—」という番組名から借用したものでございます。

映像では大阪から能登半島の石川県羽咋市に移住し有機農業に取り組む若い移住者が主な登場人物でございます。その青年が地域の中で悪戦苦闘する現実、しかし、その活動に伴い地元住民も集落の未来を感じ始める胎動、そして移住者同士が支え合う様子が活写されております。

この作品は、農業ジャーナリスト賞やら、いろいろのレベルの賞を頂いておりますが、この映像が描く印象的な農村像を持ちながら、改めて筆者が各地を歩くと同じような現象に出会うことが少なくなかったというふうに書いてございます。

町 長

移住者や地域の人々が、むしろわいわいがやがやとしている状況であり、まさににぎやかな過疎であるわけであります。つまり、羽咋市を含む能登半島は全国的に点在するにぎやかな過疎の先発地域と言えるわけでありますけども、2024年元旦に大地震が襲い、大きな被害が生じたこと、これが非常に筆者にとっては、この本に書いてありますが、力不足という形になっているという形でございます。

1冊の本が出ているということですが、いずれにしても、当町は人口減少下でも地域で幸せに住み続けるための地域をめぐる政策構想はあるのか、どうなのか、決して飯島町は過疎ではないとは思っておりますけども、その辺をお答えください。

今御紹介のあった「にぎやかな過疎をつくる」という本を書かれた小田切徳美さんですけれども、この方は飯島町にも来ていらっしやいまして、地域複合営農への道の調査で来ていただいております。

また、現在は教授ということで、各方面でいろいろな書物を出されておまして、毎週送られてくる市町村報というのがありまして、私もその中でも小田切先生がいろいろな過疎の取組について記述されているのを読んでいるところであります。

先ほど申し上げましたように、飯島町は地域複合営農への道の中でも最初から居心地のいいまちづくりということで進めてまいりました。居心地のいいというのは、農業に携わる者だけではなくて、地域の皆さん全員がここに住んでよかった、住み続けたい、そんな居心地のいい町をつくっていかうという取組、これをもう40年前から始めているということで、これは特筆すべきことだと考えているところであります。

そうした中で、令和3年度からスタートしております飯島町第6次総合計画、この中では8つの分野別の基本施策を掲げて、その1つに「魅力向上で住みたい・住み続けたい地域づくり」というのがございます。

その中には具体的な施策として6つ掲げておまして、今年度までの5か年では、「町の魅力を生かした観光地域づくり」として千人塚公園の整備、あるいは「若者や子育て世代の人口を増やす」施策として若者層の住まいに関する支援の拡充、「住民参加で盛り上げるコミュニティの機能の充実」として協働のまちづくりの推進事業補助金や町なか活性化の経済循環イベントなどへの補助に取り組んできているところであります。

現在、総合計画の後半となる令和8年度から12年度までの取組について見直しを行っているところであります。前半の5年に行ってきた事業の検証を行うとともに、新たな施策についても検討してまいりたいと思います。

構想でありますけれども、やはり、住み続けたいという基準——住みやすさの基準ですけれども——こういったものには、安全ですとか医療の充実、また文化、環境、教育、インフラの充実、自然環境の保全、こういったものが基準としてあるかと思えます。そういった基準を満たすためにも今申し上げました第6次総合計画の中の8つの分野で取り組んでいるところであります。

その中で、やはり町の魅力向上というのが非常に重要になってきます。魅力向上で、住んでみたい、あるいは住み続けたい、こういった地域づくりをしたり、あるいはにぎわいのあるまちづくり、こういったものを推し進めていく必要があるかと思えます。

前段の御質問にお答えしましたように、やはり、そこに住む人たちが地域に誇りを感じて地域ならではの魅力を発信していくのも重要ポイント化と思います。そのためには、やはり、先ほどのにぎやかな過疎ではありませんけれども、人が集まる動機と居心地のよさ、こういったものを持った町をつかっていくことが必要かと思えます。そして、そこで人と人が出会い、交流が起これ、そして豊かな生活が実現していくと思われま

そうといった具体的などころでは、居心地がよくて少し歩きたくなるような町なか、そういったものをこれから研究してまいりたいと思っております。町には、いろいろな魅力、自然環境もそうですけれども、生活の中にも魅力がございます。そういったものをしっかりと充実しながら、居心地がよく、歩きたくなる町なかをつかってまいりたいと思えます。

吉川議員

分かりました。

先ほど自然環境の整備という話がありました。先生の本の中でもおっしゃっておりますが、若者の人口をどうやって増やしていくか、それから、若者だけではなく、若者と都市から来る者とのごちゃ混ぜ、先ほど言ったにぎやかさ、そういったものをどうやってつくっていけるかということ、それから、もう一つは今言った生物環境、町長も言っている生物多様性という問題があるわけでありま

田舎につきましては、そういうことを大事にしながら、やはり都会に行っている方はこちらへ呼び込む、自然環境を含めた地域循環型の共生圏をつくる、これが大事になってくるかなというふうに考えておるわけですので、ぜひとも——私も御協力をするわけでありま

質問事項の1は終わりにしたいと思えます。

ここからは、任期4年間の集大成と大きく出ておりますが、今までやった質問事項の確認の質問で、再度お願いをしたいというふうに思っております。

「地域に根ざし、生きる力を培う食農教育について」、特に学校給食の関係等でございます。

学校給食に対する今後の地場産優先の供給体制の構築について問うという形であります。

令和5年9月——それ以前も一般質問しておりますが——お話しをしていきたいと思っております。

給食の実施主体である市町村が地場産を優先するというルールを明確にするということは重要であります。行政だけではなく、生産者や農業者、献立を考える栄養教諭など、給食に関わる人が替わっても継続できる仕組み、行政やJAなどは地元でいつ何がどのくらい作られているか——これは前にも私はお話をしておりますけれども——そのデータを整理しておく、その情報を栄養教諭らと共有することで地元の旬の時期に合わせた献立作りに役立ててもらおうと、生産者は給食での提供時期や使用量に合わせた栽培計画や出荷量の調整の工夫も必要であります。

必ずしも大きな収入にならずとも、給食は安定的な需要があります。新たに販路を求める新規就農者の売り先の1つにもなり得るわけでありま

給食納入を通じて農家の取得や意欲が向上すれば、農地や地域農業を守ることにもなります。そして、それは地域の食料安全保障と地産地消でございます。

そんなわけで、2—1のように供給体制の構築について、今までも答弁されておりますが、再度御質問を申し上げます。

教育長

学校給食における地場産優先の供給体制の構築につきましては、地域の農業振興や食農教育の観点からも重要な取組であり、町としても大事にしていかなければならないことであると認識しております。

地場産のものを活用することで地域振興の活性化や新鮮で安全な食材の提供が可能となり、子どもたちの健康を守るだけではなく、地域の食文化や伝統と伝える役割も果たすものだと考えております。

現在、飯島町給食センターにおいては、栄養教諭が中心となり、地元生産者へ、季節の野菜や加工品等、地場産のものをできる限り発注しているところでございます。

また、J A上伊那など関係機関と給食における地産地消会議を実施し、地場産物の情報交換を行い、新たな情報提供があれば新規の発注先の開拓も行っている状況でございます。

地場産優先の供給体制の構築については、地元生産者の皆さんをはじめ、J A上伊那との連携は必要不可欠なものと考えております。

給食センターを含め、行政、生産者、関係団体が一体となり、それぞれの役割を果たすことで地場産優先の供給体制の構築が推進されるものと考えております。

吉川議員

令和5年9月に教育長が同じような答弁をされておりますけれども、さらに一步深く—2—2のほうに入っておりますけれども——私は宮田学校給食の例も申し上げました。生産者、学校給食を育てる会という農家で作られた組織、そういったものが飯島ではできないのかっていう、要するに、J Aだけに頼るんじゃなくて、やはりそういった農家を含めた、栄養教諭も含めた中で供給体制をどうしたらいいかっていうことで、そのためには、まとめる方——コーディネーターが必要だというふうに考えておるわけでありまして、これも令和5年9月に一般質問しておりますが、ちょっと教育長の当時の答弁を申し上げます。

現在は給食センター内の栄養教諭が地産地消に関わるコーディネーター的な役割を担っているところでありますけれども、現状の人員体制の中でその役割を担っていくことは困難な状況であります。

また、栄養教諭は異動の伴う職であり、持続可能なコーディネーターの役割を担うことは難しいと判断しております。

地産地消を推進し、飯島町全体の食育を推進していくためには、地域の実情や農業事情に詳しい方々がコーディネーター役となっただけでいただくことが望ましいのではないかと考えております。

(中略) 農業について豊かな知識をお持ちの方々を中心にして、コーディネーター役の方の設置を私どももお願いしたいところであります。

という答弁でございました。

教育長

それでは、コーディネーターの話、その進展はあるのでしょうか、どうでしょうか。
一昨年9月の議会において吉川議員のほうから同様の質問をいただいております。

現状においては、給食センター内の栄養教諭が地産地消に関わるコーディネーター役を担っているところでございます。給食の食材をできる限り地元生産者へ発注しており、給食における地産地消会議においてはおおむね地元生産者を網羅していると情報をいただいております。

しかしながら、先ほど吉川議員の御指摘のとおり、栄養教諭につきましては、異動の伴う職であり、なかなか持続可能なコーディネーターの役割を担うことは難しいと——一昨年9月の答弁と同じであります——判断しているところであります。

やはり、飯島町の地産地消をさらに推進し全体の食農教育を推進していくためには、地域の実情や農業事情に詳しい方がコーディネーター役となっていただくことが望ましいと思っている状況であります。

しかしながら、現状のところ、なかなかそういった人材が見つからないという状況であります。

しかしながら、コーディネーターが見つからなくても、給食センターとしては地元生産者やJA上伊那と連携を取りながら地元産の食材の情報の交換を行ってきております。

また、学校においてもこれまで実施してきた地元生産者の下で農業体験などを継続し、学校の中だけではなく、地域の方々とともに多様な学びの場を提供できるように努めてまいります。引き続き生きる力を育む食農教育に取り組んでまいりたいと思っております。

吉川議員

同じような答弁でありますけど、私もやりますので、とにかく一度、教育委員会、あるいは産業振興課、あるいは学校給食の栄養士を含めてね、ちょっと話をさせていただきたいと思っております、今後どうするか、そのコーディネーターも含めて。やっぱり立ち上げの会合は大事だと思っておりますので、農家をどうするかということもありますし、そこら辺も含めて1回話をさせてください。それが今後のコーディネーターの設置についてなってくるかと思っておりますので、一歩進めた形の中で進めさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

次に入ります。

「農産物加工施設の建設について」、これも令和6年——昨年9月の一般質問の内容であります。

同僚議員からも関連の質問がありました。町内農産物加工施設の老朽化、30年以上もたっており、今後の総合的加工施設の建設を求める、具体的な計画予定は出ているのかどうか、この辺をよろしく、町長、お願いします。

町長

農産加工施設の建設についてでございます。

先日のむら夢楽塾でも夜なべ談義のときに農産加工をされている皆さんが作られた商品を出していただきまして、おいしくいただいたところであります。それらを作っております加工施設については、一番古いものは平成7年建設ということで、非常に、30年

近く経過しているというところでございます。

そういう状況の中で、新たな農産加工施設の建設につきましては、今申し上げました老朽化の問題はもとより、今後の6次産業化の推進を一体的に考えて、近い将来、新たな農産加工施設の統合整備について、国の補助事業等の活用を目指してしっかりと検討していきたいと考えているところであります。

現時点では、施設の建設場所や規模、運営体制等の検討の過程にありまして、具体的な計画予定までには至っておりませんが、令和7年度から3か年にわたりまして、県の輝く農山村地域創造推進事業、こちらにおきまして多様なアグリビジネスの創出と他分野との連携に取り組みながら、農産物加工施設の再編検討をはじめとしまして、既存の農産物加工品のパッケージのリニューアル、またマーケティング強化の支援、そういったものを行っていきたくと考えております。

県の輝く農山村地域創造推進事業、これを足がかりとして新しい農産物加工施設の建設の研究、検討を進めてまいりたいと思います。

吉川議員

ぜひとも積極的に、もう老朽化し、6次産業化も含めながら早急な計画を立てていただいて、お願いを求めるものでございます。

3-2。飯島地区に南部カントリー施設、これも前に行いました、集約されたということでもあります。集約したことによって、今後、特に米粉、この内容も話をしました。ぜひとも米粉の施設の導入も、加工施設も含めながら、その中に取り入れる、こういったことがJAとともにできないだろうかということです。

令和6年9月の一般質問の答弁の内容で、産業振興課長、

2点目の米の商品開発、米粉施設の整備につきまして御提案いただきましたが、現在、JA上伊那管内での米粉用米の生産はごく一部で、町内での生産もなく、現状で米粉施設の整備はなかなか難しいというふうに考えております。

町長、

加工施設の建設を御質問いただきましたけれども、私も機会あるごとに他市町村の加工施設の見学をさせていただいております。また、担当課でも加工施設について今勉強をしながら研修、研さんを重ねているところであります。

新たな農産加工施設の建設につきましては、前段の答弁でも触れましたけれども、農産加工施設や附帯設備の老朽化の問題、また今後の6次産業化の推進を一体的に考えて、できるだけ早い段階で、新たな農産加工施設の統合整備につきまして、町としても国の補助事業等を活用する中で検討してまいりたいと考えております。

なお、施設の規模や場所、それからJAとの共同事業、こちらについては今後の具体的な検討の中で進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいということで答弁を当時は、昨年はおしてあります。その後どうでしょうか、よろしくお願ひします、米粉施設。

産業振興課長

米粉施設の導入につきまして御質問いただきました。

今お話もあつたように、これは昨年9月議会の一般質問でも御質問いただいておつて、JA上伊那管内での米粉用米の生産は少ないということ、また町内での生産もないとい

うことで、この整備はなかなか難しいということでお答えをさせていただいております。

それと、今日における国内外の情勢というものは不安定な状況が続いておって、今後も主食用米の高騰の継続や米粉の需要の変化が心配されるほか、また一方で、輸入小麦の価格が安定した場合、国産小麦や米粉が価格的に折り合わず、施設や設備投資への影響などが少なからず考えられるところでございます。

このように米粉施設の導入には様々な課題があるところではありますけれど、カントリ一施設の集約に伴う新たな事業の展開の1つの案として、今後、JAとも情報共有や意見交換を行っていきたいと、このように考えております。

吉川議員

せんだって農政懇談会があつて、そのときに私が言えばよかつたんですが、JAがおりましたので。再度、ぜひともJAと協議をしていただきたいと、何かJAはやる気がいらないような話を聞いておりますけど、前、下平町長のときからでありますけど、話をしておりますけど、やる気がいらないというか、米粉については需要がないという話を言っておるようでありますけど、いや、そうではないというふうに思いますので、ぜひ一度、一度といわず二度、協議を、町長も含めてお願いをしたいと思っております。

ぜひともお願いし、これで終わりますが、町民の命と暮らしを守って、さらなる飯島町の発展のため、改革と実現で町政が町民のために前に進んでいくことを念願し、4年間最後の私の3月の一般質問を終わります。

終わります。

〔吉川議員復席〕

議 長

9番 星野晃伸議員。

〔星野議員質問席へ移動〕

9番

星野議員

それでは通告に従い一般質問を始めたいと思います。

最初に1-1と1-2についてお聞きします。

少し前ですが、SMAPの中居氏とフジテレビの一件でテレビ報道がかなりの勢いでされてきました。こうした報道の裏には必ず何か大事な事件が隠されています。

それは、外国人のビザを10年に延ばすという話がありました。外務省はインバウンドを逆手に取ってこのようなことを言っているんですが、なぜ尖閣では外国船が日本の漁業の邪魔し、また国内には拘束されている日本人もいるといいます。こうした反日の国のビザを——ビザを与えることも不思議ですが——なぜ延ばすのでしょうか。最近の日本を他国が恐ろしいスピードで侵食しています。

我が国は、現在、外国人の土地の所有が認められているので、北海道ニセコではホテルや土地が外国人富裕層に買われて、ラーメン1杯が3,000円だそうです。また、大事な水源を外国人に買われ、農業や生活にも影響が出ています。

そして、中学生が修学旅行で行く嵐山でも日本の文化であり神聖な日本の文化をマナーの悪い外国人がごみを持ち込み汚し、また土産屋さんも外国人に買われて経営されています。

大阪では、学校、病院なども外国籍富裕層に買われ、日本人の学びの場、また病気の

際に病院にかかれぬという状況も生まれています。

これは全て政府が外国人の土地の所有を認めているからだとは私は考えます。

そこで、私たちは、子どもたちや孫たちの生活を守るためにも、飯島町として条例をつくり、これ以上外国人に土地を売らないような施策を取ったらいかがかと思えます。

近隣の状況を調べてみました。

松川町は今のところゼロ、中川村もゼロ、そして駒ヶ根は、まだ把握できていませんでした。

宮田村におきましては、住宅つきが5件、企業跡地で4,500平米、それで、ごみの再生場につきましては2者があります。

それで、飯島町は、忙しい中、松村課長が調べていただきまして、外国人が所有している土地の筆数が55、面積としまして4万860平米ということでありました。ですので、何とか飯島町を守るためにも外国人に土地を買われない条例などをつくってはいかかかと考えますが、町長のお考えをお聞きします。

〔唐澤町長登壇〕

町 長

外国人に土地取得されないような条例の制定という御質問でありました。

まず、個人が土地を所有する、このことは日本の法律においても認められております。ですので、町も国の法律等を遵守しているところから、個人が町内の土地を取得することは可能であり、特に問題ないと考えています。

農地の取得につきましても、令和5年4月から下限面積要件が撤廃されまして、法律上は適正に農業を行う者であれば誰でも農地の取得ができるようになっております。

また、宅地等への農地転用に伴う農地取得につきましては、市街化しているところはいいですけれども、生産性の高い優良農地などの場所では転用できないと、そういう農地法上の取扱いとなっております。

個人が土地を取得する際の注意点、そういったところにつきましては、公有地の拡大の推進に関する法律、これは公拡法と言われております法律ですけれども、それに基づく手続が必要な場合があります。特に、一定面積以上の土地を有償で譲渡する場合には事前に地方公共団体に届出を行う必要があるとなっております。

問題の外国人の土地の取得に対する条例をとということでもありますけれども、国は、1925年、こちらに外国人土地法を設定しまして、外国人や外国法人が日本において土地を取得する際の権利を定めているところであります。この法律によりまして、外国人は日本国内で土地を所有することが可能ですけれども、特定の地域においては制限が設けられているところであります。特に自衛隊の基地の周辺ですとか原子力発電所の周辺、そういった重要な地域では土地に取得に関する規制が強化されております。

2022年9月、こちらは、重要土地等の調査法というのが施行されまして、外国人による土地取得に新たな規制が設けられたところであります。この法律は特定の重要な土地の取得や利用に関する調査を行うもので、国の安全保障に関する地域、先ほど申し上げましたような安全保障に関する地域での土地取得を監視する目的があります。これによりまして外国人の土地取得に対する透明性が高まり、地域住民の安全が確保されている

ところであります。

また、近年は、海外に移住する日本人や海外の外国人投資家による日本への不動産投資、そういったものが増加しておりまして、所有者の把握、連絡を取ることが困難となることが問題視されているところであります。そのために、不動産所有者の明確な特定と連絡先の把握を目的としまして、去年になりますけれども、2024年4月に不動産登記に関する法律等が改正されて施行されております。

主な改正内容につきましては、外国人の氏名を漢字、片仮名で登記することに加えまして、ローマ字でも表記が必要となっております。

また、海外移住者に対しまして国内の連絡先事項の情報提供が義務づけられているところでございます。

私も、先ほど掲げられました北海道等での水源地の外国人による土地取得については、もう10年以上前から問題視されておりまして、いろいろ注視してきたところであります。

飯島町にも水源池がありまして、水源池の周辺の土地の状況についても調べたところでありますけれども、飯島町の水源地につきましては、国有林、また町有林等の公有林が多いものですから、そういった心配は今のところないということでもありますけれども、やはりそういった水源池をある特定の方が取得するというのは非常に問題があると思いますので、今後、注視していきたいと思っておりますけれども、議員の御質問にあります条例をつくる考えにつきましては、今のところ予定はしておりません。

先ほど申し上げましたように、外国人の土地の取得、これは、さらなる規制の強化や——市場の変化に影響される可能性がありますので、特に国際情勢や経済状況の変化によりまして外国人投資家の動向が変わることが予想されます。そういったことに伴いまして土地取得に関する法律や規制も見直しされる可能性があるため、注視していく必要があるかと思っております。

なお、昨年の12月23日に議員立法として外国人土地取得規制法案というのが提案されております。これらの動向も注視してまいりたいと考えております。

[唐澤町長降壇]

議 長 星野議員、町長は2番までお答えになったというふうに解釈して……

星野議員 はい。大丈夫です。大丈夫です。

議 長 よろしいですか。

星野議員 分かりました。

それでは1—3の質問に入ります。

株式会社わらむ西側の宅地造成も済みまして、町道が真ん中より少し中まで入って、できていました。この写真がそうなんです、正面に見えるのが郵便局です。

それで、この土地に当たりましては、国道側にある古い家も解体ということで更地になる状況なんです、町としてこの部分の計画は何か考えているのかをお聞きしたいと思います。

町 長 旧道沿いの建物の除却については私も非常に興味を持っておりまして注視しておりま

したけれども、このたび解体するというようなことで、あの土地一帯が開けた土地になるというのは承知しているところであります。

町では、この周辺の開発計画の予定は持っておりません。民間開発を期待しているところでございます。

星野議員 この道なんですけど、途中で終わっちゃっていて郵便局のほうには行っていない状況なんですけど、この道自体はどのようにお考えになっているのか、お聞きします。

建設水道課長 まず、御質問のこの写真の道路でございますけれども、柵のある向こう側、これでいくと手前側のところまで町道認定をさせていただいております、6月議会だったかと思えます。その向こうは民間の宅地分譲等で開発が進められておりますので、町長の答弁にもなりますけれども、民間の開発を今は期待しているところでございます。

星野議員 ここまで空いたので、郵便局側のほうに道が空けば非常に便もいいと思いますので、ぜひ一歩努力をお願いします。

次に「不法投棄について」お聞きしますが、現在、不法投棄のパトロールについての人数、また日数、範囲などをお聞かせください。

住民税務課長 今御質問をいただいた内容についてお答えをいたします。

現在、不法投棄物のパトロール及びポイ捨てなどの不法投棄物の回収はシルバー人材センターに業務委託をしております。

パトロールの人数ですけれども、1名で、毎週1日、年間52日、不法投棄されやすい人目の少ない道路ですとか、過去に大規模な不法投棄があった場所を中心に町内全域のパトロールをお願いしております。

また、このパトロールとは別に、住民の皆様から不納登記の連絡をいただいた際には生活環境係の職員が現場の確認、不法投棄物の内容物の調査の実施、回収を行っております、必要に応じて警察とも連携して対応しております。

星野議員 ありがとうございます。巡視して不法投棄を取り締まっていたという状況とは思いますが、今この写真にありますところが赤坂の番地でございますと2148—4という場所です。

これ、今画面の右側に農機具の古いものが置いてあるんですけど、ここは町の土地かなと思ったら個人所有の土地でした。でも、調べてみると、赤いくいがありますので、ここの部分をちょっと注意して見ていただきたいということと、景観から言いますと、本当に町の国道から見えるところですので、非常にいい状況とは言えないと思いますので、ここら辺も、一度現場も見ていただきながら、また赤坂の自治会の皆さんも注意していただきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

続きまして3の質問に入ります。

現在、学校関係の文化施設のWi-Fiの状況はどのように配置されているのかをお聞きします。

教育次長 それではお答えいたします。

学校関係のWi-Fiの設置状況につきましては、各校校舎及び体育館の全てにおいて使用できる環境になっております。

また、文化館のWi-Fiの設置状況についても、令和3年度に文化館の環境整備工事を行っております。全館でWi-Fiが使用できる環境となっております。

星野議員 3-2なのですが、現在、三石先生を中心に非常にバレーボールの活動が活発になっておりまして、それこそ全日本ベスト5クラスの中学生在が練習試合等に来ております。その際にどうしてもWi-Fi環境を指導者が使うことがあるそうですので、その中で、Wi-Fiの環境を体育館の中に取り入れてもらうことはできないのかをお聞きします。

教育次長 御質問の——町内には体育館が7つあります。それで、うち3つは学校の体育施設、それから、4つは社会体育施設になります。これらの体育館においてWi-Fiの設置はしておりません。

なお、3つの学校の体育館においては、学校のWi-Fi環境を利用して、体育など、学校の授業で利用できる状況になっておりますが、一般のWi-Fiとしての開放はしておりません。

町内のスポーツ団体がネットを利用して活動している状況という部分、詳細までは把握しておりませんが、施設を利用されている団体の皆さんからWi-Fi環境整備に対する要望というのは今のところありませんので、現在の段階では体育館へのWi-Fi環境の整備予定はないところでございます。

星野議員 ということなので、できれば、今はモバイル型のWi-Fiというのがあるので、教育委員会で1つ買って、パスワードを中心にそういう指導者に使わせるというようなお考えってどうか、予算取りをしていただけないかどうか、お聞きします。

教育次長 いろいろな御要望等をまだ伺ってはおりませんが、また町内の施設を使用されているスポーツ団体の皆さんといろいろな意見交換、情報交換を行いながら、また使用の必要性に応じた検討をしてみたいと思います。

星野議員 じゃ、よろしくお願ひいたします。

では最後の質問に入ります。

飯島流ワーケーションについてですが、現在iiネイチャーで食事が提供されていると思うんですが、このメニューづくり等はどのようにどのようなメンバーで構成し、また考えているのかということをお聞きしたいと思います。

町 長 iiネイチャーの食事のメニューづくりということでございますけれども、iiネイチャー春日平につきましては、令和6年度——今年度からですけれども、宿泊、それと農業体験、そういったメニューや地元の食材、食品をセットとして提供するパッケージプラン、これに取り組んでおります。

議員の御質問のメニュー、あるいはメンバーにつきましては担当課長から申し上げます。

地域創造課長 現在iiネイチャー春日平で提供しているメニューでございますが、バーベキューセットや鍋セット、それから朝御飯及び馬刺しやアルプスサーモンなどの地域食材を使用したものとなっております。

御質問のメニューのつくり方でございますけれども、宿泊されたお客様の御要望などもお聞きしながら、事務局や協議会にて個別に店舗の皆さんと相談してメニュー化をし

ておるところでございます。

また、メニューの提供に御協力いただいている店舗、メンバーにつきましては、現在、町内4店舗の方々に御協力をいただいているところでございます。

星野議員

4店舗ということなんですけれど、やはり——バーベキューセットって言いますけども、バーベキューはふだんで考えると焼き肉っていうように考えちゃうことがあると思うんですけど、もうバーベキューそのものが非常に進化していますので、4店舗なら4店舗の皆さんを集めて、勉強会なり、講師を呼んでそういう勉強会をしたりということをしていかないと、なかなかメニューの構成が進化していかないと思うんですけど、そういう点の勉強会や、例えば材料代のような予算取りはできないのかをお聞きます。

地域創造課長

i i ネイチャー春日平は、食品衛生法の関係によりまして現施設ではトレーラーハウス内での調理や加工というのはできないというふうになっております。したがって、各店舗で盛りつけ等をしていただいた品をそのままお客様に提供する、言ってみればデリバリーのような形を取っているのが現状でございます。

議員の御質問の食事部会や試食等の勉強会につきましては、令和5年度末まで国庫補助金の交付を受けまして、その体制づくりの中で、提供できる食事メニューの検討、それから提供方法や試食会を、飯島流ワーケーション推進協議会でございますが、その内部で行ってきた経過が1つはございます。

今後につきましては、運営主体が4月から変わってまいりますけれども、その運営主体と協議をしていくということになるかと思えます。

しかしながら、当面はこれまで同様のデリバリーのような取扱いになってしまうのかなというふうに思えます。

ただし、新しいメニューの提供をいただける店舗を増やしていく——今は4店舗と申し上げましたが——もっと町内の店舗の皆さんに御協力いただくこと、これはやっていかなければいけないかなというふうに思えます。

また、今のところ予算の確保というのはなかなかできておらないところでございますが、食べ物を提供いただける店舗の皆さんとは、今御提案いただいた新しいメニューとか、そういったものの検討するような話合い、こういった場合はぜひ設けていきたいなというふうに思っております。よろしくお願ひします。

星野議員

何しろ、旅先で何が楽しいっていったら、やっぱり食のことが挙がると思えます。なので、私たち、飲食店をやられている方たちも勉強はしていますので、ぜひ多くの知恵を集めて、来ていただけるお客さんが楽しいワーケーション事業になるような形でいきたいと思えますので、ぜひしっかりと予算を取っていただいて勉強会ができるような形を取っていただきたいということ意見いたしまして、私の質問を終わります。

ありがとうございました。

〔星野議員復席〕

議長

ここで休憩といたします。再開時刻を午前10時40分といたします。休憩。

休憩

午前10時20分

再開	午前10時40分
議長	<p>会議を再開いたします。</p> <p>一般質問を続けます。</p> <p>5番 宮脇寛行議員。</p> <p>[宮脇議員質問席へ移動]</p>
5番 宮脇議員	<p>それでは通告に従いまして一般質問を行います。</p> <p>今回は3件のことについて質問をいたします。</p> <p>初めに基幹産業であります農業支援について確認します。</p> <p>1-1ですけれども、前回の一般質問で令和7年度について確認をした中で小規模農家応援事業補助金を希望いたしました。行政としては継続の方向で考えているという回答をいただきました。喜んで、また今回、配付された令和7年度の予算書を見たところ、小規模という言葉が外れておりました。どうも、私が一年間、小規模小規模って連呼した、これが影響しておるのかなと、そんなふうに考えましたけれども、なぜ小規模という言葉を外したのか、確認をいたします。</p> <p>[唐澤町長登壇]</p>
町長	<p>未来へつなぐ小規模農家応援事業、なぜ小規模を外したのかという御質問でございます。</p> <p>令和6年度から開始しました未来へつなぐ小規模農家応援事業補助金、これは来年度から未来へつなぐ農家応援事業として継続実施してまいります。補助金交付の仕組みにつきましては、内容を含めまして、考え方に変更はございません。御安心いただきたいと思っております。</p> <p>当初、本補助事業の実施に当たっては、比較的規模の小さな農業者を含め、それぞれの農業経営を安定的に行うことで町農業の維持、活性化につなげていくことを目的としまして制度設計をいたしました。</p> <p>今年度、補助事業は比較的規模の小さな農家も多く利用いただけてきたところでございます。</p> <p>来年度も必要な予算を確保した上で補助金交付要綱に沿って安定的かつ適正に継続実施してまいります。</p> <p>[唐澤町長降壇]</p>
宮脇議員	<p>今考え方に変更がないということだったんで、後ほどちょっとその件についても触れていきたいなと思っております。</p> <p>2つ目の質問に入りますけれども、やはり前回の一般質問で、小規模で販売を目的としていない農家、この方たちも農地を維持という形で農業を続けている農家もあるわけで、農家応援事業の対象とすることを希望いたしました。町長も農地を維持されているのかは大切に、支援について検討していくというようなお答えをいただいたように覚えております。</p>

それで、そのことについて、時期や内容についてどのような考えがあるかを確認いたします。

町長 農地を維持していく上で、農地を手放しても農家の皆さんが何らかの形で農業に関わっていただく、こういう仕組みというのは非常に重要なと考えております。

町を挙げまして38年余り——約40年になりますけれども——取り組んでおります地域複合営農、この中では、専業農家も兼業農家もそれぞれの向きにあった農業を続けられる体制づくり、これを地域ぐるみでつくるにはどうしたらいいか、それぞれ先人の皆さんが真剣に考えて、昭和61年ですけれども、営農センターを築き上げてきたところであります。この考え方は現在も引き続いて根底にありますし、農地という地域資源、これらを農村社会全体で守ることで地域の農業が持続可能な仕組みを維持することにつながっていくものと思います。

小規模で販売を目的としていない農家や、あるいは農地維持で農業を続けている農家に対する支援につきましては、特に農地の維持管理についての課題が多いと認識しております。

現在、教育制度の再徹底を呼びかけておりますけれども、一過性によらない補助事業、1回交付してしまうと、機械は購入されるんですけれども、その先、そういった農地維持の仕組みが継続できるような管理の受皿となるような仕組みづくりについて、これから検討していきたいと思っております。令和8年度からはそれらが実施できるように検討を進めてまいりたいと思っております。

宮脇議員 そうですね。社会全体ということだったと思うんです。やっぱり地域がみんな一緒になってこのことに取り組んでいくというのが非常に重要だと思うし、町長も以前の一般質問では、昔の協業っていう仕組み、これをまた掘り返していく、これが需要じゃないかということをおっしゃっておられて、私も特にそれは思っていますので、ぜひこんなことを検証しながら、令和8年度から実施ができるようなふうに進めていただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それでは3番目です。

これも一年間言い続けてきました。やはりこの事業でメンテナンスや修理も補助対象とすることを毎回要望してきた記憶があります。

その中で、行政側からは、完全に修繕に至らず早い段階で再度修繕が必要になるケース、それから、農機具の修繕費用については確定申告で計上して税を控除できる、そういう可能性があること、それから、農業者の初期投資に関わる負担軽減が目的であると、これは先ほど町長がおっしゃられたことにつながってくるかなと思いますけれども、そんなこと、さらには、補助事業、町側として修繕内容や修繕経費が適正か、このことの精査が非常に難しいと、そういうことで補助事業が複雑化するということがあり、はっきり否定されました。補助対象としないと、こういうことで否定されました。

多くの企業は、故障時にはまず修理を考えるとと思うんですね。これは農業でも全く同じで、故障したりしたときにはまず修理を考えます。それで修理が不可能という場合には、初めて更新ということを考えて思います。

特に小規模の農家では高額な農機具購入は不可能、そういうふうな状態じゃないかと思えますし、そうなるとう農業の継承は非常に難しいというふうに考えられます。

特に新規就農者は経済的に非常に厳しいわけで、中古車の購入が多く、メンテナンスや修理の補助があると非常に助かるというのかもあります。

再度、メンテナンスや修繕を補助対象とすることを希望するわけですが、検討の余地は全くないでしょうか、確認します。

産業振興課長

御質問のありました本補助金におけるメンテナンスや修理費用に対する補助金につきましては、さきの6月議会、9月議会、また12月議会でも同様の質問をいただいたところではありますが、これまでお答えした内容に変わりはなく、補助対象とする考えはございません。

宮脇議員

今、担当課長から考えることを否定されました。

町長も来年度の予算概要の説明の中で環境共生の推進には3Rの推進が重要というふうに言っておりました。

町長もメンテナンスや修繕の補助支援について全く考える気がないのか、お答えください。

町長

環境共生の中では3Rということで推進していくということをうたっておりますけれども、本事業につきましては、補助の内容の変更は考えておりません。先ほどの課長の答弁のとおりでございます。

なお、仕組みとしましては、先ほど申し上げましたように、やはりみんなで機械を管理していく仕組みですとか、あるいは国の考えていますリース事業による事業の推進、こういったところも注視しながら今後検討してまいりたいと思います。

宮脇議員

町長からもはっきり否定されました。ちょっと残念かなと思っております。

農業支援については以上といたしまして、次の2件はほとんど地元、田切のことですけれども、一部は町全体に関わることかなと思いますので質問をいたします。

伊南バイパス田切中央交差点南西側の4車線化用の道路の敷地の活用についての確認をいたします。

初めに、伊南バイパス田切中央交差点南西の4車線化用道路敷地は、現在、未施工地という形になっております。それで、周辺を含め、区会では草刈り等で環境整備をしておりますけれども、夏場には雑草が茂りまして、また防草シートの割れ化が進み、破れて風で舞い上がり、近隣住宅や農地のほかに道の駅にも破片が飛んできて、利用者からは苦情が寄せられていると、そういう状況であります。

この状況は非常に見苦しく、景観上もよくない状態だと、そんなふうに私は思うわけですが、田切区からも要望があつて、出ておると思いますが、バイパス道路と平らになるように埋め立てて駐車場として活用することを、私も、地元としても要望しています。実現すれば、藤巻川の桜並木のお花見や道の駅のイベント時にも有効活用できる、また近隣での災害発生時にも避難所として活用できるというふうに考えております。

県の管理下にあることは承知をしておりますけれども、先ほど述べたとおり、要望に

時間がかかる、実現するのに非常に時間がかかるということであれば、少なくとも防草シートの張り替えぐらいは早急に実施していただくように要望したいと考えております。駐車場としての活用も併せて、行政側の考えを確認いたします。

町 長 伊南バイパス周辺の余地の防草シートにつきましては、管理します伊那建設事務所等へも現地調査の折に要望しているところでもあります。

御質問のありました伊南バイパスの田切中央交差点付近の防草シートにつきましては、平成26年11月に完成して以来、もう10年が経過しまして、劣化しているという状況把握しているところでございます。

議員さんもおっしゃられたように、町としましては、建設発生土、こういったものを活用して4車線化事業用地に入れることで、例えば一時的な駐車場や緊急車両の駐車スペース、こういったものに活用できますし、また建設発生土の処分費の縮減や道路のり面の管理の負担軽減、そういったことにもつながると思いますので、有効活用を要望していきたいと考えます。

宮脇議員 ありがとうございます。要望していくということではありますが、実際には非常に難易度が高いのかなというふうにちょっと思うわけですが、形状を見ると、緩やかな傾斜がありまして、藤巻川に向けて途中から一気にずっと下がる。

私としては、希望の中にぜひ入れていただきたいのは、藤巻川の近くまでコンクリ壁かなにかでかさ上げをしていただいて、平らな面を大きく取っていただきたいということも併せて県のほうに要望していただきたいと思いますと思うわけですが、行政側はその辺のところについて何か考えがありますでしょうか。

建設水道課長 御質問の場所につきましては、御案内のとおりバイパスの西側でございます。ざっと面積も1,300平米ほどございまして、土も2,000立米ほど入るかなという、そういったところでございます。

県のほうには地元の皆さんの意見も添えて要望を継続してまいりたいと考えております。

その中で、今、議員さんのおっしゃられた南側への擁壁の施工、いわゆる完成での施工に近いかと思しますので、そういった部分も含めて県と協議をしていきたいと思えます。

宮脇議員 ありがとうございます。県のほうと接触して感触がどんなふうなのかということもちょっと聞きたいという思いはありますが、なかなか思うようにいかないと思しますので、少なくとも、もし随分先になるようであれば防草シートだけは何とかしてくれというような形でぜひお願いをしたいなということをつけ加えまして、次の質問に入っていきます。

次に、やはり田切地区の関係でございますけれども、田切クリーンセンター埋立て処分場跡地の活用について確認していきます。

行政も承知していることですが、田切地区に産業廃棄物の最終処分場がありまして、第1処分場は既に廃止という状態になっています。廃止っていうのはどういうことかということ、埋立て廃棄物の発酵等がなくなりまして、地盤沈下や水質等が問題ない

と、そういう安定した状態となり、事業者として管理を必要としない状態、これを廃止というふうに言っているということでもありますけれども、そんな中で、第1処分場は廃止の状態になって既に5年ほどたっていますかね。

それで、現在は管理中ということで、第2埋立地と第3埋立地、ここも廃止に向けた取組、3年ぐらい先に廃止ということに向けて取り組んでいるということを確認しております。廃止というものが実現すれば、およそ1万5,000平方メートル平らな土地ということになります。

それで、事業者と廃止後の土地の活用については地元の意向に沿った活用をするということを約束しております。

町長も都市計画のマスタープランの改定では具体性のある姿を地区別に定めるということをしてたしか言っておったと思っております。

それで、田切地区の場合は田切の里を中心とした将来ビジョンを確立するということが最善というふうに私は考えております。近くには藤巻川の桜並木や日方磐神社、それから、あとは個人の丹精されたハナモモ、それから公民館と体育館というような地区内の中心地であるというふうに私は考えております。

さらに、今の話の埋立地が廃止という形になれば、広大な埋立地の跡地活用ということを考える必要があるのかなと、そんなふうに思っております。その活用ができれば、地元はもちろん、町の活性化も期待ができるわけであります。

それで、地元では、一年間を通じて、集客、お客様が来てくれる、そんなようなことが望める花園にしたらどうかというような意見が出ておりますけれども、事業者と地元と行政が一緒になって進めないとなかなか進んでいかないのかなと、また、交付金を受けるにはそういう仕組みがやっぱり必要じゃないのかなと、そんなふうに考えていますけれども、行政の考えを確認いたします。

町長

田切クリーンセンターの廃棄物の最終処分場2地目、3地目のこれからの方向についての御質問でございますけれども、1地目につきましては、今は解放地ということで、管理が終了して5年がたっているところであります。

2地目、3地目——第2・第3処分場につきましても管理終了に向けた準備段階であります。現在は、真ん中を町道が通っておりまして2つに分かれているような状況でありますけれども、それを一体的に管理できるような形にしていきたいということでクリーンセンターでは考えているようではありますが、広大な土地になります。これからの跡地利用につきましては、地元、あるいはクリーンセンター、町、この3者で次の利用と管理も含めた協議をしていく必要があるかと思えます。

特に、現在は、桜が植えられておりまして、ブッポウソウの巣箱がかけられたり、あるいはミヤマシジミの繁殖地にするということでのり面にはコマツナギが植栽されておりまして、ミヤマシジミも復活してきているところであります。

耕土が浅いということもありまして、なかなかいろいろな植物を植えても根張りができなかつたりして、今現在、桜もあまり大きくなっていないというのが状況でございます。

そういう状況の中で、やはり活用につきましては、皆さんと協議をしてみたいと思いますが、やはり花を見られるような場所にしたり、あるいはいろんな低木の樹木で花が観賞できるような場所にしていけたらというようなことで考えておりますけれども、それらを含めまして今後協議を進めてまいりたいと思います。

先ほど吉川議員の御質問にお答えしましたように、やはり人が交流して居心地のいいような場所になるように、道の駅を中心として一帯を整備できていけたらいいかなというふうに考えているところでございます。

宮協議員　そうですね。今、町長からほとんど私が考えていることと同じ方向性が示されたわけですね。

でも、やっぱり何らかの組織をつくって取り組んでいかないとなかなか難しいと思います。

地元には苗屋さんも何人もいます。そういう意味では草花も考えられますし、ツツジ科だとか、低木もいいかなと思います。

ぜひ、こんな形で活用することで、どちらかというとあまり世の中に出していきたくないような土地ではあっても、活用して、こういうことできちっと行政も住民も一緒になって安全な公園みたいなものができますよっていうことを世間に知らせていくということも大変重要かと思っておりますので、ぜひ取組を進めていただくこと、それを最後にお願いしまして、私の一般質問を終わりにします。

〔宮協議員復席〕

議　長　ここで昼食のため休憩といたします。再開時刻を午後1時30分といたします。休憩。

休　憩　午前11時08分

再　開　午後　1時30分

議　長　会議を再開いたします。
休憩前に引き続き一般質問を行います。

1番　伊藤秀明議員。

〔伊藤議員質問席へ移動〕

1番
伊藤議員　それでは始めたいと思います。

今日は本当にぼかぼかして春のような暖かい日ですが、3月3日はひな祭りでございます。と同時に町長の誕生日でもありますね。余談でありました。

それでは暑い話をします。

1番「学校体育館空調整備について」です。

暑くなりますと、当然エアコンが、教室にはもう全てにあります、体育館はまだ未整備です。これは前回も議会で質問しました。

1番。国では2024年度補正予算に空調設備整備臨時交付金を799億円計上したんですが、非常に手を挙げる市町村が少なく、195億円、87%は未執行であります。そのた

め、国は急遽2月中旬に空調整備を加速するため追加募集をすることになりました。緊急でありますので、これは3月中旬を締切りとしています。補助率は2分の1、上限額は7,000万円。

以前にも質問しましたが、体育館が避難所になった場合には高齢者の体調管理、また体育の授業では熱中症が非常に心配されるところであります。同交付金を利用した早急の設置を希望するものです。

それで、今回は条件が緩くなっていて、前は断熱と一緒に工事しなさいということでしたが、断熱の工事はその年でなくても令和15年度までにやればよいということで、体育館の空調の光熱費、これは全て交付税で措置されるということで、緩い条件になっております。ただしリースのものは駄目ということで、これについて町の考えを伺います。

〔片桐教育長登壇〕

教育長

御指摘の学校体育館の空調設備についてということであります。

飯島町には小中合わせて3つの学校体育館がございます。3つの学校体育館は指定避難所であり、現在、アリーナの空調設備機能はないところであります。

議員の御質問のとおり、国では避難所となる学校体育館の空調設備の設置補助の募集をしており、補助率2分の1で、上限は7,000万円となっております。

町でも、学校体育館への避難所機能の強化という視点から、空調設備の必要性は理解をしております。

体育館は床面積が広く高さも高い空間ですので、空調設備には機能も出力も高い性能が求められます。

また、現状の体育館は断熱性能が悪いため、そのまま空調設備を導入しても効果的でないことや、建設されてから年月もたっており、老朽化している部分も含め体育館全体の改修が必要となるため、大きな予算が必要となる見込みであります。

また、大規模災害による停電になることも想定すると、蓄電機能を備えた非常電源設備設置も必要となってくると思われます。

補助率が2分の1ということですが、その予算の半分は町の財源を確保する必要がありますので、体育館の長寿命化も含め、施設全体の合理的な改修の検討が必要となると考えております。

近年は、地域コミュニティの拠点でもあり、災害時には一時的な避難所として最も役割を果たす集会所や公民館には空調設備が計画的に整備されてきております。

特に、今年度、町では避難所機能をさらに高めるために4地区公民館の使用している全ての部屋への空調設備の整備を行ったところでございます。

なお、夏場の体育館を利用する学校の授業においては、まず窓を開け風通しをよくすること、適度な水分補給、涼しい服装、無理な運動を控えるなど様々な熱中症対策を取るとともに、併せて今後は冷風機やスポットクーラーなどを設置したいと考えているところでございます。

また、学校施設では、教室など、学校体育館以外は空調設備がほぼ整備されておりま

すので、災害時の避難所になった場合は避難された方の熱中症対策として授業再開に最小限必要な普通教室以外の学校施設の開放も1つの有効な手段と考えております。

これらのことから、学校体育館への同交付金を利用した空調設備の早急の設置について現状では考えておりませんが、今後の学校体育館の長寿命化改修を見据えながら研究してまいりたいと思っております。

〔片桐教育長降壇〕

伊藤議員

スポットクーラーでも十分機能は果たせると思うので、もう今年の夏は目に見えて、毎年どんどん暑さは上がっていきます。生徒も授業中、体育とはいえ、もう暑いところに体を動かせば余計に暑くなっちゃうので、せめてもの対策としてスポットエアコンでもつければすごく違うと思うので、ぜひ前向きに検討していただくことを希望して、2番に移ってまいります。

2番、小中学生の使用後のタブレットの取扱いについて質問します。

小学校6年生、中学3年生は卒業してしまいます。そうした場合、使っていた端末はどのように処理するかを教えてください。

教育次長

それでは御質問にお答えいたします。

当町においても令和2年度からGIGAスクール構想において児童生徒1人1台の端末を配付し、授業で活用しております。

御質問の小学6年生や中学3年生が使用していた端末は卒業後どうするかでございしますが、使用していた端末は、それぞれ、小学校は2年生に、中学校は新しく入学される新1年生に利活用していただいております。

なお、タブレットの中身の個人情報等については、ICT支援員の指導の下、初期化、新規設定を行い、利活用できるよう行っております。

伊藤議員

個人情報が入っているので、ぜひそこら辺はきちんと、業者に委託したとしても責任を持って漏れることのないようお願いしたいと思います。

これは2-2にも関係していますが、個人データ、今、業者がやると言っていたんですが、ある市役所のパソコンが業者に渡ってデータが漏れちゃって、それが新聞に載ったことがあります。これはもう大変な事件なんで、慎重の上に慎重な扱いをしてもらいたいと思いますが、個人データの処分、もう一度お願いします。

教育次長

個人データの部分については、端末をお返ししていただいた段階で、専門のICT支援員指導の下、必ずデータを消去するという行っております。確実に消去するという行っております。

伊藤議員

端末のパソコン、これは別の話になりますが、ウィンドウズ10が、今年の秋ですか、もう終了になって、書換えの時期になっています。役場のパソコンはある業者に委託するということをちらっと聞いていますが、そこら辺も——これは質問ではありませんが、慎重にデータ処理を、ましてや役場のパソコンなんで非常に個人情報やいろいろな情報が入っていると思うので、慎重にお願いしたいと思います。

3番に移ります。

制服検討委員会の進捗をお聞きしますが、今後、委員会をいつやる予定でおるか、そ

教 育 長

こら辺の進捗状態をお願いします。

伊藤議員のほうから再三尋ねいただいた制服の検討であります。来年度より具体的な検討に入っていく予定であります。

制服の検討につきましては、単に制服をどうするかというだけではなく、この機会に子どもたちが中学校生活について改めて振り返り、見直していく機会であると捉え、新3年生を中心として学習活動の一環として位置づけていく予定であります。

飯島中学校は令和9年度に70周年を迎えることとなります。その年度中に新しい制服のお披露目をし、令和10年度の新入生から新たな制服を着用していくというスケジュールであります。

小学校の保護者の皆さんのお考えや御意見をお聞きしながら進めていくことはもちろん、小中学生の制服検討委員会への参加も計画しながら進めていきたいと考えております。

なお、今年度中に飯島中学校の生徒及び教職員にこの旨をお伝えし、新年度のPTA役員が新たになったところで第1回の検討委員会を開催し、スタートさせていく予定であります。

伊藤議員

3-2の回答もいただきまして、ありがとうございます。

制服関係を学習の一環として子どもたちが自ら考えるということは、非常に教育上でも評価いたします。

ぜひ確実な進捗をよろしくをお願いします。

では4番に移ってまいります。「福祉タクシー券について」です。

福祉タクシー券の利用条件が大分緩やかになりました。今までは家庭の中に免許を持っている人がいたら駄目だとか、いろいろ厳しかったんですが、そういうことはなくて、高齢者が独りでいれば支給されるようになったということとか初乗り運賃の値上げによって640円から700円に上がったということは、大変利用者は感謝しておると聞いております。

その一方でこういう問題が発生します。年間で同じ36枚の利用券を頂いて、町場に近い方はいいですけど、遠い人、高遠原とか、もう駒ヶ根に近い人はすぐ終わっちゃうという声を聞くんですよね。ちょっと不公平感があるんじゃないのという声を聞いています。

それで、例えばですけど、役場を中心に考えて、そこから一定の半径の距離以上の人は何らかの措置、枚数を増やすとかの改善を行えば一番いいと思いますが、そこら辺の考えをお聞きします。

健康福祉課長

福祉タクシー券につきましては、高齢者等、移動困難者への移動支援対策としまして交通手段のない方へ交付しております。多くの住民の皆様にご利用いただいております。

御質問のお住まいの地域による交付枚数に対する御意見はこれまでもいただいているところでございます。

しかしながら、福祉タクシー券の使い方について、これまでも申してきましたが、外出の目的や頻度、買物の場所や通院先等、人それぞれでございます。

また、これまでの福祉タクシー券の利用状況におきましてもお住いの場所によって利用に傾向が見られるというようなことはございませんので、これを考慮した配付枚数の見直しにつきましては、現時点では考えておりません。

今後も利用者のニーズや利用状況の把握を行いながら、公共交通施策、こちらとも連携して、高齢者や障がい者の生活の足、移動の支援について検討していきたいと考えております。

伊藤議員

遠方の方も、ぜひ何とか利用しやすく、どう考えてもちょっと不公平じゃないかなと思います。そこら辺、ぜひ対策を考えることを希望します。

5番に移ります。「带状疱疹ワクチンの補助について」です。

これもまた質問しますが、いよいよ今年4月から65歳以上の高齢者を対象に带状疱疹ワクチンの定期接種を開始することが決定されております。接種費用の3割程度が地方交付税措置により補助されることも確定しております。

接種費用の個人負担、3割が国、あと7割は個人で、3割プラス、あと2割を町で助成していただけると半額助成ということで、非常に高齢者は半額負担で済むんで助かると思いますが、そこら辺の考えを伺います。

健康福祉課長

带状疱疹のワクチン接種につきましては、令和6年12月、国の予防接種基本方針部会において高齢者のインフルエンザや肺炎球菌、コロナワクチンと同様に予防接種法のB類疾病位置づけ、議員のおっしゃるとおり、この4月から定期接種化を開始することが了承されております。

町では現在4月からの接種に向けて準備を進めており、接種費用につきましては、他のB類疾病に対する予防接種と同様に、接種費用の一部補助につきまして、現在、上伊那郡内の統一金額で実施できるように協議をしているところでございます。

具体的な金額等は未定ではございますが、町民の皆様ができるだけ接種しやすい金額となるよう努めてまいりたいと思います。

伊藤議員

上伊那統一で同じ負担ということをお聞きしました。

ぜひ早めの実施になるように希望いたします。

以上で終わります。

〔伊藤議員復席〕

議長

10番 片桐剛議員。

〔片桐議員質問席へ移動〕

10番

片桐議員

それでは通告に従いまして一般質問を始めたいと思います。

今回は、柏木運動場整備・利用に係る計画について、また昨年8月に提案、9月に提携、連携協定を結びました飯島町地域力創造推進プロジェクトについての2項目について伺っていききたいと思います。

まず、1つ目となります国スポ開催に向けた準備と柏木グラウンド整備計画についてという問いになります。

2028年に開催されます国スポのホッケー会場となる柏木運動場、これまで様々計画さ

れまして、いよいよ準備も整備も本格化していくかと思えます。この間の動きと整備計画、大会中、大会後の計画について伺っていきたいと思えます。

1—1であります。

令和7年度予算には柏木運動場整備事業、国スポ大会実行委員会の設立などの予算が盛り込まれています。国スポ開催に向けた準備の現状と開催までの流れ、年度ごとの計画の説明をお願いします。

〔片桐教育長登壇〕

教育長

令和10年度に長野県で開催される国スポの開催についての準備状況ということになります。

信州やまなみ国民スポーツ大会ホッケー競技のサブ会場として令和4年5月31日に長野県知事から国スポ旗が飯島町に授与され、開催に向け競技場の整備を進めておるところであります。

施設整備におきましては、柏木運動場、駐車場、B&G海洋センター体育館、柏木運動場への進入路の整備を進めております。

なお、柏木運動場及びB&G海洋センター体育館は災害時における避難所、物資拠点施設及び臨時ヘリポートの指定されておりますので、災害拠点としての機能も強化できるよう、併せて整備するものでございます。

まず柏木運動場及び駐車場につきましては、人工芝の設置と大型車両の駐車場とヘリポートの整備を令和8年度完成を目指して進めてまいります。

次に、B&G海洋センター体育館整備につきましては、国民スポーツ大会ホッケー会場のクラブハウスとして利用するため改修するものです。また、老朽化も進んでいるため、利用者の利便性向上と避難所としての機能強化も図った改修を行い、先週2月18日に完成したところであります。

続いて柏木運動場への進入路の整備でございます。以前から当施設への進入路は災害拠点としては狭隘で十分な道路幅員が確保できていないという課題がありますので、主要地方道飯島飯田線柏木交差点から安全に侵入できるよう、長野県伊那建設事務所と令和9年度完成を目指して計画を進めているところでございます。

大会運営の準備におきましては、本年度、教育委員会内に国スポ準備室を設置したところです。長野県をはじめ、ホッケー競技のメイン会場となる駒ヶ根市、長野県ホッケー協会などの関係機関と開催に向けた協議、調整を行ってまいります。

また、令和7年度には、国スポ大会運営を担っていただくために県・町行政だけではなく、学校、町内のスポーツ団体、観光、商業、交通など各団体の皆さんによって構成される実行委員会を設立し、令和9年度に開催されるリハーサル大会、そして令和10年度に開催される本大会に向けた準備業務を着実に進めていくための体制を整備してまいります。

そして、飯島町で開催されるホッケー競技大会を契機として、町のスポーツの振興と地域の魅力発信につながるような大会を目指してまいりたいと思っております。

議 長	[片桐教育長降壇] ちょっと暫時休憩します。
休 憩 再 開	午後 時 分 午後 時 分
議 長	それでは休憩と解きます。 続けます。
片桐議員	御回答いただきました。 概要説明をというところでしたが詳細にお答えいただいたので、2、3とまたかぶってしまいかもしれませんが、通告のとおり続けていきたいと思います。 資料ですけれども、令和6年10月25日、全員協議会で説明がありました計画の資料となっております。 今の説明でいきますとこの計画のとおりという形で進んでいる、その認識でよろしいでしょうか。
教 育 長 片桐議員	現状では順調に進んでいるということであります。 それでは1—3のほうへ行きたいと思います。 計画の詳細について伺いたいと思います。 ここでは3つ挙げているわけですけれども、この整備計画、これはその後の利活用まで見据えた計画をされているかというふうに思います。そのような内容も含みお答えいただければというふうに思います。 まず計画1つ目ですけれども、グラウンドの整備内容について詳細をお伺いしたいと思います。芝、コート、スタンド席、フェンス、照明など、ハードの部分を中心にお願ひします。
教育次長	それでは御質問のグラウンドの整備内容につきまして御説明申し上げます。 まず運動場につきましては、ホッケー会場として整備しますが、多目的に利用できるようサッカーコートを基準サイズとした広さ約9,500平米の人工芝を設置いたします。 スタンド席につきましては、グラウンド北側に計画していますが、今後の利用状況を見据え、形態、それから規模の検討を現在しているところでございます。 フェンスは運動場周囲に設置いたします。一部、ゴール裏は国スポ基準を満たす防球ネットを設置する計画でございます。 照明につきましては、今回の整備では設置しませんが、国スポ終了後に町全体の体育施設の集約化と柏木運動場の将来構想を見据えた中で検討してまいります。
片桐議員	大会後はサッカーを見据えたという話がありました。サッカーですと、またホッケーのコートと取り方が変わってくるのかなというふうに思います。東西なのか南北なのかというようなコートの使用について、サッカーを利用したときのコートの使用について想定されていればお聞きしたいと思います。
教育次長	グラウンドのコートにつきましては、サッカーの公認も取れる芝生で現在整備の計画

をしております。

片桐議員 すみません、説明が足りなかったと思いますが、ホッケーとすると東西1面というイメージでいいのか、またサッカーでいくと、その面で取るのか、南北2面みたいな形で取るのか、そのような想定をお聞きしたいと思います。

教育次長 質問にお答えします。

それぞれ、ホッケー、それからサッカー、ともに東西の長方形のコートでございます。

ちなみに、ホッケーコートの大きさは長さが約90メートル、それで横が55メートル、それから、サッカーコートにつきましては幅が68メートル、それから長さが約100メートル——約100メートルでございます。ですので、ホッケーより少しサッカーのほうが広い予定でございます。2割くらい広い広さになっております。

片桐議員 先ほどフェンスの整備計画も入っているという話がありました。一部ホッケーに適用するフェンスをという話がありましたけれども、南北部分のフェンス、どのような高さでというところが検討されているかどうか、お聞きします。

教育次長 フェンスにつきましては、南北のまず南側でございますが、高さ3メートルのフェンスを計画しております。また北側につきましては2メートルのフェンスを計画しております。いずれも、現状物が利用できる部分と、それから新たに設置する部分と、それぞれありますが、高さについては南が3メートル、北側が2メートルになっております。

片桐議員 後の質問にも出てきますけれども、周りは駐車スペースとしての整備が進んでいくと思われま。

それで、利活用という面でいくと、ジュニアだけじゃなくて大人の方のサッカー等々も視野に入ってくるのかなど、視野に入れなければいけないというふうに思います。そうしたときに、北2メートルのフェンスだと優にボールが越えてしまうんじゃないかと思えます。現状もFCの皆さんは使っていらっしゃるかと思えますけれども、よくフェンスを越えてのボールっていうのを見かけます。

それで、大人のキック力でボールが飛んだときには恐らく車への衝突等が発生するんじゃないかということが想定されますが、この2メートル3メートルはどこから検討されたんでしょうか。

教育次長 現在のグラウンドが2メートルのフェンスを使っておりますので、そこからの状況を踏まえた中で、できる限り現状の施設を利用できるような形で持ってきております。

片桐議員 整備にはお金がかかる場所でもありますけれども、2回3回の工事がかかってくるかと思えますので、しっかり現状の皆さんにヒアリングを重ねる中で、ぜひ検討をいただければというふうに思います。

そして、2つ目の計画の部分ですけれども、グラウンド周辺の交通に関する整備内容についてという部分になります。

柏木交差点の道路改良の計画が発表されておりました。また接続道路などの整備ということ、少なからず周辺環境も整備されて環境が変わってくるかなというふうに思います。

道路改良、拡幅、またこれらに伴う用地取得計画など、お答えをお願いします。

教育次長 グラウンドの駐車場の用地の取得計画につきましては、今年度、用地測量、それから

議長
建設水道課長

用地契約等を行い、用地買収を今年度完成したところでございます。現在、土地については駐車場確保ということになっております。

道路……。

柏木運動場入り口へのアクセスとしましては、議員の御質問のとおり、柏木交差点から東へ行く飯島飯田線を通りまして、それで新たに町道の進入路を設けるっていうルートでございます。

現在、設計等を進めておりまして、地元等と詳細設計のすり合わせといたしますか、地元説明会を行っております。

要地につきましては、これらの協議が整った後、県と町と歩調を合わせて、来年度から順次進めていく予定でございます。

片桐議員
教育次長

3つ目の部分、ほかの施設についてであります。

体育館、プール、トイレ、駐車場の整備内容について詳細をお願いします。

御質問にお答えいたします。

他の施設の整備につきましては、一部先ほどの繰り返しになりますが、B&G海洋センター体育館につきましては、玄関、ロビー、更衣室、トイレの洋式化、バリアフリー化等の改修を実施したところでございます。

プールにつきましては、プール利用時に利用するシャワー室、更衣室、トイレを改修いたしました。

駐車場につきましては、大型車両も駐車できるよう整備し、併せて災害対策用拠点臨時ヘリポートも整備する計画でございます。

また、現在、グラウンド内を通過している農業用水路がありますが、管理しやすくなるよう駐車場へ移設する計画でございます。

片桐議員

これはちょっと要望になりますけれども、体育館の整備が完了になったかと思えます。それで、中に、ネットですか、周りの壁を保護するネットということで工事がされたかと思えます。

利用者の方の声を聞くと、特にサッカーですけれども、ネットを寄せたりして丸まっているところで結構つまづいてしまっているということをお聞きするので、危なくないように、また対処いただければというふうに思いますので、関連として要望をお願いをしたいと思います。

続いて1—4のほうに入ります。

グラウンド周辺の住環境の変化の対策はどのように想定をしているかというところですけれども、これまでの答弁の中でも柏木運動場周辺は大きくさま変わりが予想されます。住民の皆さんへの説明ですとか説明の浸透度等、回答をお願いします。

教育次長

御質問のグラウンド周辺の住環境の変化と対策について、国スポの開催前——準備期間中、それから開催中、開催後の3つの期間、時期に分けて御説明いたします。

まず国スポ開催前につきましては、柏木運動場周辺に工事が集中し、それに伴う通行止めや工事車両通過に伴う騒音、振動などの影響が想定されます。この対策として、工事着手前に住民説明会を開催し、工事の内容や期間について十分に御理解をいただき、

工事中は、工事関係者と調整を行いながら工事車両に係る騒音・振動対策と併せ、周辺住民の皆さんが安全に通行できるよう工事看板を設置するなど、その状況に応じた対策を講じてまいります。

次に、国スポ開催中につきましては、選手をはじめ大会関係者、観戦者の方が多く来場されるため、周辺道路が混雑し、周辺住民の皆さんの生活に影響を及ぼすことが想定されます。その対策として、交通誘導員の配置や安全看板の設置を行い、周辺住民の皆さんや来場される皆さんがスムーズに、かつ安全に通行できるよう、対策を講じてまいります。

最後に、国スポ開催後につきましては、運動場、駐車場、体育館、周辺道路が整備され、体育施設、それから防災拠点としての利便性が向上します。そのため、施設利用者や大型車両を含めた通行車両の増加が想定されますので、警察等とも協議し、安全標識や施設案内看板の設置等を行い、適切な対策を講じてまいります。

いずれにしても、周辺住民の皆さんや施設利用の皆さんの生活や活動に支障が出ないよう、万全な対策を講じてまいります。

片桐議員

これから様々整備が進んでいく、また説明もしっかりしていただくというような内容かと思います。

柏木グラウンド周辺を見ますと、移住で来られている皆さんもいらっしゃる地域のかなというふうに思います。イコール景観が非常にいい場所かなというふうに思います。

ハード整備が進むかと思いますが、ぜひ景観の部分も考慮しながら進めていただきたいというふうに思います。これは要望になりますので、お願いいたします。

続いて大きな2番のほうへ参ります。

「会場となる施設を持つ自治体として国スポ開催をどのように捉えているか」という部分であります。

資料ですけれども、2009年開催のトキメキ新潟国体の経済効果を示したものであります。

県と新潟経済社会リサーチセンターは、トキメキ国体——新潟国体による経済効果は総額621億円推計と発表しております。内訳とすると、施設整備が約340億円、選手の宿泊などの消費支出が142億円、大会運営が139億円、また選手、役員で延べ22万4,000泊、観客は5万5,000泊に上ると推計、大会による雇用の誘発は5,000人余としているというデータが出ておりました。ちょっと直近のもので明示した数字がなかったので、2009年というものになります。

いずれにしても、大会前後、開催中は、参加選手をはじめ、関係者が多く訪れることが想定されます。これは、様々な角度から見ても、またとない好機であろうというのは誰の目にも明らかかというふうに思います。

2—1です。国スポ開催中、人、物の動きをどのように想定しているか、具体的にお願いします。

教育長

国スポ開催中の人や物の動きということであります。

国スポ開催中は、多くの選手、監督、大会役員、大会運営スタッフ及び大会観戦者が

町外及び県内外より飯島町へお見えになります。

まず人の動きといたしましては、出場選手、監督、大会役員が宿泊施設から競技会場である柏木運動場へ移動します。

また、大会を観戦する観客は、公共交通機関、自家用車などを利用し来場されます。物の動きといたしましては、大会に必要な資材や機材、医療機器などの輸送が想定されます。

これらを踏まえると、大会期間中は柏木運動場の駐車場だけでは対応し切れないことが想定され、町内各所へ駐車場を設けることやシャトルバスの運行を検討する必要があると思われま。

また、町内交通の増加や多くの方が町内の飲食店、商業施設及び観光施設を利用されることも想定されます。

このように、大会期間中は多くの人や物が動くことが想定され、これらの動きを円滑に進めるには、県をはじめ関係機関との情報共有は必要不可欠だと思っております。

町といたしましては、来年度、学校、町内スポーツ団体、観光、商業、交通など、各関係団体の方による実行委員会を組織し、地域全体で情報共有できるよう取り組んでまいりたいと思っております。

片桐議員
教育次長

2-2、国スポ開催中、町としてイベント、事業などは計画しているでしょうか。

国スポ開催期間中は県内、県外の方が往来するため、飯島町を多くの方に知っていただく絶好の機会と考えております。

ホッケー競技で来場された方だけでなく、国スポで県内を訪れた多くの皆さんが飯島町に滞留し、飯島町を知っていただけるようなイベント、事業をこれから設置する実行委員会や関係機関と計画したいと考えております。

片桐議員

先ほど説明いただいたように、人の移動、物の移動という中で、想定はされているところかというふうに思いますけれども、ぜひ、移動だけではなく、とどめる手段として経済効果を生むようなものを町または関係機関等々で一緒になって計画、実行していただければというふうに思いますので、お願いいたします。

(3)に行きます。国スポ終了後の計画に次いであります。

3-1、国スポ終了後の施設維持について、管理は町で行うか、また指定管理者制度などの考えはあるか、お願いします。

教育長

国スポ終了後の施設の維持管理についてであります。

柏木運動場につきましては、ホッケー会場として整備いたしますが、将来の利用を見越した場合に多目的グラウンドとしてサッカーのコートを基準サイズとした人工芝を設置し、幅広いスポーツ活動に親しんでいただければと思っております。

また、国スポ終了後の施設については、多くの町民の皆さんの利用はもちろん、他市町村のスポーツ団体の利用も想定されております。

よって、施設管理については、今後、指定管理者制度も含めて、効果的な維持管理ができるよう、今後検討してまいりたいと思っております。

片桐議員

近隣ですと、高森町の山吹ほたるパークも完成し、連日スポーツが行われているとこ

ろであります。これらとも連携する中で様々な活用ができるのではないかとということで、以前の一般質問で問うたないようですけれども、3—2のほう、施設利用はどのような利活用を想定し検討しているかをお願いします。

教 育 長

国スポ終了後の施設利用についてであります。

国スポ終了後につきましては、町民の皆さんが日常的にスポーツを楽しむだけでなく、各地区であるとか学校であるとかのイベント、あるいは行事等で、子どもたちから高齢者まで、幅広い年代の皆さんの利用を想定しております。よって、町や区、保育園や学校、町内スポーツ団体等と連携し、町全体のスポーツ振興につながるよう施設の利活用につきまして検討してまいりたいと思っております。

また、あわせて他市町村のスポーツ団体の利用でありますとか、合宿等の受入れなどについても検討してまいりたいと思っております。

片桐議員

グラウンド整備をはじめ、様々な施設整備ということで、多額の費用を投入しての施設整備計画、整備が実行されていきます。民間の考え方でいくと投入したものは回収をするところが前提かというふうに思います。ぜひ他市町村とも連携しながら活発な施設利用ができるようにしていただきたいと思います。

それでは4のほうに移ります。「飯島町地域力創造推進プロジェクト」であります。

飯島町と地域力創造株式会社は令和6年9月24日に包括連携協定を結びました。ホームページのオフィシャルの内容でいきますと、今後、「相互に連携し、様々な地域課題に取り組んでいきます。」という形になっております。

事業概要

町が委嘱する「地域力創造アドバイザー」を中心に、「地域活性化起業人」を派遣することに加え、地域おこし協力隊を委嘱（中略）し、「事業実施」と「体制構築」を合わせた委託事業として、その人的資源を活用し、町民や町内企業、各種団体との連携を密に図り、地域と共に課題解決を目指します。

というふうにあります。

資料、令和6年8月16日、全員協議会の説明によると、令和7年2月末から成果評価を行うということで出されております。

現段階では成果について報告は出されていないものと認識をしております。

4—1、地域力創造株式会社と包括連携協定後、町、あとは地域力創造株式会社、それぞれの具体的な取組について説明をお願いします。

町 長

飯島地域力創造推進プロジェクトの内容についての御質問でございます。

その画面にもありますように、昨年9月24日、地域力創造株式会社と包括連携協定、こちらは、相互に連携しながら地域課題を解決して、地域創生、それから地域の活性化、そして住民サービスの向上に努めるということで締結を行ったところであります。

そして、飯島町地域力創造推進プロジェクトとしまして、民間事業者のノウハウ、また総務省の外部人材派遣制度ということで地域力創造アドバイザー、地域活性化起業人、さらには地域おこし協力隊制度を一体的に活用して、チームとして地域の課題解決に当たっていただく組織を立ち上げてきたところでございます。官民連携によりますますさらな

る地域の魅力の向上、あるいは地域課題解決を目指して、現在まで5か月間、進めてきたところであります。

令和6年度の具体的な取組としましては、1つとして地域おこし協力隊のマネジメント業務、こちらは地域おこし協力隊の募集、採用、それから雇用、それで協力隊員の管理という業務であります。もう一つは、2つ目は空き家等の対策に関するところでございます。3つ目が地域振興に関する相談業務ということで、以上の3つを進めてきたところでございます。

片桐議員

4—2です。現在の内容、今説明いただきました内容をどのように分析しているのかというところで、これまでの実績と成果、課題と今後の取組について端的にお願いします。

町長

今までの実績、内容をお話ししたいと思いますけど、先ほどの3項目についての実績と成果でございます。

今年度、最優先で取り組んでいる空き家等の対策につきましては、2軒の空き家を借り上げまして、地域力創造株式会社の事務所、あるいは住まいとしております。

もう一つは、地域活性化起業人の空き家活用事業プロジェクト、これの拠点としてオープンスペースとしての活用を計画してきたところであります。

また、各関係の課と連携を図りながら、町内の空き家、現在168戸ありますけれども、全てを調査しまして、空き家リストを地図にプロットすることによる空き家分布を可視化したものを3月末までに納めていただくということの予定でございます。

次に相談業務などの地域振興でございますけれども、相談に応じることができる体制を整えまして、駅前周辺のにぎわい創出や町内のイベントの実施、コロナ後の飲食店活性化、旅館の跡取り問題、飯島中学校商品開発などの相談を受けてきたところであります。

また、ソーシャルベンチャー事業のPRを兼ねましてコミュニティーなどで主催するイベント、いいちゃん文化祭、それからいいちゃん産業祭り、飯島駅前のイルミネーション設置準備、北町自治会の集会に参加したり、あるいは清掃活動に参加するなど、地域の活動のサポートの取り組んでもまいりました。

次に地域おこし協力隊マネジメント業務、これは募集、採用、雇用、管理でございますけれども、これについては、これまでにインターネットの採用媒体を活用しまして100人ほど面接、選考を行ってきましたけれども、なかなか採用したい人材が見つからないために、現在、雇用には至っていない状況でございます。

これまで事業を進めてくる中で、成果が出てきそうな業務もあれば、まだ十分な取組ができていない業務もありまして、残念ながら飯島町地域力創造推進プロジェクトの全てが順調に進んでいるわけではないと評価しております。

現在までに、私ども町長部局と面談を毎月行いまして、7回ほど実施してきております。また、担当部局では、6回にわたって聞き取り調査、あるいは成果の状況を把握してきたところであります。

今後、各項目別に実施状況を整理しまして、これまでの取組の状況や事業の成果など

を総合的に判断して評価していきたいと考えております。

3月末までありますので、今後の取組につきましては、引き続き空き家所有者の意向調査、あるいは可視化された空き家地図を基にした空き家の活用の立案、空き家ツアー等の開催、そういったものを企画していただきたいと考えております。

また、相談業務についても継続をしていただく、それから、一番重要なところでありますけれども、地域おこし協力隊のマネジメント業務、採用ですね、こちらなどを実施していただくように予定しているところであります。

片桐議員 当初出されたスケジュールでいきますと成果評価の期間となっておりますので、早いうちに書面での提出をお願いしたいというふうに思います。

次の資料であります。

今の問いのところでいきますと課題と今後の取組というようなところにかかってくるかと思いますが、2025年2月13日、日経新聞の報道であります。タイトル「地方創生に群がる「補助金ハンター」 死角の特別交付税」という記事であります。

この記事について町は承知をしているのか、またこの記事の中に出てくる補助金ハンターとされる企業と当町が連携協定を行った企業との関連性について把握をしているのか、お願いします。

町長 日経新聞の2月13日の記事でございますけれども、こちらについては町としても把握しているところであります。中に出てくる企業と男性については、当町で包括連携協定をしている会社と男性でございます。

片桐議員 昨日の新聞報道では、3月4日に面談を行い、今後の判断を行っていくという町長の言葉がありました。

今の回答でいきますと、新聞報道、また中に書かれている企業との当町との関係性も把握の上だということでもありますけれども、であれば、すぐに聞き取り調査を実施する必要があるのではないかと思います、その辺、いかがでしょうか。

町長 新聞報道があつてから既に聞き取り調査を行っております。新聞報道に出てきました5市町、それから、そのほかに地域力創造株式会社が関係している事業自治体がございますので、そちらの調査を行い、今まとめているところでございます。

片桐議員 締結前、前後の部分にも関わってくるかと思いますが、近隣でいきますと喬木村でも活躍というような記事が出ておりました。そうした近隣へのヒアリングですとか調査、またその後の情報交換等は行ったんでしょうか、行っているんでしょうか。

町長 県内でも、まだ喬木村のほかにもう一つ町がございます、そちらの情報も得ているところであります。

それから、先ほど出ました5市町、それからほかの成功している事例、そういった市町村とも情報交換しながら進めているところであります。

片桐議員 昨年12月19日の全員協議会の中で第6次総合計画の実施計画が示されました。重点推進項目に盛り込まれている官民連携による事務事業の推進の中にこの事業を用いて地域課題を解決するという文言があります。調査内容によっては実施計画の変更も関係してくるんじゃないかと思いますが、現時点での所見をお伺いします。

町 長 新聞報道にあります5市町もそうですけれども、1つの会社と契約しているところばかりではなくて、いろいろな会社と契約しながらこの事業を使って地域課題の解決に取り組んでいるということでもあります。特定する会社の状況が思わしくなければ、新しい会社に替えていたり、新しいアドバイザー、あるいは地域活性化起業者、そういったところに切り替えていくということも視野に入れながら検討しているところでございます。

片桐議員 先ほどの回答で、聞き取り調査、本人への調査等を行っていく、しているという話でしたけれども、実際に関わった地域の方ですとか協力隊の皆さん等とは面談されているのでしょうか。

町 長 協力隊員については、まだ採用がされておられませんので、アドバイザーと起業者、この方たちとは面談をしております。

また、地域の皆さんとは、関わっている空き家活用の地主の皆さん等々とも懇談をしているところでございます。

片桐議員 懇談されているということでもありますので、懇談された方からは特に思わしくないような話が出なかったという話でよろしいでしょうか。

町 長 今、株式会社の拠点になっているところ、こちらについては特に問題なく進められていますけれども、もう一つの駅前の方は、ちょっと進捗が思わしくないという状況です。借家として貸そうとしている方も、ちょっとその辺が気になっているという返事をいただいております。

片桐議員 この新聞報道が出た後、他県ですけれども、私も関わっている担当課の方に話を聞きました。解除のきっかけとなったのは、動きがないまま時間が過ぎていたことが大きな要因であるという話であります。

先ほどは一定の成果が出ているという話でありましたので、改めて今定例会中に成果評価の書面提出を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

町 長 個人名は伏せさせていただいて、できる場所で成果をお示ししていきたいと思いません。

片桐議員 最後の質問になります。

4-3、今後の実施計画及びスケジュールはということで、今回提出の2025年度の一般会計予算ではアドバイザー業務、活動サポート業務などにおよそ2,300万円の委託費が盛り込まれています。この辺の実施計画も含め、現在の所見をお願いします。

町 長 先ほど申しあげましたように、現段階で包括連携協定を結んでいる株式会社は、今、精査をしている途中でございますので、その結果に基づいて、次年度以降どのような形で事業を実施していくのか検討してまいりたいと思えます。

特に、今回の経験も踏まえまして、多くの市町村でプロポーザルで募集しているところを見ておりますので、そういったプロポーザルで募集していくという方法も一つの選択肢に入れながら検討してまいりたいと思えます。

片桐議員 地域の皆さんと関わる、また地域の資源が利活用される大切な事業でありますので、気持ちよく住民の皆さんが参画できるよう、町としても進めていただきたいというふう

に思います。

以上で終わります。

[片桐議員復席]

議 長 ここで休憩と取ります。再開時刻を午後3時ちょうどいたします。休憩。

休 憩 午後2時41分

再 開 午後3時00分

議 長 休憩を解き会議を再開いたします。

一般質問を続けます。

4番 坂本紀子議員。

[坂本議員質問席へ移動]

4番

坂本議員 それでは通告に従いまして一般質問をいたします。

最初の質問は「生物多様性保全条例について」であります。

これは3月議会で社会文教委員会に付託された議案となっておりますので、町長の所見や町の現状について、またこの条例と関わる他の条例との兼ね合いでの質問となりますので、その中でお答えをいただければと思います。

まず1—1であります。

町は平成2年に自然環境保全条例をつくり、主として乱開発防止を中心にした内容で、対象は開発事業者への規制で、罰金規定もありました。

また、平成8年に環境保全条例をつくり、主として公害防止を中心にした内容で、対象は町内の個人、また訪れた人であり、町内の事業者への規制で、これも罰金規定があります。

どちらの条例にも環境基本計画の策定がうたわれていて、5年ごとの見直しとなっております。

環境基本計画と町で10年ごとにつくられる総合計画はリンクした内容となっております。

平成30年につくられた第5次環境基本計画の中に生物多様性の保全の言葉が出てきておりますが、詳しい内容は書かれておりませんでした。

生物多様性保全条例を策定するに至った経過はどのようなものかをお尋ねします。

また、町長の思いもありましたらお聞きしたいと思います。

[唐澤町長登壇]

町 長 御質問は、生物多様性保全条例、この条例の策定に至った経過ということでございます。

今、議員の申されましたように、現在、飯島町生物多様性保全条例を今議会に上程させていただいているところでございますけれども、町には、先ほど申されましたように、

公害防止等の環境保全に対する基本計画を定めたり、あるいは環境保全のための住民や事業者の責務を定めたりする飯島町さわやか環境保全条例があります。

また、一方で、環境保全の基本理念を定めたり、あるいは保全区域内での開発規制、これを定めたりする飯島町自然環境保全条例があります、現在もありますけれども。

飯島町の豊かな自然、特に生物の生態系を守り後世に残していくための理念を定めた条例、これがございませんでしたので、今回、生態系及び希少な生き物などを守るための生物多様性の保全に関する条例を定めるものでございます。

飯島町は、1986年から——今から40年前ですけれども——居心地のいい町づくりを目指した地域複合営農を進めてまいりました。その中で、自然環境と関わり合うために、生き物調査、これらを地域の子どもたちと毎年行ってまいりました。

2000年代に入りますと、2003年、EUの共通農業政策として、これはCAPといいますが、この中で環境と農村環境の保全、これらが位置づけられまして、町ではそれをいち早く参考に、先取りする形で環境保全農業として地域複合営農の計画の中に1,000ヘクタール自然共生農場づくりが位置づけられました。

それまで行われてきました生き物調査とともに、アグリネイチャー研究所、これはフィールドミュージアム飯島でございます。私も参画しておりますし、議員の中にも参画されていらっしゃる方がいらっしゃいますけれども。それが設置されまして本格的な生き物調査が行われました。

それらを基に、2007年ですけれども、飯島町1,000ヘクタール自然共生農場基本計画という——厚い冊子になりますけれども——策定をしまして、現在に至っているところであります。この計画では、農地、里山、森林、河川など、農業の自然要素を、農業者が自然の保護者である、そういう理念の下に、農業者自身が主体となって都市、市民とのパートナーシップによって実現しようとしたものです。

この計画ができたのは、町にアドバイザーとして関わっていただいた松木先生、そのほか植木先生等々もいらっしゃいますけれども、そういった方たちがいち早くヨーロッパのCAPの理念を取り入れてつくってきたものでございます。

このように、20年前からこうした生物の多様性の保護の取組は行われておりまして、その中で、飯島町の豊かな自然環境により絶滅危惧種で希少な存在でありますミヤマシジミが町内に多く生息しており、その数は日本一と言われております。まさに町の豊かな生物の多様性の象徴であると考えております。

当町では、任意団体ですけれども、2012年にミヤマシジミを守る会が結成をされました。ミヤマシジミの保護活動とミヤマシジミ米を作っていこうということで、そういった取組も行われました。

2018年には、東京大学とJA上伊那、それと町との間で締結されたミヤマシジミの保全の研究などに関する連携協定、これらを契機に、ミヤマシジミ保全協議会の設立やミヤマシジミ里の会による保全活動など、ミヤマシジミをはじめとする町内の生物多様性の保全に向けた取組が進められてきたところでございます。

今後もこうした取組が継続、発展してかけがえのない生物多様性を町全体で守ってい

くために、今回の条例は、それらをさらに推し進めるため、町民が一体となって進めるための指針の条例でございます。

なお、条例案の検討に当たりましては、町環境保全審議会、またミヤマシジミ保全協議会、さらには町民の皆様からも御意見を頂戴してまとめさせていただいたところであります。

〔唐澤町長降壇〕

坂本議員

ただいま町長のほうから、ミヤマシジミに関してもそうだし、生き物調査に関して長い取組、20年前ということの中から生まれたというお話を伺いました。

生物多様性もあるんですけど、それになる前に自然共生栽培ということで、農業の観点からは私もある程度知識は持っておりましたが、1986年という中で地域複合営農ができたという中から、だんだん町がそういう農場の1,000ヘクタール自然共生栽培という形になってきたというお話を聞きましたので、私もそんなに古いと思っておりませんでしたので、ちょっと質問の内容の方向性が違ってくるかもしれませんが、では1—2に行きたいと思えます。

生物多様性保全条例は、生態系の多様性、それから種の多様性、それから遺伝子の多様性の3本柱でまとめられております。守り、それから抑制していくという点では非常によくできた内容となっております。

しかし、今の歴史の中で自然共生栽培とかをやってはきているんですけども、実際の米作りでの共生栽培の生産がここ数年ちょっと停滞気味で、広がっているという話は伺っておりません。取りあえず一定の数の生産者の中で農薬50%以上オフの米が作られているという感じとなっております。

それで、心配するのは、当町の法人の多くは農薬と化学肥料に頼る農産物生産地となっております。そういう中でどのような段階を踏んで実現していくというか、その点が非常に心配するところであります。その点についてお尋ねしたいと思います。

町長

この条例ですけれども、その基本理念の中にうたわれておりますが、「飯島町に住み、及び飯島町に訪れる全ての者が、豊かな自然環境と生物多様性を保全するにふさわしい行動をとること。」、また町民の責務のところでは「進んで生物多様性の保全に努め良好な自然環境の確保に寄与するようにならなければならない。」としているところであります。

農薬と化学肥料に頼る農作物の生産に対する対応につきましては、先ほど申し上げました飯島町1,000ヘクタール自然共生農場基本計画に基づく地域複合営農への道パートⅤの中でうたっておりますけれども、1つは自然や生態系を生かした共生農業の取組、2つ目は自然環境と共生する栽培による農作物作り、3番目として生物多様性の確保、4番目としまして自然環境を守る農業者等の育成ということで、大きく4本の柱で取り組んでいるところであります。

この取組を掲げて、健全な土づくり、また化学肥料、化学農薬の低減、有機資材の活用による環境創造型農業で人と環境に優しい農業を目指しているところであります。

先ほど議員の言われたとおり、なかなか進んでいない場面もありますし、今は地球温暖化ということで、カメムシ等の被害が出て、それに対する防除もしなければならない。

また、飯島町は各種の種を生産しております。稲もそうですし、ソバもそうですし、大豆もそうなんです。そういう種を生産するには、やはりどうしても化学農薬に頼るところが出てくる場面もございます。

できるだけ、そういったところで、先ほど申しあげました4つの柱で、化学肥料や化学農薬の低減、有機資材の活用による農業を進めていくということで、それを一層進めていくために今回の生物多様性保全条例の制定によって行っていきたいと考えているところであります。

それで、生物多様性保全条例の中には、生物多様性の保全を図る必要がある区域、これを環境共生特別区域ということで指定しまして、この区域内では、土地所有者や農地耕作者など、関係者の合意に基づくアダプト協定に従って保全活動を展開していくことになっております。

こういった環境共生特定区域につきましては、できるだけ先ほど申しあげました4本柱でしっかりと取り組んでいただくようお願いしていくとともに、自然共生農場基本計画に基づく人と環境に優しい保全活動をより一層進めていきたいと考えます。

坂本議員

今、詳しくというか、言葉の中では十分よく分かるんですけども、当町には4法人あるわけで、特に4法人の中でも田切農産は、東から西にかけて長い、こういう地形を持っていますし、もともと4法人の中で一番草の刈り方が、よく言えばあまり刈っていないというか、そういう中で、非常に生物多様性は私から見れば守られているというふうに日頃から感じて見ております。

そういう中で、具体的取組は、生物多様性の条例案をつくるときに、そういった法人のほうの農業者もいた中で、合意というか、話し合いの中でこれがつくられたというふうに私は受け取っていいんでしょうか。

住民税務課長

先ほど来、町長のほうで御説明をしましたがけれども、この条例をつくる中で、ミヤマシジミ保全協議会の中にもメンバーで入っていただいておりますので、その中で御検討いただいておりますということでございます。

坂本議員

あまり突っ込んでしまうと委員会審査にはよくないかもしれませんが、できたら、やっぱり法人のトップの方たちが、4法人ありますから、4人の方たちがこの条例の中に入って、やっぱり学ぶっていうか、この条例の内容を学んで、やっぱり実際に法人の中でどう実現していくかっていうところまで含めた中での話し合いができていけば非常に今後の取組としてはやりやすいというふうに私は思います。

では、そこにとどめまして1—3に行きます。

北海道では——黒松内町というんですけども——北海道の黒松内町では生物多様性地域戦略というのを平成24年3月につくっております。これは、町内の地形と植生を調査、そして映像化し、分かりやすくまとめられて、町民に提示しております。

それで、インターネットでもこれが見られますけれども、この町はブナの自生の北限地域となっております、北限の里ということをまちづくりの中心にして都市と農村の交流型地域づくりに取り組んでくる中でつくられた地域戦略という内容となっております。

それで、やはり、飯島——当町は、先ほど言われました、20年の間、ミヤマシジミを生き物調査の中で追っていたということです。

黒松内町というところは、ブナ林を歌オブナ林と言っていて、昭和19年のときには一回伐採の危機に遭って、それは戦時中の後半だったんですが、木製戦闘機のプロペラ用の資材として使いたいということがあったんですけども、それに北海道大学の教授が反対して、取りあえず伐採計画は収まり、それから、その後、昭和29年には町の財政難のため伐採計画が持ち上がったんですけど、それも地域の住民の反対で守られてきて、それから昭和3年に天然記念物と指定されて、現在では97年がたつという長い歴史の中で生物多様性ということが現実に行われてきているということでございます。

それで、先ほどの町長の話だと、20年ぐらいの中で生き物調査をしつつ、伊那谷、飯島町が日本一ミヤマシジミがいるということの中で生物多様性条例ができたということをお聞きしましたがけれど、今後、その取組——生き物調査も長くやってきてはいるんですけど、決して派手なっていうか、PRしてやるっていうような感じではなく、好きな方たちが集まって点々とやってきておりますので、町民の理解がすごく、まだ進んでいないというふうに私は思っております。

それで、まず生物多様性保全条例の実現をやっていくには、町民理解が、それは農業生産者でもあり、また生活における一部の考えの中でも広く浸透させていかないと実現していくのは難しいっていうふうに感じております。

だから、今後は生き物調査だけではなく、地形とか町内の植生、そういうのを町民とか子どもたち、それから研究者の方、多くの方を含める中で行い、保全していくのをどういう形で効果的に保全していくのか、場所の問題もありますし、学ぶべきことが多いと思いますけれども、その点はどのように、これからの形はどういうふうに考えてやっていこうと思っていらっしゃいますか。

町長

先ほどの生き物調査の関係でも、都市住民との交流ということで生活クラブ生協等との合同調査も重ねてきたところであります。それを20年来続けてきておりまして、都市との交流も非常に深まってきております。

ただ、やはり農業の域から抜け出しておりませんので、やはりこれを全町的に生物の多様性保全を広げていくということで、今回、条例を制定させていただいているところであります。

20年間で徐々には定着してきているとは思いますが、さらに一層深めていきたいというふうに考えているところであります。

生き物調査については引き続き今後も行われていきます。生物多様性保全条例を制定した後に、令和8年度を目途に、生物多様性飯島戦略、これを策定してまいりたいと考えております。

生物多様性地域戦略については、今、環境省のほうでは努力義務ということになっております。戦略を策定してほしいということになっておりますけれども、全国ではまだ160余りしか策定されていません。

ただ、長野県内でも松本市を中心に策定されていますが、実行段階ではかなり苦戦し

ているようでございます。

そのような中で、今回の計画では、地域の生物の多様性の現状を分析して将来目標を設定した上で、具体的な施策や推進体制などを定めた町全体の行動計画としていきたいと考えています。

まずは、飯島戦略の策定検討に当たりまして、町の生き物に関わる基礎調査、これらも必要になることから、既存のデータ——今まで蓄積してきました20年間のデータの整理のほか、町内の動力物の現状調査、これを町民参加でやっていきたいと思っております。アプリかなにかを利用して、見たときに「いいね」を押すと、どこで、いつ、それが見られたかっていうのが分かるような仕組みで、町民参加によってやっていきたいと思っております。そういうことを通じて徐々に生物多様性の理念を住民の皆さんに知っていただきたいと思っております。

もう一つは、それらを一堂に集めた、やっぱり自然園のようなところを造って、住民の皆さんが観察しながら自然に触れ合って、また生物の多様性も考えていただける、そんな場所も造っていきたいというふうに考えております。

住民参加による計画づくりにしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思っております。

坂本議員

生物多様性保全条例というのは県が持っていますけれど、長野県内で私も調べましたが、長野市、松本市くらいでした。伊那谷では、多分、もしこれが制定されれば、うち——当町が一番早いという感じになってくると思っておりますので、私は非常に期待をしております、伊那谷全域がこういう状況になれば非常にミヤマシジミ以外の動植物も息しやすい自然形態になるのではないかと感じてはおります。

それで、1—4に行きます。この条例を策定して以降のことなんですけれども、国とか県の補助金などのメリットというか、農業においてでもそうですし、環境においてもそうなんですけれども、そういう制度というか、条例を持っていれば補助金が受けやすいとか、そういうメリットはあるんでしょうか、その点をお聞きしたいと思います。

町長

メリットがあるかということですけど、補助金などの金ではなくて、もっと大きなメリットがあると思っております。

それで、お金の問題にいきますと、策定することによって国、県の補助金の対象にはなりませんけれども、生物多様性飯島戦略、これを策定することによって環境省の補助金の対象となるということが考えられます。

また、先ほど前段の御質問でもあって答えてまいりましたけれども、今年——令和7年度から3か年間、県の支援で実施されます輝く農山村地域創造推進プロジェクト、この中でも生物多様性の保全の推進については1つの柱としております。

国、県の各種農業施策や今後の生物多様性飯島戦略を検討する中で、補助金の活用についても研究してまいりたいと思っております。

坂本議員

これは、補助金どうのってということよりも、自然環境においては、非常に現在、地球全体が厳しい状況なので、これをつくって——補助金ってというふうな質問をしましたけれども——これをつくってみんなで生物の多様性について勉強し守っていくことが大事

だという私は意見でありますので、これが町民の皆様や農業者たち、それから観光者にも——観光に来る方たちにも浸透していくことを願っております。

それでは2番の質問に行きます。

「高齢者や一人暮らし、困窮世帯への対応について」を尋ねます。

コロナで他の人と交流が薄れることが2年間ほど続き、地域力が大分落ちてきております。

そういった中で、民生委員や住民から心配となる方の通報などが町のほうにあると思うんですけども、そういう通報は大体1か月でどのぐらいの件数があるって、また、それに対して、高齢者係だけではなく、全体の中で対応はどのようにしているのかを尋ねたいと思います。

健康福祉課長

高齢者や独り暮らし、困窮世帯等、心配な方につきましては、御親族や御友人、民生委員など、様々な方から、地域包括支援センター、こちらを中心に相談が寄せられているところでございます。

その中で、民生委員や一般の住民の皆様からの相談につきましては、一月に大体3件程度という形になっております。

それから、2-2等も、もうこれで答弁してよろしいのでしょうか。(坂本議員「ちょっとそこで、ちょっと待っていただきたい」と呼ぶ) はい。それでは一旦……。

坂本議員

1か月に3件ということで、ちょっと思っていたよりも少ないので、ちょっとほっとしておりますけれども。

これは、総合的っていうか、地域包括支援センターに来た問題だけが3件ぐらいっていうことでいいのでしょうか。

地域包括支援センターだと支援とか介護的な部分とかなんでしょうけれども、成年後見人制度とかはまた違ったジャンルになりますね。じゃ、分かりました。3件ということで、分かりました。

では2-2に行きます。

そういった中で、通報があった場合、認知症の方への対応はどのような対応をなされているのか、それについてお答えいただきたいと思います。

健康福祉課長

町へ御連絡や御相談をいただいた際には、認知症の方に限らず、御家族や御親族、介護事業所など、関わっている支援される皆さんと連絡を取り合いながら役割分担をして対応しております。

御質問にございます認知症につきましては、脳の病気や障がいなど、様々な原因によりまして認知機能が低下し日常生活全般に支障が出てくる状態をいいますが、認知症になったからといって、もう何も分からなくなって、できなくなるということではございません。

地域包括支援センターでは、認知症になってからも個人としてできること、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とつながりながら希望を持って暮らし続けることができるという考え方、これを新しい認知症感というふうに言いますが、この新しい認知症観に立ちまして、必要な医療、福祉、介護サービス等の御案内をしております。

地域の皆様におかれましても身近で見守っていただきまして、お困りの方、心配な方がいらっしやいましたら地域包括支援センターのほうへおつなぎいただきたいというふうに考えております。

坂本議員 今説明がありましたが、認知症でも、それが分かっている、周りの方たちも認め合っ
て自分の生活をしていく、自分の家でっていう、それがやっぱり症状が進まないためにも
大事だと思いますし、それはよく分かるんですが、認知症というか、そういうのが少し
発症している場合、少し発症の方たちはそれができると思うんですが、ちょっと重症
になって、独り暮らしで親族が近くにいないっていう方たちはどうされているんでしょ
うか。

議 長 坂本議員、2—3でよろしいんですか。

坂本議員 はい。すみません。

健康福祉課長 先ほどの御質問と同様でございますが、町へ連絡や御相談をいただいた際には、親族
がお近くにいない場合であってもそちらの方と連絡を取り合いまして、まず情報共有を
して対応しておるところでございます。

町内でも、独居で親族が遠方であっても、毎日電話等で安否確認をされている方、ま
た反対に同居家族であっても適切な支援が提供されていない方など、様々な事例がござ
いますが、親族が近くにいるいないに関わらず、御本人や御親族の御意向をお伺いしな
がら必要な支援につなげているところでございます。

坂本議員 今、認知症の部分で尋ねたわけですがけれども、近所がちょっと疎遠になってしまった
という場合で重症化している、例えば、徘徊ではないですがけれども、そういう事案もある
わけですがけれども、そういう場合は、やっぱり周りの人たちにサポートするように町の
ほうで要請したりするのでしょうか。

健康福祉課長 御近所にそういったサポートをしていただけるような方がいる場合は、そちらのほう
にもお願いするというケースもあろうかと思えます。

坂本議員 それでは2—4に行きます。

今、最初に通報があったことを聞いたわけですがけれども、連絡者に町の対応結果を伝
えているのかを尋ねたいと思うんですがけれども、これはプライバシーに関することもあ
りますので、民生委員の方とか、守秘義務のある方だったら安定しているのかわしま
せんけれども。

通報者の方から実はちょっと御相談があって、町へ通報したんだけど返しがな
かったのどうなっているか心配になってそのうちを尋ねたらいなくなっていたとい
うか、通報してからすぐ尋ねたわけではなく、心配しつつも何か月かたって行ったら、
連絡がないので行ったらおうちが空になっていて、どうしたんだろうっていう話を聞い
たわけで、これで、そのお話から一般質問にかけたわけです。

プライバシーというものあるんでしょうけれども、現在は地域で見守るっていうこと
をみんなでやってほしいということでやっているわけで、多少町が——プライバシーで
どこまでは言っちゃいけないとか、そういうことがあると思えますので、施設に入って
今は大丈夫だとか、そういう通報者に折り返しのちょっと一言を言っていただきたいん

ですけれど、その点は、現在、福祉課のほうではそういう対応はされていないのでしょうか。

健康福祉課長 基本的に、町へ御連絡をいただいたり相談をいただいた民生委員や地域の方には、その後の状況について気になることと思いますので、対応の状況につきましては、守秘義務に配慮しつつ御本人や御家族の同意を得た上でお伝えをしているところでございますが、今のような事例の話をいただきましたので、また担当のほうへその旨を伝えたいと思います。

坂本議員 今確認して、折り返しの連絡が入っているということで安心をいたしました。

本当に高齢者の2人暮らし、それから独り暮らしが非常に増えてきているのを感じます、本当に。歩いていると、以前はいたのに空き家になってしまっていたとか、そういう事例があります。

それから、あと、独り暮らしで急に心臓発作でお風呂の中で亡くなってしまったとかいう事案もありますので、ぜひそういうところに配慮した、今後、地域高齢者系の政策の中でそういう手の入った政策を考えていただいで住みやすい飯島町にしていただければと思います。

これで一般質問を終わりにいたします。

[坂本議員復席]

議長 以上で本日の日程は終了いたしました。

これをもって散会といたします。

御苦労さまでした。

事務局長 御起立をお願いいたします。(一同起立) 礼。(一同礼「お疲れさまでした」)

散会 午後3時36分

令和7年3月飯島町議会定例会議事日程（第3号）

令和7年2月28日 午前9時10分 開議

1 開議宣告

1 議事日程の報告

日程第1 一般質問

質 問 者	質 問 事 項
折 山 誠	1 七久保診療所の医師確保を問う 2 人口減少に対応した将来的な公共施設の適正規模を問う 3 公共施設の借地用地の買い取りを問う 4 防犯カメラの設置補助を問う
三 浦 寿美子	1 生活保護受給者の暮らしぶりについて 2 こまくさ園の環境について 3 障がい者の福祉医療費の窓口無料化について 4 今後の物価高騰対策は
浜 田 稔	1 飯島町林業の将来構想を問う。
坂 井 活 広	1 七久保小学校防災倉庫の雨漏りについて 2 小学校の統廃合について

○出席議員（11名）

1 番	伊藤 秀明	2 番	坂井 活広
3 番	折山 誠	4 番	坂本 紀子
5 番	宮脇 寛行	6 番	浜田 稔
7 番	三浦寿美子	8 番	堀内 学
10 番	片桐 剛	11 番	吉川 順平
12 番	久保島 巖		

○欠席議員（1名）

9 番 星野 晃伸

○説明のため出席した者

出席を求めた者	委任者																		
<p>飯島町長 唐澤 隆</p>	<table border="0"> <tr> <td>副 町 長</td> <td>宮下 寛</td> </tr> <tr> <td>総 務 課 長</td> <td>大島 朋子</td> </tr> <tr> <td>企画政策課長</td> <td>座光寺満輝</td> </tr> <tr> <td>住民税務課長</td> <td>松村 和夫</td> </tr> <tr> <td>健康福祉課長</td> <td>林 潤</td> </tr> <tr> <td>産業振興課長</td> <td>堀越 康寛</td> </tr> <tr> <td>建設水道課長</td> <td>片桐 雅之</td> </tr> <tr> <td>地域創造課長</td> <td>久保田浩克</td> </tr> <tr> <td>会計管理者</td> <td>松澤 京子</td> </tr> </table>	副 町 長	宮下 寛	総 務 課 長	大島 朋子	企画政策課長	座光寺満輝	住民税務課長	松村 和夫	健康福祉課長	林 潤	産業振興課長	堀越 康寛	建設水道課長	片桐 雅之	地域創造課長	久保田浩克	会計管理者	松澤 京子
副 町 長	宮下 寛																		
総 務 課 長	大島 朋子																		
企画政策課長	座光寺満輝																		
住民税務課長	松村 和夫																		
健康福祉課長	林 潤																		
産業振興課長	堀越 康寛																		
建設水道課長	片桐 雅之																		
地域創造課長	久保田浩克																		
会計管理者	松澤 京子																		
<p>飯島町教育委員会 教育長 片桐 健</p>	<p>教 育 次 長 齊藤 鈴彦</p>																		

○本会議に職務のため出席した者

議会事務局長	那須野一郎
議会事務局書記	松下 知冬

本会議再開

開 議	令和7年2月28日 午前9時10分
事務局長	御起立をお願いいたします。(一同起立) 礼。(一同礼「おはようございます」) 御着席 ください。(一同着席)
議 長	おはようございます。(一同「おはようございます」) これより本日の会議を開きます。 本日の議事日程についてはお手元に配付のとおりです。 なお、本日、星野議員より欠席の通告がありました。 なおまた、報道等より写真撮影の申出がありましたので、これを許可いたします。
議 長	日程第1 一般質問を行います。 通告順に質問を許します。 3番 折山誠議員。 〔折山議員質問席へ移動〕
3番 折山議員	通告順に質問をしてまいります。 質問項目1「七久保診療所の医師確保を問う」。 質問要旨1-1、1月に愛知県で活躍する町出身医師を訪問し懇談した結果は、この ことについて伺います。 もう町長はあちこちで湯澤先生っていうことで公言されておりますので、湯澤先生と の懇談、いい結果があったことを期待して伺います、いかがでだったでしょうか。 〔唐澤町長登壇〕
町 長	おはようございます。 七久保診療所の医師の確保ということでございまして、先日1月31日に愛知県のほう に赴きまして先生と懇談を行ってきたところでございます。 飯島町出身の先生につきましては、現在、大学病院の学長を努められております。前 職はその大学の病院の院長を務められておりました。ちょっとまたこの3月で人事に変 動があつて、今度副理事長になるということで報道では出ているところであります。 当該病院につきましては、「医のフロンティアをゆけ。」というスローガンの下に大学 の学生、病院の医療従事者を合わせますと1万人が一つの町をつくっているというよ うな病院でございます。病床数は日本一ということで1,376床、臓器移植手術の件数も日 本一、最先端の医療ですとか、ハイブリット手術室、そういったものを設置している日 本最大の大型の医療機関、大学病院としては日本で一番大きくて、それぞれのいろい ろな活動をされているということでもあります。 また、全国初の橋渡し研究機関ということで認定されまして、医療ロボットやA Iの

取組、それから様々な医療関連開発を他社と連携しながら取り組んでおります。まさに日本の医療機関を牽引する病院ということでございます。

病院内を御案内いただきましたけれども、職員教育が行き届いておりまして、本当に地方の病院とは比較にならないほど外来者の対応等についてはすばらしいものがありました。

職員については、医療からリハビリまで、研究開発に積極的に取り組んで、大手機械メーカーと連携しながら医療に当たっておられたところをかいま見てきたところでございます。

病院は、地域連携推進医療法人、これは各都道府県が認定するわけですが、そういったことの取組はしておりませんが、各地の病院と連携を図っております。長野県内でも飯田市の私立の民間病院に医師を派遣しているということでございました。

先生につきましては、七久保出身ですので、地域医療、また飯島町の地域のことについて熟知されておりまして、七久保の地域医療についても気に留めていただいているところでございます。

この大学病院からすぐに医師の派遣、また地域医療に携わっていただくというのはちょっと難しいかなというところでお話がありましたけれども、何らかの形で支援をしていただくということでお願いしてまいりました。

先生とは今ホットラインでつながっておりまして、先日も電話でお話ししましたけれども、訪問後もしっかりと連絡を取りながら医師の確保についてお願いしていきたいと思っております。

地域医療の関係ですが、以前からお話ししているように、上伊那地域は医師の偏在率というのが167ということで、長野県でもかなり偏在率の際立ったところでありまして、近くの病院も、日赤にしましても、昭和伊南総合病院にしましても、医師の確保というのは、現在、ここ数年ゼロが続いているところであります。そういった状況でありますので、医師の確保については大変厳しいところがあります。

今後の方法としては、先ほど当該病院のほうも医師の派遣をしていただいているということですので、そういった医師の派遣——常駐ではなくて、医師の派遣をしていただいたり、伊那市で5年前から始まったモバイルクリニック、今現在750人くらい——通算ですが、利用されているということで、主に妊産婦の皆さんには好評をいただいているということでありますので、そういった手法もありますので、あらゆる方法を通じて、七久保地域、ひいては飯島全体の医療、従事者の確保について研究をしてまいりたいと思います。

[唐澤町長降壇]

折山議員

湯澤先生の病院がとてすてきな病院だということはよく分かりました。

やっぱり基本は——町長は常駐でなくてもって言ったんですけど、今までの七久保診療所を見ていると主なことが処方なんですよね、常に地域住民が、やっぱり薬を処方してもらおうのが一番大きい役割だったのかなと。

それと、今の昭和伊南総合病院の体系でいくと、1次医療機関としての、いわゆる、

まず1回はかかって、それから症状に応じてっていうような——初診料の関係もありますので——そういった役割が多く求められる七久保診療所になるかと思えます。

1つは、やっぱりあそこに滞在してくださる医師が必要なんだ、住民はそれを求めているんだっていうことと、湯澤先生、病院の中っていうよりも、湯澤先生の教え子とか、いろんな広い顔の中で、飯島町で求めているのは、医療器具については、もうレンタルで、1回もう清算しちゃっていると思うんですが、町である程度のものを全部整えて、体一つ来ていただければもう開業ができるような、そういった環境にあって、ある程度高齢の先生が改めて開院するとなると、その費用の回収がとてもできないっていうことで、大概是、高齢の先生はそのまま退官されていくようなことが多いかと思うんですね。

ですから、そういったような先生をターゲット、あるいは、若手で、もうちょっと医療技術をつけていう方は、昭和伊南総合病院と連携しながら、1つは昭和伊南総合病院に勤務しながら、メインを診療所に置きながら、こういったような勤務の体系も取れると思うんで、それぞれの基幹病院とも連携するような形で、世の中には、七久保の地、このすばらしい景観の地で、余生を地域の人たちと医療を通じて、生きがいを持ってっていうような方もいらっしゃると思うんで、ぜひその方とつなげていただけるような御努力を、引き続き定期的に継続して懇談を持っていただけるというお答えでしたんで、その点をぜひよろしくお願ひします。

質問要旨2、新年度は医師確保を主任務とする専任体制の取組を求めてきたんですが、実現するかどうか、このことについて伺います。

お聞きしていると、なかなか職員数も足りなくて、厳しいこれから人事異動が出てくるのかなとは思いますが、この件、昨年9月の一般質問で求めましたが、七久保診療所は2017年11月30日をもって閉院をしてから、今年になるともう足かけ8年っていうような長い時間なんですね。

それで、9月の折には、今の体制ではずるずるずるずると同じようにまた8年が過ぎていきそうな気がするんで、新年度の新組織では所管部署に医師招致を主の任務とする職員配置を行ってほしいという、そういった要望を申し上げたところであります。

この配置っていうのは町長の公約実現を示す一つの姿勢ともなるかと思えますので、重ねて求め、4月からどうなるのか、伺います。

副町長

お答えをさせていただきます。

医師確保につきましては、今担当しているのは健康福祉課ということになると思えます。

それで、健康福祉課に、正規ですけども、専任ではちょっとないというふうに、ちょっとほかのものも兼務をいたしますが、地域医療担当幹というふうにして設置をしてまいりたいというふうに思っております。

実際の業務、私も医者への誘致っていうのを一回やらせていただきましたけども、その機会があったら間髪入れず訪問をするとか、そういうことができる方は1人置いておきたいなというふうに考えておきまして、その訪問をしながら課長、係長につなげて、我々のほうへ情報がすぐ上がってくるような体制だけは取っていかねばというふうに

思っております、そういう体制づくりの中で、専門に置ければいいんですけども、ほかの事業と兼務にはなりますが、正規職員を置いて取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

折山議員

私もその仕事だけの職員を求めてはきませんでしたね。それが主任務で、やはりその周辺の職場っていろんな幅広いものを持っているんで、それは当然、主任務でその他の兼務っていうことがあろうかと思えます。

今の副町長の答弁では地域医療の担当幹を置いていただけるっていうことでね、とても期待をいたします。

報道によれば、先ほど町長の答弁にもありましたが、昭和伊南総合病院、伊那中央病院、松川日赤、遠くは辰野病院、公的なこういった病院では医師不足が深刻な状況であるということ、それからまた、コロナの補助が終わってからは、全ての病院が医業収益はもう赤字が顕著で、それぞれ関係自治体はその分を財政負担して運営していく。

もう医療そのものが厳しい環境に置かれてくる中で、よほどの取組を重ねていかないと、また、全ての病院に価値観がマッチするわけじゃなくて、七久保っていう特有の、一部本郷、また一部松川をエリアとするんでしょうけど、そういった地域性を持ったお医者さんって、必ずお互いの価値観の合致するお医者さんがいるかと思うんで、ぜひ、担当幹を中心に力強い取組をしていっていただけるっていうことの期待を込めて、もう一つは、地域医療の充実っていうのは、ある年代を特定するのではなくて、全世代を対象にした地域住民にとって大変重い政策課題になるかと思えますんで、そこら辺も意識しながらの今後の取組に期待をしながら、次の質問項目に移ります。

質問事項2「人口減少に対応した将来的な公共施設の適正規模を問う」このことについて伺います。

これは、年々厳しくなる町の財政運営、これがもう、ここんところの予算編成、その他を見ていると顕著になってきているかなということ、それを心配して伺うものがあります。

質問要旨1、2021年から10年後を展望する第6次総合計画、これは、町長は度々口になされていますが、その人口目標に対して4年を経過した今日の状況は想定どおりに推移しているのかどうか、このことについて伺うんですが、当町の今日の状況は上伊那郡市の中にあっても少子高齢化が最も進んでいる自治体というふうに認識をしております。

そこで、総合計画の目標値との乖離が、現状、心配なものであります。今のところ人口の推移っていうのは総合計画の目標におおむねそのとおりに推移しているのかどうか、まず現状をお伺いいたします。

町長

今朝ほどの新聞報道にもありましたように、出生者数72万1,000人ということで、去年よりも3,000人くらい減っているということで、長野県も1万700人ということで、かなり減っております。

また、自然減のほうは89万8,000人くらい、長野県でも1万8,000人ということで、非常に危惧される状況です。

50年前と比べると、出生者数で6割減っています。また、婚姻する皆さんも6割くらい減っているということで、このまま行くと日本自体が本当に再生産の行われていく国になるのかどうかというのは非常に厳しいところでもあります。

飯島町の人口ビジョンでございますけれども、国のまち・ひと・しごと創成長期ビジョン、これに基づきまして、地域の人口動態を分析して将来の人口目標を設定しているものでございます。

2020年——令和2年ですけれども——10月に策定した飯島町人口ビジョンでは、2065年——令和47年ですけれども——人口6,335人という設定をしております。これは地域の持続可能な発展を図るための重要な指針ということになっているところでもあります。

2020年の国勢調査の結果では人口9,004人ということでございました。人口ビジョンに比べて150人、1.6ポイント下回っているところでもあります。年齢別に見ますと、特に差が大きい年齢層、これは20歳～24歳、こちらで118人、30.2ポイント、またゼロ歳から4歳まで、こちらで58人ということで18ポイント、それぞれ下回っている状況であります。

減少要因としましては、転出超過が続いたことで生産年齢人口の減少につながっているということと考えております。

また、2023年——令和5年ですけれども——12月22日に、国立社会保障・人口問題研究所、こちらが公表した推計値、これは平成30年にも公表しておりますけれども、令和5年に改めて公表された数値でありますけれども、本町の2025年——令和7年ですけれども、今年の人口ですけれども、8,452人となっています。2月1日現在の人口8,852人ということでありますけれども、この推計値はこのようになっております。ただ、これは外国人も含まれておりますので、よろしく申し上げます。

飯島町の人口ビジョンでは8,771人で、社人研——先ほどの国立社会保障・人口問題研究所ですけれども、そちらの社人研の推計値は人口ビジョンに比べて317人少ない数値となっています。

こうした状況から、町の人口ビジョンにつきましては、国、県の動向、また現状を踏まえまして、新年度——令和7年度に改定を予定しているところでございます。

折山議員

質問要旨3のほうへ大分入っていただきましたが、質問要旨2、町の総人口は、1995年——平成7年、1万989人、これをピークに減少に転じております。この当時の公共施設の用地面積、建物の延べ床、それと今日のくらの増減になっているのか、そしてまた、類似団体と比較して何か比較できる体育館の数だとか面積だとか、いわゆる公民館とか、何か比較できるものがあればお答えをいただきたいと思っております。

ピーク時と比べて今がどうなっているのか、簡単に言えば、1万1,000人くらいものがちょっと減ってきて今どんな状況なのか、それをお伺いしたいものです。分かる範囲の中で数字のお答えを願います。

企画政策課長

お答えします。

平成7年度と令和5年度の比較になります。

まず公共施設用地につきまして申し上げます。平成7年度でございますが、29万7,108

平方メートルでございます。それで、令和5年度が36万8,308平方メートルであります。7万1,200平方メートルの増、24.0%の増となっております。

次に公共施設の延べ床面積につきまして申し上げます。平成7年度が5万2,085平方メートル、令和5年度が7万460平方メートルでございます。1万8,375平方メートルの増、35.3%の増となっております。

また、類似団体との比較でございますけれども、公表されております令和3年度・4年度のデータになりますが、比較を申し上げます。延べ床面積のみでございますけれども、類似団体——県内11町村の平均でございますが——6万2,657平方メートルでございます。それで、当町の面積は7万460平方メートルでございます。7,803平方メートル、12.5%当町のほうが多い状況でございます。

それで、これを人口1人当たりの面積に換算したものを申し上げますが、類似団体の平均で申し上げますと8.41平方メートル、当町は7.77平方メートルでありまして、0.64平方メートル、およそ8.2%少ない状況となっております。

以上です。

かなり詳しい数字を出していただきました。

この部分でちょっと申し上げますと、ここには4つの地区がありますよね。それで、これから大事なものは、地域協働って極めて大事なことで、これらの施設はその核になる、それで、あることによって地域協働っていったものがかなり進むっていう、一つ、財政面でもメリットのある、こういうものがあることでメリットのあることは承知しているので、一つを単なる規模だけで、あるいは箇所だけで論じることは危険かなということでは十分承知の上で、質問要旨3、第6次総合計画によれば、35年後の町の人口、これ、先ほど町長のほうで大分言っていたいたんですが、ちょっと私のほうで違っていればまた言っていたらと思うんですが、いわゆるその中に記載されている国立社会保障・人口問題研究所の推計では、もう35年後は4,300人台になりますよ、これに対して町は政策を行いながら6,500人台に頑張りますよ、こういったようなことだったんですね。

それで、先ほどは、今の住民基本台帳人口で比較して、いわゆる想定よりもいいよっていうようなお答えがあったかと思うんですが、国調ベースで考えるときには、うちの住基台帳の人口から百数十人、大体いつも少ないんで、それを引くと大体国調ベースと比較できるかと思うんですが、どっちにしても急激に減少へ、これは飯島ばかりじゃない、飯島は特に早いと思うんですが、国中がそういう状況にある中で、やっぱり議論は、先ほどの地域で自主的、主体的に行政運営を担っていつてもらうための一つの基盤として大事な施設でもあるんで、その効果と、これからそれを維持、修繕、また老朽化で建て替え、必要なものは建て替えていかなきゃならないんで、そのための準備、建て替え費用、こういったもので、町が将来、財政的にそこまで担えるのかどうか、両方の面で、一回、長期を展望した議論っていうのは進めていかなければならないのかなというふう思うわけでありまして。

それで、今のところ、私の言った二面性があるわけですね、地域として頑張っていっ

折山議員

てもらうための基盤、あるいは、今度は公共施設として住民福利の向上という部分で残していかなければならないが、財政的な理由で残し切れるのかという部分、今のところ町長の頭の中には、長期を展望した場合、整理しなければならないのか、それとも、それを残しつつ地域で頑張っていってもらおうという方向を持っているのか、ざっくりと言ったらどちらなのかということをお伺いします。

町長

公共施設の総合管理、これにつきましては令和元年度の地点で定めた数字があります。

この中には様々な、今言われました地域で住民自治をしっかりと担っていただく施設、これは10年ほど前に行いました各集会所、28の集会所を国庫補助金によって改修、新築したのがありますけれども、これらにつきましては、現在は町の施設ということになっておりまして、指定管理で各自治会の皆さんに管理をしていただいているということでもあります。こういった建物につきましては、やはり地域の住民自治の核となるものでありますので、しっかりと維持管理をしていく必要があるかなあというふうに感じております。

また、そのほか、社会体育施設等々は、区ごとに体育館、グラウンドがございまして、それらを活用して地域のコミュニティーづくりに貢献していただいているということがあります。

ですけれども、やはり将来にわたって——人口減少が進む中でこういったことを真剣にやっばり捉えて目標を持ちながら公共施設管理をしていく必要があるかと考えますので、残すものは残す、整理、整備、統合していくものは統合していく、めり張りをつけながらやっていきたいと思っておりますので、先ほどの人口ビジョン、今年改定しますけれども、それに合わせて将来の公共施設計画についても見直しを図っていきたいと考えます。

折山議員

質問要旨4、繰り返しになりますが、国も地方も人口減少に伴う経済基盤が縮小していく中で、健全財政の観点から将来にわたり必要な公共施設の特定を急ぐべきではと思うわけでありませぬ。

あわせて、早急な住民説明と合意の形成が必要では、この点について伺うわけなんです、どうしても——簡単に言えば1万1,000人から6,000人台なのか5,000人台なのか、国立社会保障・人口問題研究所の言う4,000人台に入っていっちゃうのか分かりませんが、半分っていうようなことを考えると、どんなに機能的なメリットがあっても、どこかでは財政的には整理、統合っていうところを見据えなければならないのかなというふうに思うものであって、伺うものであります。

それで、早期に住民説明、合意形成が必要ではというのは、1つ、町にも計画があるんですよね、公共施設をこれからどうしようとかいうものがあります。ところが、それはほとんど、今までのいわゆる議会の審査の中でお伺いしても、そのとおりに動いてないないということと、見通しすら全く立っていない、そんなような状況が浮き彫りになるわけでありませぬ。まだ今の段階では、多分、皆目分からないと思うんです。

ただ、地域の側に立っていると、地域に密着した1つの施設を閉鎖して統合するっていうことは、物すごい地域に対して大きい影響があるし、不利益がそのまま出てくるわけでありませぬ、長い時間をかけての合意形成っていうのは必ず求められてくるものと

思います。

将来にわたり維持管理していくべき公共施設と人口減少に伴い閉鎖、統合などを検討しなければならない施設を分類し、10年後はこうだ、20年後はこうだ、30年後はこうだ、そういった先を見据えた議論をそろそろ地域に、もう人口減少は間違いないものとして、住民も国も町も、みんなが認識している中で、地域に議論を投げかける時期になってきたのかなと思うんですが、その点のお考えを伺います。

町長

議員のおっしゃられたとおりでございます、認識は同じでございます。

今現在、床面積の多いものとしましては、学校施設、これが2万6,000平米あります。また、先ほど申し上げました集会施設、こういったものが8,700平米、それからスポーツ施設が5,800平米ということで、これが多い順に3つでございます。

こういった状況でありますけれども、やはり、現在の公共施設等の総合管理計画、これらの中で、施設ごとに利用状況や劣化の状況、また改修、建て替え、取壊し、また地区への譲渡、施設ごとの将来的な方向性、これを年度ごとで示しておりますけれども、その見直し作業を進めまして、住民の皆さんに投げかけながら、将来どうしていったらいいのか——公共施設をどうしていったらいいのかっていうところをしっかりと住民の皆さんと合意形成を図ってまいりたいと考えております。

折山議員

多い自治会の集会施設についても、今のような、もう自治会運営が限界に来ている、もう統合っていうことを、近くの自治会同士がお互いに力を合わせなきゃならないっていうように感じている自治会長さん方も、お話をお聞きしていると、もういるようであります。

それで、今の集会施設は新しく一斉にやってきたんですが、もう既に築後10年を過ぎておりますよね。これから10年20年30年っていうと、木造建築の耐用年にもだんだん入ってくる。そういったような時の中で、やっぱり、今、町長がおっしゃられたとおり、ちょっと地域へ投げかけて、地域ではそういう意向を持っているところも出始めているんで——集会施設は、もう全体に必要なものなんですね、地域の自治っていうものをしていく上ではね。ただ、どこかではそういったものも入ってくる。

それで、古く考えてみますと、小学校の分校があったんですよ、ここ飯島町にもね。それから、その統廃合があった。中学校も、七久保が、私は知らないんですけど、七久保中学っていうのがあって統廃合されている。それで、保育園もしていますよね、各地区に、私が来たときには全部の地区に保育園がありました。それで、学校給食の一本化、これもありました。

それで、私が一番印象的に思うのは、学校給食の一本化のときには、物すごい地域の人たちの反対の声が強くて、要望が、給食の反対のものがあったんですが、時間をかけて、やっぱり合意形成をしてきた結果、今日ではそのことを問題視する住民ってどこにもいませんよね。ですから、1つの課題に対しては、ある程度時間をかけて投げかけていくと大きな禍根を残さずに日常生活の中に溶け込んでいくこともあるのかなということなんです。

また、もう一つ、平成の大合併を振り返ってみると、国や地方自治体の財政に起因し

て国主導で行われてきたものなのですが、その結果、吸収されたっていうような形の自治体の今の人たち、住民に声を聞くと、決してうれしいことばかりではないようです。結構、不利益や不便を強いられて我慢をしている、そういった吸収された自治体の皆さんのことをお聞きすると、いつまでも——今になると、この町でこの町の町民としてやっていけるためには、どうしても財政的な基盤の構築が必要なのかなという、そういったことも思います。

ですから、できるだけ早い時期に、町民の皆さんにいずれはこういうふうになるよっていうことをお示ししながら、一つの方向性、この施設にはこういう考えがあるんですがいかがですかと、こういったような投げかけが必要であると思いますし、町長答弁はその認識を持っておっていただけるようですね、早い時期にそういった取組をしていただける、また求めて、次の項目へ移ります。

質問事項3「公共施設の借地用地の買い取りを問う」、これも今の項目と一緒に。どうしたら長期の安定した財政運営が町でできていくのか、そういった思いで伺うものがあります。

質問要旨1に入ります。将来にわたり必要な公共施設に関して、買い取る場合の財政効果の検討を求めます。効果があれば財政調整基金の一部などを財源にして地権者に働きかけてみるべきだというふうに考えて、そうした方向性としての考えを伺いたいものがあります。

これは、町の考えがどうであれ、地主という相手があることですので簡単に取り組んでいくっていうことは困難かと思えます。

ただ、もし町の将来的な財政負担が軽減できる、安定行政運営、こういったものに、軽減できるっていうことがもし確認できれば、早い時期に、地権者の御意向、町に協力していただけないか、伺うことも大切な思いながら伺うものでありますが、いかがでしょうか。

町 長

公共施設用地の買い取りの関係ですけれども、公共施設の借用地の取得につきましては、その施設の利用状況、また将来にわたっての必要性、そういったものを検討しながら、買い取りが有効と判断できる借用地につきましては積極的に取得を考えているところでもありますけれども、なかなか、長期にわたっている借用地につきましては、ほとんどが売却の意向のない所有者になります。

ですけれども、相続で土地所有者の状況に変化がある場合などは、折を見て地権者と交渉を行っているところでもあります。これは、役場を含めて、文化館にもそういった借用地がありまして、相続等の場合にはお話を持ちかけているところでございます。

今朝ほども、ちょっと住宅用地の関係でそういった案件がありまして、買い取り等ができないかというような話もさせていただきましたので、そういった場合には積極的に取得をしていく、長年借りていくよりは取得したほうが将来的な経費は安いと考えるので、取得をしていきたいと思えます。

引き続き地権者に対しまして町の意向を理解をいただくように努めながら、取得の際には必要な財源措置を行い対応してまいりたいと思えます。

相続に関して言うと、ここに跡取りさんがいての相続だとね、割合円滑な相続っていうことなんですけど、みんな出ちゃって、相続が分散して、またここに住んでいない方たちにわたっていくと、もう後になかなか複雑な事態が生じますんで、そういった整理も含めて、何年払ったら、いわゆる、簡単に言えば買い取ったほうがいいのかなという判断も含めて、地権者の方には御協力いただくとかね、町の将来的に、この町がこの町として生き残っていきたいんだからという御理解を、そのためにひとつ御協力をついていうような訴える部分がないとなかなか協力とか理解はしていただけないかなと思うんで、そこら辺も含めながら、ひとつ明確に、どこかではそういった姿勢を打ち出していただきながら御協力を求めていっていただくことを求めて、最後の質問事項4に入ります。

「防犯カメラの設置補助を問う」、近年多発している凶悪犯罪の状況を鑑み、防止、抑止を目的とした防犯カメラ設置に対する町の補助事業創設の考えを問う、これについて伺うものであります。

御承知のとおり、長野駅前での理不尽な殺人事件を機に、県内であまりに白昼堂々、理不尽なことが起きたっていうようなこともあって、一挙にそういった機運が、飯島町ばかりじゃなくて、広がったような気がいたします。

それで、最近ですが、防犯カメラの設置を検討する自治会などの動きが芽生えてきているのではないのかな、町へも要望が上がっているのではないかなと思うんですが、それは今後さらに広がっていくと思われるほどの治安の悪化。

それで、長野駅前での事件については、解決するまでに、長野県警の捜査員だけでは足りずに他県からの応援まで入れて数百人態勢での捜査がしばらく続いた。しかも、その間、近隣の人たちは不安にさいなまれて平穏な日々を過ごすことができなかつた。ですから、何かあったときには早期の解決が求められる。

それで、そのために有効な手段は、一つには防犯カメラがある。こういったようなことの中で、地域の中では求める声これから広がっていくのかなと思います。

長野県では警察予算の中で補助制度を有しているそうなんですけど、やはり県も予算に限りがあって、現在は、ネット見ると、もう今年度分の申請は受け付けておりませんと、予算がいっぱいになりました、こういったようなことになっております。

そうしたことから、町の上乗せ補助制度の創設、これ、上乗せ補助っていうのは、県に対してちょっと上乗せをしてねっていう声が届いてきたんですが、実は、県の制度見ていると、町が上乗せすると2分の1が3分の1になってしまうとか、ちょっと補助の割り落としもあるんですね。

そういった上乗せをしてほしいという気持ちがある町民の中にあるということはお伝えして、私の思うのは、県も町も財政の縛りがありますから、県で財政がいっぱいになったとき、ちょっと非常時、緊急事態、あるいは特に要望の強いもの、これに応じていくためには町単独の補助制度でお互いに補う、補い合う必要があるんじゃないのかな、そういった思いを強くしながら伺うものであります。

6次総合計画では安全で安心なまちづくりが政策の大きな柱にはなっていると思うん

ですが、しかし、安全・安心を当町で言った場合は、多くが自然災害等に対する備えであるというふうに理解をしております。

町民が理不尽で暴力的な被害に遭わないための具体的な施策っていうのは警察官に依存する部分が多いと思うし、自警的なものもあると思うんですが、政策の中では薄い部分ではないのかなと思います。

それで、ここのところ独り暮らしの高齢者の皆さんなどからいろんな声が、やっぱり不安の声が寄せられるんですね。それで、そういった不安を少しでも払拭するためには、町のそういったような制度があるっていうことも1つの安心材料になるのかなということでも求めるものであります。

当町では、以前、消防団の設備が盗難に遭いましたよね。それで、全国的には消火栓の管槍、そこに設置してある。あれは金属がお金になるんですね。それをどんどん持っていかれるっていうのが結構ニュースで広まっております。

それで、こうした頻発する押し込み強盗だとか、理不尽な路上傷害でありますとか、各種の盗難予防のための措置、あるいはそういった悲惨な事件が起きたときの早期の解決っていうのは住民の安心につながっていくという意味での防犯カメラ補助制度の創設のお考えを伺います。

町長 今、議員の申されたように、非常に理不尽ないろいろな犯罪が起きておりますし、当町でも空き家を中心に空き家を物色するような行為もあります。

また、全国的に見られます、不在宅ですとか老人宅を物色するような、そういった車両の運行もあるというふうに聞いております。

防犯カメラの設置は、全国的に犯罪抑止や地域の安全向上に寄与する重要な施策として注目されているところであります。

議員の申されましたように、県警では、自治組織、そういったところに設置する防犯カメラについては一部補助がありまして、令和6年度はもう希望が多くてないということですが、令和7年度の事業については拡充されていくということでもありますので、町でもこの補助制度を積極的に活用できるように情報収集をしているところであります。

もう既に御希望のある自治組織もありましたので、警察、派出所につなげまして来年度の要望をお願いしたところでございます。

町としましては、こういった防犯対策のための防犯カメラの設置を含めて、住民の皆さんへの注意喚起や住民同士が協力して近隣の状況を見守っていただくこと、また財産を適正に管理していただくことを促しながら防犯意識を高めて、安全・安心な地域づくりに努めてまいりたいと思います。

現在のところ、町独自の制度の創設については検討しておりませんが、状況を見ながら、また研究をしていきたいと思っております。

なお、防災無線等で、現在、空き家等の防犯につきまして注意喚起を促しているところでありまして、これは定期的に続けていきたいと考えております。

折山議員 県の制度は町が事業主体のものも補助してくれるんですね。
それで、飯島町で、これは、もう抑止っていうよりも、何かあったときに防犯カメラ

が有効だと思うのは、飯島町ってよそから入ってくる時に必ず橋を渡らなければ入ってこれないんですね。そうすると、そのあたりに町が何箇所か設置すると、少なくとも出入りに関しての車両については特定できると思うんですね。これはかなり有効な手段になると思うんで、ぜひ、町のそうした安全のための防犯カメラ設置、橋梁、いわゆる他——松川、駒ヶ根、中川、こういったようなところからの基幹のところへちょっと何台か据えると、有事のときにはたどれる、かなり威力のあるものになるのかなということ、それからまた、自治組織については状況を見ながら、また町の制度の創設についても、それに対応していただけるという御答弁がありましたので、そこんとこに期待をしながら、一般質問を終わります。

ありがとうございました。

ちょっと、これ、椅子が壊れておるよ。おつかないで、ちょっと換えたほうがいいかもしれん。

[折山議員復席]

議長　ここで暫時休憩といたします。

休憩　午前　9時58分

再開　午前10時01分

議長　会議を再開いたします。

一般質問を続けます。

7番　三浦寿美子議員。

[三浦議員質問席へ移動]

7番

三浦議員　それでは通告に従いまして一般質問を行います。

今回は、「生活保護受給者の暮らしぶりについて」、また「こまくさ園の環境について」と「障がい者の福祉医療費の窓口無料化について」「今後の物価高騰対策は」ということで質問をしていきたいと思っております。

最初に「生活保護受給者の暮らしぶりについて」ということで質問をしたいと思っております。

この頃は知人と会えば物価の話になります。灯油は冬の時期に欠かせないと、食べることも灯油代を優先している、買物に行けば前は1週間分の食料を1万円を買ってこられたのに1万円分買っても3日もすればなくなるという人、同じ金額で買えるのは半分という人、前のように買物かごいっぱいになるような買物はできないなど、物価高に頭を悩ませながら毎日を暮らしております。

3月からは電気料金が各社で値上げということで、中部電力は最も高く411円の値上げと報道がされております。

そんな状況の中、病気のため生活保護を受給して暮らしている知り合いの人から最近の様子を聞く機会がありました。「灯油が高くて大変だね。灯油は足りている？」と尋ね

ますと、できるだけ使わないようにしているとのこと、どのように暖を取っているのかと聞きますと、布団にくるまっているということでした。

また、別の方にも尋ねてみました。暖房を使わずに布団にくるまっていると、同じような返答がありました。日の当たる窓辺に足を向けて寝ていると、日の当たる日のその時間は暖かい、そんなことも言っておりました。

私は何年か前にお尋ねした年金暮らしの方のお話を思い出しました。その方は、電気料が高くなるといったときだったと思いますけれども、部屋中の明かりを消して布団の中に入っているというふうに言うておられました。そんなことを思い出しながら、本当に大変だなというふうに思っているところです。

病気や高齢の人の冬の時期の過ごし方として、これではよくないというふうに思います。食べること、買物、暖房など、どのような暮らしぶりなのか心配です。

生活保護受給者の生活実態を把握しているのかどうか、お聞きをしたいと思います。

〔唐澤町長登壇〕

町 長 生活保護受給者の暮らしぶりということでありまして、その実態を把握しているかどうかということでもあります。

私も生活者ですので、このところの物価上昇、非常に大変なことというふうにも実感しております。買物に行っても、ふだん、先ほど言われたように、前の金額で買える量というのが本当に少なくなってきておりますし、また電気料、灯油代、そういったものも以前に増して請求額が多くなってきているということを実感しているところでもあります。

現在、飯島町の生活保護の受給者は19世帯でございます。

町も県と連携しながら、そういった受給者の皆さんの生活実態の把握に努めているところでもあります。

いろいろな、物価高もありますし、いろいろな健康問題、そういった困り事がありましたら、ぜひとも町へ相談していただければと思います。

なお、詳細につきましては担当課長より御説明申し上げますので、よろしく願います。

〔唐澤町長降壇〕

健康福祉課長 生活保護の被保護世帯に対しましては、保護の実施機関であります長野県の上伊那福祉事務所が中心となって生活の状況を把握しているところでございます。

上伊那福祉事務所では世帯の状況に応じた訪問基準というものがございます。少なくとも年に2回以上とするという訪問計画を策定し、ケースワーカーが家庭訪問をしております。

また、被保護世帯個々の状態によりましては、随時訪問、こちらのほうもしております。生活の把握をし、援助の方針への反映や指導を行っているところでございます。

物価高騰のための調査としては、特別な訪問はしていないというふうに福祉事務所のほうからは伺っておりますが、町といたしましては、福祉事務所への家庭訪問へ、町の担当者、また保健士、社会福祉士など、職員を同行させたり、また頻りに電話などで福祉事務所等と世帯の生活状況について情報共有をしているところでございます。

三浦議員

今後も上伊那福祉事務所と連携いたしまして生活状況の把握に努めてまいります。
ただいま福祉事務所と連携をしながら町の職員も対応しているというふうにお聞きをしたところですが、こうした物価高騰の中で、生活保護費だけで本当に健康で文化的な生活が可能かということでもあります。

私は、平成 30 年 3 月の定例会で、国が平成 30 年 10 月から生活保護基準を引き下げることに対して、改定によって低所得者向けの 47 の制度に影響することなども挙げて、制度ができてしまえば元に戻れない、生活保護基準を引き下げるべきではないと、はっきり言うべきだと求めました。住民税非課税基準に連動していて、非課税だった人が課税対象になる可能性がある、そのとき答弁もありました。しかし、町長の答弁は国の議論に委ねたいとのことでした。

結果として、生活保護基準は引き下げられました。生活保護世帯以外にも影響が出ていることは明らかです。

国の方針がどうあれ、町民にとって不利益になることが分かっていることに対して、私は、抗議をしたり要請をすべきであって、そのことを町長に求めたというものでした。

私の考えとしては、全国津々浦々から市長の抗議があれば制度の改定を止めることができた可能性があるというふうに思っております。国会での議論の基になるのは地方からの本音の声であるべきで、国の議論に委ねるとするのは、首長の言葉としてはとても残念でした。

さて、物価高騰が続き、国の物価高騰対策をする事態になっている中で、生活保護基準の見直しが必要とさえ聞こえてきません。一過性の支援では生活を維持するのは大変厳しいと思われまます。

暖房も我慢して布団の中の生活で健康で文化的な生活と言えるでしょうか。物価高騰の中で生活保護費だけで健康で文化的な生活が可能とはとても考えられませんが、その辺についてのお考えをお聞きします。

議 長

1—2 でよろしいですね。

三浦議員

すみません。1—2 です。

健康福祉課長

生活保護の制度は、憲法第 25 条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」とした規定の理念に基づきまして国の責任において最低限度の生活を保障するといった内容のものでございます。

昨今の物価高騰によりまして、生活保護の被保護世帯に限らず、多くの皆さんの生活が大変厳しい状況にあるところでございます。

町としましては、生活保護費だけで生活することは大変厳しいというふうにご考えておりますが、住民税非課税世帯への給付金や福祉サービスなど、他の制度、他の施策の活用を含めまして、上伊那福祉事務所と協力しながら、町としてできることをしてまいりたいというふうにご考えております。

三浦議員

町としてはできることをやって支援をしていきたいというふうにご伺いましたが、先日の物価高騰に対する給付金ですが、一過性のものでありますので、そのときは本当にありがたいと思われまます。しかし、給付されるといって、いつになったらもらえるのかね

という話も以前に聞かれたりもしましたけれども、本当に苦しい生活の中で、たとえ幾らでも支援を受けたいというふうに思われる受給者の方はいると思います。

それで、生活保護を受けていますと、例えば私たちだと、御近所でこんなに野菜が取れたから、どうぞ食べてくださいとかって言って、もらいますよね。私なんか本当にありがたいくて、すぐに頂いてしまうほうなんですけれども。ところが、生活保護を受けている方は、そんなふうに頂いた野菜をお金に換算して次の保護費から引かれるというのが基本的なスタンスだというふうに聞いております。目をつぶってという話も聞こえてはきますけれども、現実として、法律的にはそんなふうになっているそうです。

ですので、少しでも豊かな生活をしたいと思っても、なかなか善意ではなくなるという、基本的に現金が減ってしまうと、頂いたもので現金が減ってしまうと、生活費がもっと厳しくなるというような本当に信じられないことに法的にはなっているというふうに認識をしております。

それで、本当に今の生活保護の制度というのを見直しが必要ではないかなというふうに思っているわけなんですけれども、そういうことで、私が今回一般質問をしたいと思っているのは、物価高騰などを考慮して生活保護基準を健康で文化的な最低限度の生活のできる水準に引き上げることが求められているというふうに思っているわけです。

普通に御近所とのお付き合いを私たちはしているんですけど、生活保護を受けている方が御近所付き合いをすると生活保護の保護費に影響するのでは御近所付き合いも気楽にできないし、周りの人たちはそれをしたらその人に悪い影響があると思ったらお付き合いもできなくなってしまいます。こんな制度でいいのかというのが、私の、本当に生活保護制度の問題に対してちょっと何とかしてほしいと思っているところなんです。

それで、そんなこともあり、また、今の車社会の中で車の所有に関する本当に規定がなかなか厳しくて、なかなかいろんな理由がないと車を持つことができないというのが実情だというふうに思っております。

そういうことも考えますと、本当に今の社会の変化に合った制度へ見直しが私は必要だというふうに感じておまして、食事や暖房代を削る生活をしないと暮らせないのでは現在の生活保護が実態に見合っていないというふうに考えるべきだというふうに思っているわけなんですけれども、このことについて社会の変化に合った制度に見直す必要性についてのお考えを伺いたいと思います。これは1—3の質問です。いかがでしょうか。

健康福祉課長

生活保護制度における生活保護費の生活扶助基準額につきましては国において決められておりますが、令和5年度・6年度につきましては、特例で1人当たり月額1,000円の加算がされております。また、7年度8年度につきましては、さらに500円上乗せの1人当たり月額1,500円の特例的な加算が先日晒されたところでございます。

先ほどの答弁にもございましたが、生活保護の被保護世帯に限らず、国民の生活は大変厳しい状況となっております。

三浦議員のおっしゃるような根本的な解決というふうにはなっておりませんが、国におきましては、物価高騰対策やほかの施策も含めて、社会経済情勢等を総合的に勘案する中で制度の見直しについて期待をするものでございます。

三浦議員

私が町に求めたいのは、こうした制度であるという、実際に住民の中で大変な思いをされている方たちがいるという現実を踏まえて、国に対して制度を改善、改定を——改善ですね、改定したらマイナスの状況になってしまったのでは本当に意味がないので、本当に住民の健康で文化的な暮らしができる、そうした基準に引き上げるように求めていただきたいということなんです。

困っている人は、じゃ町が、給付金があるから一時的に支援すればそれでいいかといえ、そうではないですし、本当に、余裕がない生活の中で電気を消して布団にくるまっていたのでは、とても健康的ではないですし、人との付き合いや、いろんなところに出ていってその人らしい暮らしをすることが実際には求められている中で、じゃ本当にいいのかということになれば、本当に今の生活保護基準ではそういう生活はとてもできないのではないかと、それで、さらにこれから電気料金が上がっていくということになれば、どのような生活をして暮らしていけばいいのかということも本当に心配になります。

先ほど課長のほうから僅かながら加算をされていると言われましたけれども、皆さん御自分の生活の中で1,000円2,000円増えても、多くても5,000円と増額されて、それがどんな、生活が救われるでしょうか。今の物価高の中で、それで本当に健康で文化的な生活ができる水準かといえば、そうではないというふうに私は思います。多分、皆さんもそういうふうに思っていると思います。

ですから、ぜひ国に対して住民の皆さんの命や健康を守るために生活保護基準を引き上げるべきだということをお願いしたいというのが私の町長に求めたいことなんですけれども、所見はいかがでしょうか。

町長

直接生活保護世帯の皆さんの状況を把握しているのは、町も当然ですけれども、上伊那福祉事務所でございますので、そういった福祉事務所と連携しまして、また生活保護の実態を把握しながら研究を進めていきたいと思っております。

三浦議員

ぜひ国に対して、私は機会あるごとに、町村会長会とか、全国何とか、いろいろありますけれども、一飯島町の首長としても住民のために生活保護基準を引き上げてほしいという要望はさせていただきたいと思っております。全国津々浦々、各自治体で首長の方からそういう声が上がっていけば、制度は変えざるを得ないと思っております。

今、国の中で高額医療費の問題が、それはまずいだろうというような話があれば大紛糾をしているわけで、上げてみたけれども先送りにするとか、そんなことにもなっているわけで、声が上がれば対応も変わると、それは国政レベルでも多くの声が上がれば変えていくことは可能だというふうに私は思っていますので、心に留めておだけ、上伊那だけで止めておくことではなくて、国に対して物を言うていただきたいというのが私の求めることです。ということで、ぜひお願いをしたいと思います。

では次の質問、2番目の「こまくさ園の環境について」ということで質問をしたいと思います。

これは社協に関わることでありますので、町長の認識についてということでお聞きをしたいと思います。

現在のこまくさ園は元消防署の施設を使っております。床はコンクリートのままであ

り、冬は特に足元が冷えるために、私は利用者の方の健康面をととても心配しております。

こまくさ園を知っている方からも同じようなことを言われて、おまえは本当にそういうことにちゃんと気を遣っているのかというふうに叱咤をされたりもしてきております。

本当に、どう考えても、そういう意味では障がい者の方の作業所としてはふさわしくないというふうに感じるどころなんですけれども、町長の認識をお聞きしたいと思いません。

町長

こまくさ園の環境についてということでございますけれども、以前、建物は飯島消防署として使っておりまして、平成13年から共同作業所のこまくさ園で、その後をB型作業所ということになりまして、今のこまくさ園になっているということでもありますけれども、建物が古いということは承知しております。

それで、現在、町としましては、こまくさ園の機能について町の社会福祉協議会と移転も含めて協議を進めておりますので、その協議の中でできるだけ早い時期に移転等の検討をしてまいりたいと思っております。

三浦議員

機能については今協議をされていて、早い時期に移転などのことについても検討していくというふうにお聞きしましたので、ぜひ、できるだけ早くそうした対応をしていただきたいというふうに思います。

どこかに移設するのか、どこかの施設を使うのか、また新たに建てるのかということもいろいろ考えられるわけなんですけれども、やはり安心してそこで作業ができたり、居心地のよい施設にしていいただきたいなと思っておりますので、よりよい方向でもって対応をさせていただきたいなというふうに思いますので、ぜひ町長として社会協議福祉会の中でもそんな声を上げていただいて、お願いしたいというふうに思うところです。

2-2なんですけれども、今の状況の中でのこまくさ園の環境改善に関わるというようなことが可能かどうかについてはいかがでしょうか。

健康福祉課長

現状に関わることは可能かということでございますけれども、結論から申しますと、直接関わることはできないというような状況でございます。

今の件に関しましてですけれども、町のほうでは令和2年3月に策定しました飯島町公共施設個別施設計画におきまして、この建物は令和4年に取り壊すという予定になっておりましたが、賃貸人である社協さんとの協議の結果、当面の間、取壊しは先送りするといった形となっております。

ただ、いずれは町の計画の考え方に基きましてその建物は取壊しという方向でございますので、引き続き社会協議福祉会の意向のほうを確認、また尊重しながら、こまくさ園の機能移転に向けた協議のほうを重ねてまいりたいというふうに考えております。

また、こまくさ園移転の際でございますが、ほかにも障がい者の支援施設を運営する法人さんがございます。そういったところとの公平性も考えながら、町としてできる限りの対応をしてみたいというふうに考えております。

三浦議員

例えば、今はコンクリートの床が冷たいわけなんですけれども、もう少し足元を暖かくするような、何か対応するものを、シートを敷くとか、何かそんなようなこととかっていうようなことで、具体的なそういう支援みたいなことは、町としては難しいことなんで

しょうか。

副町長

こまくさ園のところにつきましては、平成 24 年に補助金を使いまして、それで耐震補強だとか、そういうのをいろいろやったときに、中の改造もかなりやったと思っています。

それで、前の消防署で消防車が止めてあったところを今使っているものですから、その上をそのまま使っているわけではないというふうに理解をしております、それで、そのところを、冬場はどうしても寒くなりますので、ストーブですとか、そういうのは利用者の方々に支障がないようにはしているというふうに理解をしております。

私も、直接あまり言うことはできませんけど、一応、立場上、理事というのをやっておりますので、状況は常に把握をしているところでございます。

それで、今、町長や課長が申しましたように、こまくさ園につきましては、もう老朽化が大分来ているところでございますので、移転をしたほうがいいんじゃないかという話はずっと前からしております。

ただし、こまくさ園は障がい者の事業所でございます。それで、あと、社協の中で持っている事業所が幾つかございますので、そこら辺の経営状況と合わせないと、なかなか、じゃいつ移転するとか、そういうことはできないという状況がまだ社協内にあるというふうに理解をしておりますので、そこら辺のところは、先ほど申しましたように協議を進めながら、一気にはいかないと思えますけれども、あの建物は老朽化している認識は向こうも持っておりますので、そのところを共有しながらやっていきたいというふうに思っております。

もしそういう状況があるとすれば、町としても修繕費というのは幾らか持つてはおります。そういうものを持っておりますので、そういうものを、決まった額、いろいろやるについては御相談が必ず担当課にあると思えますので、その中で対応するしかないかなというふうに思っております。

以上でございます。

三浦議員

早い建て替えが、移設が望まれるんだなというふうにも思っておりますので、よい場所が見つかればいいなというふうに思いました。

それでは 3 番目の質問をしたいと思えます。「障がい者の福祉医療費の窓口無料化について」ということで質問をしたいと思えます。

3-1 です。

子どもの医療費はゼロ歳から高校 3 年生学年相当まで窓口無料になって大変喜ばれております。

しかし、まだ障がい者の方や老人ですね、高齢の方の福祉医療費は一旦窓口で支払う償還払いのために負担が重いというふうに思っております。

それで、窓口無料化に障がい者の方たちの医療費もするべきではないかなというふうに思っているところなんですけれども、その辺のお考えをお聞きしたいと思います。

健康福祉課長

現在、高校 3 年生学年相当までのお子さんの医療費につきましては、お話のありましたとおり、福祉医療制度によりまして、県外の医療機関等の受診など一部の例外を除い

では、基本的に窓口負担はございませんが、それより上の年齢で障がいをお持ちの方などの医療費につきましては、医療機関で一旦医療費をお支払いいただきまして、後ほど医療機関からのレセプト1枚につき500円を除いた金額を給付金としまして本人の御指定の口座のほうへ振り込ませていただいているということでございます。

障がいをお持ちの皆さんの福祉医療制度につきましては、年齢で対象となるお子さんとは異なりまして、その区分によって支給対象が外来受診のみであったり、また所得制限によっては給付対象にならないような方もいらっしゃるということで、財政面のみでなく、医療機関さんなどとの調整など、当町だけでの実現はちょっと難しいというふうを考えております。

今後も県や上伊那郡内の他の市町村とも連携をしながら情報収集に努めるとともに、ほかの福祉施策も含めて、必要な方に必要な支援ができるようなことに努めてまいりたいと考えております。

三浦議員 そのとおりですね。飯島町だけで対応しようと思ったら本当に難しい話だというふうに思います。

ぜひ、県の制度として対象とするように求めていただきたいなど、全国で見ますと、県のレベルで障がい者の方も窓口で払わなくてもよいような制度を持っているところもあるんです。所得制限のあるところ、ないところ、様々ですけれども、多くはないというのも事実ですけれども、そういう制度を行っている県もあります。

ぜひ、機会あるごとに県の制度として構築していただきたいということを求めていただきたいと思いますと思いますけれども、いかがでしょうか。

健康福祉課長 年間通じまして担当の課長会ですとか担当者会とかいうのがございますので、そんな中で、上伊那のそういった会議の中でお話が出れば出していきたいというふうに考えております。

三浦議員 ぜひ、本当に障がいをお持ちの方たちが医療費を窓口で支払うというのは重たいと思います。ぜひ早い対応をしていただけるように、機会あるごとに求めていただきたいと思いますというふうに思います。

では4つ目の質問に移ります。「今後の物価高騰対策は」ということで質問をしたいと思います。

1月の臨時会で物価高騰対策の予算が措置をされました。物価高騰が続いていく状況の中で、それでは十分とは言えないという現状があるというふうに思っております。先ほどの生活保護基準のお話も生活保護の受給のお話もしましたが、本当にそのときだけちょっと豊かになれば何とかなくなっていくという問題ではないというふうな現状があるというふうに思っております。

それで、いつ給付をされるのかと一日でも早い支援を待っているという人もおりまして、私は聞かれてもいつとも言えなかったもので、議会で決めたので給付はあると思いますよとそのときは答えたんですけれども。

本当に灯油もなかなか買えないと、それで、先ほども言いましたけれども、生活保護を受けていますと車を持たないので、灯油を買うということになりますと、自分で行っ

て買ってくるというのはなかなか難しいんですね。それで、配達をしてもらおうとどのくらいなるかと思ったら、結構手数料を取られるみたいです。

私も灯油をときどき買いに行くんですけども、行くごとに値段が上がっておりまして、本当に18リットルなら2,000円あれば何とかかなるかなという時代ではなくなって、本当にもうやんやらやっと、そしたら、今度は買ってきて、家まで持ってきても、今度は使う灯油をいかに使わないようにするかということを考えないと大変だと。

それで、結構今年は寒いので、なしというのは本当に大変なんだろうなと思いますけれども、先ほど言いましたように、本当にストーブをたかないように、できるだけ灯油を使わないように布団にくるまっていると、電気も消しているというような方がいるわけで、本当にこれでいいのかって思います。

ということで、支援の在り方というのも考えていかなければいけないのかなというふうに思って今回質問をしたいと思ったんですけども、以前に福祉灯油券というのを配付したことがありました。そのときには灯油が100円を超えたら福祉灯油券で支援をするというふうに答弁があったと思います。

それで、唐澤町長になられたときに福祉灯油券をという質問をしましたら、今は灯油だけでなく、電気も使って暖を取ったりとか、いろいろ状況も変わってきているので、福祉灯油券では対応し切れないので現金で支給するというような話がありましたね。そんなオール電化の時代ですから、確かに灯油だけではなかなかそういったところの支援にはならないのかというふうにそのときは思いましたけれども、一過性では、なかなか、本当に苦しいかなというふうに思っておりまして、何かそういう対応が町としてできないかということなんです。

灯油を我慢し、食べることも本当に我慢をして暮らしている方もいらっしゃいますので、本当に健康面も心配なんですけれども、一過性のものじゃなくって継続した支援が必要じゃないかなというふうに感じているんですけども、財源の問題もあると思いますけれども、何か考えや支援のありようということは検討していただけるかどうか、お聞きをしたいと思います。

健康福祉課長

1月の臨時議会でお認めいただきました物価高騰対策の予算につきましては、個人向け、事業者向け、それぞれ順次事業を進めているところということで、事業者向けにつきましては既に始めておるところでございます。

昨今では、今、三浦議員もおっしゃられましたとおり、オール電化の家庭もあることから、低所得世帯の皆様に対する支援は灯油券ではなく現金ということで考えさせていただいておるところでございます。

今後も物価高騰は続くと思われまして、町としても継続した支援が必要と考えておりますが、国や県の動向を注視しながら、町としてできる支援、こちらのほうをできるように努めてまいりたいというふうに考えております。

また、生活にお困りの方がおりましたら、ぜひ役場のほうへ御連絡いただければと思います。限られた支援の施策ということではございますが、関係機関と協力しましてできる限りの対応をしてみたいというふうに考えております。

三浦議員 いろいろな形で、今継続した支援を検討しておるということですので、ぜひ一過性でなくて、景気が持ち直して本当に暮らしが何とかできるようなときまで本当に支援を続けていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

本当に困っている方は役場に相談をとというふうに今も課長から言われましたけれども、困ったときに安心して役場に相談すれば何とかなるんだというふうに思えるような取組を、ぜひ皆さんに声をかけていただきながらしていただきたいなと思います。

そんなことで、ぜひ、この厳しい物価高、本当に生活、これからも電気料が上がったり、いろんなところで本当に暮らしは大変になっていくと思いますので、支援を必要としている人が助けてほしいと声を上げられるような、そんな取組をしていっていただきたいというふうに求めまして、質問を終わりたいと思います。

〔三浦議員復席〕

議 長 ここで休憩を取ります。再開時刻を午前 11 時といたします。休憩。

休 憩 午前 10 時 40 分

再 開 午前 11 時 00 分

議 長 会議を再開いたします。
一般質問を続けます。
6 番 浜田稔議員。
〔浜田議員質問席へ移動〕

6 番 浜田議員 それでは通告順に一般質問を始めます。
今回は 1 項目だけになっておりまして、「飯島町林業の将来構想を問う。」という内容です。

1—1。本年度から町有林の主伐・再造林事業が進められていると、私は、年初予算でほとんど目立たなかったんで、ああいう大きなことをなさるとは思っていなかったんですけれども、ちょっと驚いたということで、1—1 全体についてまとめてお尋ねしたいと思います。つまり、この事業の性格と目的は何かということをお説明いただきたいということ。

それで、この事業が、いわゆるカーボンゼロで国や県の補助金の誘導——誘導っていう言い方がいいかどうかは分かりませんが——誘導によって行われているという性格の事業なのかという、それで、もしその場合には補助事業としてのどんな縛りがあるのか、それから未利用材はどう扱われるのか、実際に現場を視察させていただいて、根っこやなんか残ってましたんで、いわゆるタンコロと言われるものが。

それから、この目的が町の歳入増を目指しているのかと、それから、これはもともと売って収益的事業にすることを目的としているのかと、あるいは、また、その場合、長期の担い手を想定しているのかと、もし事業であるならば、再造林ということになれば 50 年 100 年の事業になるはずですので、その担い手は一体誰だと考えているのかと。そ

れで、産業振興課だとすると、もともと収益的事業をやる部署ではないので、事業としてやるのであれば担い手はどうなるのかと。

それから、もしその場合には長期の収支の試算をなさっているのかと、それも、例えば国、県の補助事業がずっと続く場合とか続かない場合とか、いろんなケースがあると思うんですけども、こういう事業の全体について、もともとどういう性格なのかということをお私にはよく理解できなかつたんで御説明いただきたいというのが1—1です。ぜひお考えをお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

[唐澤町長登壇]

町長 飯島町の林業の将来構想を問うということでございまして、今行っております主伐・再造林、この性格、目的等々ということの御試問でございます。

現在、町内の森林面積約73%、これが40年～70年生ということになっております。それらの木々は、収穫時期——伐期を迎えているということになります。

特に、戦後、家屋が焼失したりしまして木材需要が伸びたということで、国の施策として伐採を、皆伐を行いまして、その後、植樹をしてきたという経過があります。

特に飯島町は仙涯嶺の上まで伐採をしたという跡が残っておりまして、そこまでカラマツ等が植えられているという状況であります。

今年度の事業につきましては、道路に近く、運搬がしやすく、地形もなだらかで作業がしやすいなど、収益性が高い町有林におきまして、該当地の木を全て伐採——主伐ですけれども——し、伐採後に若い木々を植えて育てる再造林を行うものでございます。

事業の経費につきましては、伐採については補助事業がございません。ただ、再造林——若い木を植えるところにつきましては補助事業がありまして補助が出ます。また後ほど詳細については担当課長から申し上げます。

森林には、水源の涵養、あるいは土砂災害の防止のための役割もありまして、それぞれの場所において適切な森林整備を進める必要があります。ですから、全てを主伐、再造林ということではなくて、町の森林整備計画に基づきまして、その中で適切な場所を行っていくというところでございます。

今回の事業地のように災害のリスクが低く収益性が高い木材生産に適している山においては、持続可能な森林整備や森林経営を行っていくことが必要であるということで考えておりまして、今回の主伐、再造林に至ったところでございます。

今後もこの事業を一つのモデルとしまして町内の民有林にも普及していくように、町内の有識者、あるいは林業関係者とも調整を行いながら、官学民の連携で適切な森林整備を進めていきたいと考えております。

特に、山は、今、そういったことで40年～70年の伐期を迎えた木があるということで、ある報道によりますと、やはり木が大きくなるということは、山にとっていいのかというところの議論があります。

特に、根を張ってしっかりとした木になっていけばいいんですけども、やっぱり密植して木が育たない場所については崩落の危険性もありますし、また木が大きくなるということは、その木が地中から水分を吸い上げる量も大きくなりまして、蒸散作用が大

きくなって山が崩れやすくなるという指摘もあります。

中央アルプスを見ていただいても至るところが崩れてきている状況です。特に与田切川の源流、現在、あそこは荒れない川だったんですけども、今、支流が非常に荒れてきている。それは、やはり木が大きくなってきて、蒸散作用に伴って山が荒れてきているのではないかということも考えられているところでもあります。

そういった状況から、やはり健全な森林を造っていくために主伐、再生林の事業を取り入れてきたというところがございます。

〔唐澤町長降壇〕

ただいま町長のほうから今年度行いました主伐、再生林の事業について話をいたしまして、私のほうから細部の件につきましてお答えをさせていただきたいと思っております。

御質問のあった今回の事業について、国の誘導をもつての補助だったかどうかというところですけど、今回の事業につきまして、主伐の部分について補助金はありませんでしたが、再生林、ここの部分については補助金がございます、これを活用していく予定であります。

それで、この補助金についての縛りというものは、特別なものはありませんけれど、長野県の主伐・再生林推進ガイドラインに基づいて施業を行っていく必要はございます。

続いて未利用材の御質問でありますけれど、主伐した後、先ほどお話のあった枝とか、そういったものが、使われない木とかがありますけれど、次の再生林に向けて林内をきれいにするということと、その枝等を集めまして地ごしらえのための柵を作っています。標高に合わせて横に柵を設けていくんですけど、これは林地の崩壊とか雪崩を防ぐ役割もございます。そういったところに今回は使っております。ただ、それ以外の活用ができないかどうかは、引き続き研究はしていきたいというふうに思っております。

あと、収益的事業という御質問もありましたけれど、今回、町の町有林のヒノキについては非常に高い評価を受けております。今回の事業地で伐採されたヒノキについては、市場にて高値で取引がされております。今回の事業では適切な森林整備を主な目的としたもので、町への収入増を目指したものではありませんが、木材の販売実績から事業費を差し引いても100万円ほどの収益が見込まれる予想でございます。今後も収益性の高い適地においては継続した事業の実施を考えてまいりたいと思っております。

続いて、長期的な収支という御質問でありましたけれど、長期的な展望としましては、令和6年度から次回主伐時期予定と考えられる令和50年頃までの事業費について、国や県の補助金も考慮しながら試算はいたしております。

続いて、長期的な中での担い手、組織の関係での御質問もいただきましたが、今回の事業では、町の収益となる側面もありますが、林業では長期的なサイクルが必要であるため、継続した収益を期待することは難しい面もあるかなというふうに思っております。

町有林の整備や経営につきましては、実施主体、今現在は町であるというふうに考えておりますけれど、担い手となるような組織の移行について、今後、町内全体の有識者、林業関係者とも連携を取りながら、官学民連携、そういったことも研究してまいりたいというふうに思っております。

浜田議員 今の話で長期的な試算をなさっているということだったんですけども、それは赤字だったんですか、黒字だったんですか、黒字の場合はどのくらいだったのか、そのあたりをお願いします。

産業振興課長 将来、先までの一旦試算はしましたが、今現在のところはおおむねとんとんくらいでございます。

これ、やはり将来的な経費、物価高騰とか、そういったところの見積りっていうのは難しい面と、また50年後の材が幾らで売れるかっていう点については非常に難しいなど、ただ、今、現況の中での試算は一旦行ってはおります。

浜田議員 大体分かりました。林業でもうかるならみんなやっていると思いますんで。

それで、しかも2ヘクタールで100万円ですか、補助金があって、ということはあまり、単独で見たらそれで事業になるという話ではないという理解でよろしいんですかね。1-2に移ります。

今回の計画に対して、ある方から別の考え方を聞きする機会がありました。これは、もう私は会長を退いたんですけど、自然エネルギー協議会で一昨年かな、その先生をお呼びして総会の際に講演会を行って、それで、そのときの資料に基づいて、全部はとっても無理ですけど、1時間近い講演会だったんで。それで、必ずしも、農水省というか、林野庁の考えているストーリーが本当なのかという疑問を呈されているお話です。

それで、その方は林野庁の研究部門にもいらっしゃいましたし、それから現地も十分に御存知の方です。御了解を得ていますので、ちょっとそのあたりをお話したいと思います。

じゃ次、1-2です。

国、要するに農水省や林野庁が主導する林業政策に疑問を呈する方と。

樹齢50年前後での主伐ではなくて、もっと長期の択伐、育林のほうが経営面でも環境貢献でも優れているというお考えをお持ちの方です。

大住克博さんということで、七久保で、我が家から1分ほど歩けば、そこにお住いの方ですけども、御専門は森林生態学、それから森林施業論、それから森林環境史。

それで、京都大学の農学博士でいらっしゃいまして、鳥取大学にお勤めになって、名誉教授として今は飯島にお住まいしながらいろんなところを飛び歩いて講演や何やらなさっているようです。

林野庁の調査機関にも長く在籍したということで、現場のことは大変よく御存じということ。

それで、その方のちょっとスライドの一部を御覧に入れたいと思うんですけども、これはNHK for Schoolという、学校のためのNHKということで、「荒れる森」という中身の、これが言ってみれば日本では最も標準的な考え方かなと。

それで、私自身も、これ、全く、ずっと真に受けて、自然エネルギー協議会の中でも受け売りでぶちまかっていた考え方そのものですし、今一番標準的な考え方だと思えます。

それで、日本では荒れた森が問題になっていると。どうしてなのかというと、第二次

世界大戦後に燃料や材木にするために各地で大量の木が伐採されたと。

それで、木を切った後には成長が早く加工しやすい杉やヒノキが植えられて、日本が豊かになるにつれて材木が大量に必要となったと。

それで、国内産だけでは足りないんで輸入材を入れるようになったんだけど、その価格に追われて材木の値段が下がったと。

それで、利益が出なくなってしまって、それに林業に関わる人口も減って、日本の山が荒れてしまったと。

それで、それが、先ほど町長もおっしゃったように、荒れた森は土が流出して水をためる力が落ちるので災害が発生しやすくなって、森の荒廃を止めないと日本の林業が駄目になるんで応援して整備する必要がある、森を守らなければいけないと、こういう主張が標準的な主張だというんですね。

それで、その実例というので、このNHK for Schoolの中には、根がむき出しになった木ですとか、それから、下の写真は土壌が流出して災害が起こっている現場の写真と、こういうことになっています。

だから木の適切な手入れが必要なんだということなんですけど、一言でまとめて、今の林業界の一般的な認識というのは、今、森林が荒れていると。それで、林業が衰退して森が手入れされなくなっていると。さっきお話しした内容ですね。

それで、老齢林ばかりになるのはよくないから人工林の若返りを進めて林業を活性化させること。それで、若返りで人工林を健全化してSDGsに貢献できる。これが標準的な見解だということです。

それで、この一つ一つを検証してみようじゃないかというのがこの先生の続きです。

森林が荒れているかということで、これは、実は比叡山の延暦寺の、これは大正時代に、ロープウエーじゃなくて、ケーブルカーですね、空中をロープウエーが飛んでいくのではなくて、電車をケーブルで引っ張り上げる。日本では、これ、多分何かの記念的な史跡になっていると思うんですけども、大正に造られたんですけどね。

それで、当時の写真を見ると、ケーブルカーの線路がむき出しになっているわけです。ところが、現在の写真はその線路が見えないぐらい山が木に覆われているということで、実は、昔は日本の山はそんなに木がなかったんだという一つの事例です。ほかにもたくさんあったんですけども、分かりやすいのだけ挙げました。

それで、これは私が集めた安藤広重、本当は何と言うんだったかな、ま、とにかく広重の東海道五十三次の絵ですけども、御覧のように富士山の麓は稜線に沿って木があるだけで、ほかのところは多分草地なんですよね。

同じような絵が、これは五十三次の49番目ですから名古屋あたりになるのかな。ここも、やはりまばらな木が生えているだけで、あとは草むらです。これが日本の山の現実だったんだというふうに私も思っています。

つまり、昔の山というのは、むしろ低灌木と草だったんですよね。ですから、おじいさんは山に芝刈りに行くということで、子どもたちは、朝早く、暗いうちから山に登って行って、芝を刈って引きずり下ろしてきて田んぼに投げ込んで、それが水田の肥料に

なっていたと、こういう一部だったということのようです。

それで、森林は荒れているのかということなんですけれども、そうではなくて、人工林の木は育っていて、御覧のように、天然林はそのまま残っているんですけれども、人工林は非常に急速に育っていると。

これが懐かしい姿と思われる方もいるでしょうけども、本当に草山だったところに滑らないように足場を築いて、飯島町でも多分なされたんでしょうね。一生懸命植林をやっていたというのが昔の時代だった。だからもともと木がそんなにあったわけではない。

それで、あと、林業で森が手入れされなくなっているということで、これは大根の間引きの話を書いているんですけども、種をまいて、たくさん葉っぱが出てきたら強いものだけを残して、最後に一本仕立てにするというのが、農業でもこんなもんだと。

ならば、今の林業はいいのかということが1つなんですよね。

私も感心していたんですけども、列状間伐、これが非常に効率いいってことでやっているんですけども、これは全然、今の大根の間引きとは逆で、強い木を残しているわけでも何でもなくて、間が空いて、それで間伐の実績ができただけという、効率はいいけれども本当の意味での育林にはなっていない典型例で、これは飯島にも少なからずあると思います。当時ほうまいやり方だと思っていたんですけども、確かに農業から見ると違うんじゃないかと。

それで、先ほど言ったものの検証ということで、荒れていると言うけれども、必ずしもそうではないんじゃないかということです。

ちょっと途中、たくさん項目があるんですけども、これは、今は1の話をしただけで、実際に荒れているのではなくて蓄積が進んでいるんだという話が1つで、中間を飛ばして最後のSDGsに貢献するという話なんですけども、ちょっと御覧になりにくいグラフかもしれないけれども、左のほうが若い木、右のほうに行くと老齢林。

それで、これが環境に対してどういうふうに影響しているかっていうと、若い木というのは落葉も少ないですから水源の涵養能力も少ないと、それと、当然、生物の多様性から見てもマイナスだと。

それで、細いもんですから炭素の蓄積量も少ないと。

これが十分に行われてない段階で、つまり30年とか50年の伐期で木を切ってしまうと、至るところがこういう状態になってしまっていて、トータルとして累積されたときには森林のもっと健全な機能っていうのは奪われるんじゃないかというのがこの先生のお話です。

それで、もう一回、冒頭に実は掲げた写真なんですけども、NHKともあろうものがこんな写真を掲げていいのかというお話だったんですけども、これはどこだったかな、北八ヶ岳の風景で、先生もよく御存じで、これが荒れた森の典型かという話をなさったんですが。

というのは、真ん中あたりに白いところがあります。これは枯れた木が倒れているところですよ。

これは、実はこれ、森が荒れているっていうんですけども、そもそもここは有名な天

然林であって、話題としている人工林の話の場面じゃないでしょうというのが1点。

それから、天然林に関しては、こういうふうに一部分が倒木で倒れていくのはごく自然な再生の姿であって、これを災害の見本というのは全く筋違いだということを先生はコメントしていました。

それから、もう一つ、先ほど御覧に入れた根がむき出しになっているのは、多分、丹沢山塊だろうと。ここは鹿がすごくて下の草を食べてしまうもんですから、水に流されて根がむき出しになってしまったということで、それは確かに手が入ってないということかもしれないけれども、それが本当の原因じゃないのに、これを手が入っていない荒れた森だというのはちょっと見当違いじゃないかと。

それから、下の写真も、土砂崩れを起こしているように見えるんですけども、そもそも、ここも人工林ではなくて天然林。しかも土砂崩れは表層崩壊じゃなくて深層崩壊だと。つまり木の根が張っていようと張ってなかりと崩れ落ちてしまうという。この場面を取って荒れた森が守れないというのは、そもそもデータとして不適切だと。これはNHKの単なる間違いなんでしょうけども。

それで、先生がここで言っているのは、これは単に荒れた森というイメージの消費をしているだけで、客観的で論理的な議論がもっと必要なんではないかということがお話でした。

それで、今、農水省は法律を変えたんですね。

1964年に林業基本法というのがつくられました。それで、この基本としているところは、林業の不利益なところを国の補助金かなにかで補正して、それで林業の発展と所得の向上を目指す。つまり、あくまでも林業でもって食っていけるようにしようというのが林業基本法でした。

それで、これが2001年にかなり大きく改正されて、森林林業基本法、つまり森林という概念が入ってきたんですね。それで、これは一体何かというと、森林の多面的な機能を評価して、それで持続可能で健全な発展を促そうじゃないかと。

これ、農業でも同じことがあって、農業だけじゃ食っていけないもんですから、農業の多面的な機能、つまり、水を蓄えるだとか、あるいは生物にとって優良だとかということで、必ずしも利益一辺倒じゃない国の方針というのを国が打ち出したという変化がありました。

それで、その結果、林業が目指すべき方向は2つに分かれるだろうと。つまり、最初は補助金に頼りつつ、将来は収益性を向上させて木材生産業としての自立を目指す道か、つまり経済的に自立するか、あるいは、環境サービスということも含めて社会から認知させるような環境サービスという、財も出すけれども環境サービスをするんだという経済性一本化という2種類の方向があるんじゃないかと。それで、これからの林業はどちらを目指すべきかという提案でこの議論は終わっています。

ということで、ここまでは説明なんですけれども、普通に、標準的に考えられているのはちょっと独特の突っ込みが入っているかなというふうに私は思いました。

ですので、先ほど町長も研究期間が必要だというふうにおっしゃったんですけども、

やはり、こういう意見もある以上、町内に林業に関係している方もいらっしゃると思います。それからこういう先生もいらっしゃいます。いろんな意見があると思うんですけども、50年～70年という1つの固定したパターンじゃなくて、飯島町は飯島町として独自の、やっぱり現実に合った林業の形を十分に練り上げる研究組織が必要ではないかというふうに——研究調査組織ですね、こういうふうに私は思うんですけども、町長の見解をお尋ねいたします。

町長 今御紹介いただきました大住先生の御案内ですけど、荒れている荒れていないというのは、やはり人の手が入っているかどうかということだと思っんですけどね。

自然林でずっと残していくか、あるいは人工林としてきちんと残していくか、その辺で、やはり人の手が入っていないというのが現状で荒れているのではないかと自分は思っています。

昔は入会地で草を刈ってきて田んぼに入れたり家畜にやったりしていました。

それで、飯島町でも、大正の中期、小林音吉という村長さんが——飯島地区ですけど、七久保ではなくて飯島の村長さんですけども——その方が入会地を142ヘクタールくらい集めて、そこに植樹をして、その今残っているのが町民の森なんです。

だから、やはりそういった手を入れていくってことで山を守ってきたんですけども、昭和以降、木材の需要がなくなってきた段階で、もう山に手が入れなくなったということで、荒れているという表現を使っているのではないかなと思っています。

町でも、今言いました町民の森、ここはすばらしい材がございまして、飯島でも特出すべき材になっています。もう100年近い材になっていますので、できれば有名な神社の千年祭くらいに使えればというようなことで、やはりそういった優秀な材、飯島町の特にヒノキは市場でも評価が高くて、先日も初市に行ってまいりましたけれども、そこでも高値で売れました。

そういったことで、やっぱり飯島町の材をもう少し世の中に広めていく、そういう仕組みも含めながら、飯島町の林業、森林経営、どうしていくのかってところは、先ほど申されたような、やはり研究をしていく必要があると思いますので、いろいろな方の知恵をお借りしながらやっていく必要があるのかなと思います。

特に、主伐、再造林に向けて、先日、講演会も行いましたけれども、和歌山県から株式会社中川というところで、育樹だけしているところなんですけれども、それは国の補助金をもらいながら育樹をする会社なんですけど、全国で5,000ヘクタール近い山林を購入しながら、今、育樹をしているということで、やはり、そういった民間の力を借りたり、あるいは、個人で林業経営するのではなくて、そういった民間の会社組織等々を活用しながら、これから山をどう守っていくかっていうことも考えていかなければならないと思いますので、そういうことも含めながら研究を——組織としてこれからつくっていくかどうかってというのは、ちょっとまだこれから先になると思いますけれども、研究は進めていかなければならないと考えます。

浜田議員 あともう一つ、スライドの中では触れなかったんですけど、町長のお考えはある程度分かりました。

ただ、この議論は、やはりきちんとしておく必要があるのではないかと私は思うんですね、いわゆる標準的な今の50年—70年の伐期というものを前提にした考え方でいいのかということも含めて。

それで、先生が指摘しているのは、そもそも日本は林業を1サイクル回した経験がない、つまり植樹から伐採に至るまでのノウハウを十分に蓄積した経験がないのではないということも指摘しておられました。

それから、もう一つは、ドイツの事例を挙げていまして、ドイツでは幹の直径が80センチぐらいまで育てるんだそうですね。それで、林道も使い捨てではなくて再三使うようにしていて、それで、あそこはもともと、何ていうんですか、事務官みたいな方がすごい強大な権限を持っていて、飯島ぐらいの面積を1人で管理しているんですね。そういう事務官たちも絶えず研修を行って腕を上げているというか、知識を豊富にしていると、ですから、森林だけではなくて、そこに生息する動植物、あるいは土壌に至るまで、極めて豊富な知識を持っているというお話は聞きました。

ですので、山に手を入れる以上、やはり100年200年の計画が必要なので、私としては、やっぱり十分な研究・調査体制を可能な限りの人材を集めてやりながら町の森林の整備を進めていただきたいというふうに希望するものです。

ですので、まだ、今この段階で具体的な組織を立ち上げるかどうかというのは、もちろん町長のお考え次第ですけれども、私としては、せつかくこれだけ山に恵まれている地域では、それにふさわしい研究調査組織があるべきだということで、強く立ち上げを求めたいと思います。

ドイツも、まだ1サイクル回ってないということですね。特にドイツの場合、注目すべきは、非常に大口径の木まで加工できるような機械を最初に準備しておいて、それで、択伐と言いますか、もう目指す木、さっきの大根と同じように、目指す木の周りの弱い木を系統的に切りながら林業進めているということでした。収支的に合っているかどうかは、ちょっと私は確認できていませんけれども。

ということで、1—2については、非常に長い期間にわたる林業政策ですので、むしろ飯島町がパイオニアになって、1つの事例を残していくのがいいのではないかと。

それと、もう一つは、この先生によれば、飯島の特にあまり急傾斜じゃないところ、この間、主伐、再造林したような面積のところはかなりあります。それから、区有林とか耕地林もかなりお荷物になっているんですね。

ですので、本当であれば、私は、例えば数百ヘクタールぐらいを全体の実験林ついていますか、町の所有にするか、あるいは民間の企業の所有にするかにして、大規模な森林計画を実行してもいいのではないかとこのぐらいに思っていますので、そういう大きな計画をむしろ検討していただきたいと、ここには書いてありませんけれども、そういう趣旨を提案させていただきたいと思います。

それでは1—3に移ります。

それで、林業で食っていくのは結構大変だっというのはいろんな統計から明らかになっていて、とりわけ将来の見通しがあまりはっきりしないと、木材価格や輸入やなに

かの動向が、そういうことは当然あると思うんですけども、それを安定化させる1つの策として木質バイオマス発電と組み合わせるといのは、実は先生の視野の中にもなかったんですけどね、私はそれもありかなというふうに考えています。

それで、実は、私も自然エネルギーの町の支援で会社経営をやっている、今ところ黒字なんですけれども、たかだか年間売上げ1,000万円ぐらいですね。1割ぐらいは町にいろんな形で貢献してまして、一応黒字なんですけども。

それをやってみて分かったのが、実は小水力と太陽光というのは大きな問題がある気がついたんです。何かというと、雇用を生まないんですよ、水も太陽光も勝手に降ってくるだけで。それではいけないのではないかというのが1つ。

それから、もう一つは、町のエネルギーですね、これが大体年間で20億円ぐらいが町外に流出しています。要するに、町の中にほとんどエネルギーを生む仕組みがないですから、結局、電気ですとか、プロパンですとか、ガソリンですとか、みんな町の外にお金が出ていっているわけです。これは最近の統計でも20億円というのが2022年度だったかな、総務省の統計に出ていました、市町村ごとに全部内訳が分かるようになって。

それで、この間、それでも野立ても含めて太陽光発電が進んだもんですから、町内の自給率っていうのはたしか91%だったんですよ。つまり、あとの9%は、一応町の中で、太陽光で発電しているということなんですけども。

それで、一方、環境庁の調査、ちょっと古いんですけども、調査によると、飯島町には20億円を超える、その約1.2倍、だから24億円ぐらいの自然エネルギーが賦存しているだろうというふうに言われています。

ですので、全く理想的にこれをくみ尽くせば、飯島町というのはエネルギーで自立できる町になるんじゃないかというふうに考えています。話半分としても10億円ぐらいは何とかなるんじゃないかというのが私の直感なんですけどね。

ですので、その1つの中にバイオマスも加えるというふうに——さっきの林業を研究しながら、かなり大規模に経営して、そこから出てくるC材、あるいはタンコロみたいなやつをバイオマス発電に使っていくと、これは実現可能なんじゃないかというふうに私は思っています。

以前、三井物産がやろうとしたのは2,000キロワットでしたですよ。

ただし、今、小型の発電機が随分出てきて、50キロワットの発電機がスウェーデンですとかドイツから売られています。それで、スウェーデンのやつは、設備抜きで、本体価格で大体6,000万円でしたから、水力発電と違って危険なところに建てる必要もないし、騒音が若干問題なだけで、ざっと暗算してみると、50キロワットで24時間回りっぱなしなので、かなりの発電量を確保できると。

それで、試算してみたらB&Gのプールを4日ぐらいで温水ができるんですよ。

バイオマス発電っていうのは大体4割が電気になります。それで6割が熱になります、ディーゼルエンジン回すので。それで、電気は電気で売って、これは水力発電よりも高いですから、水力発電がキロワット34円なのに、バイオマスは40円です。

ただし、その6円の値差でペレットが入るかっていったら買えないんで、その分、熱をお金に換えることで収支を得るという構造になると思いますけれども。

それで試算してみると、多分4日間ぐらいでB&Gのプールは温水ができて、それで一日中使えると。多分4日間ごとに少しずつ入れ替えれば、1日分ぐらいずつ入れ替えれば温度は保てるんじゃないかなというふうに、ちょっと荒っぽい計算をして、まだ試算はきちんとやっていませんけれども、そんなふうに考えました。

それで、そうなると、何がしかの利用料を頂けば町の水道の収益も改善しますし、全体が一つのシステムとして機能するんじゃないかと。

もちろん、下のホテルですとか、あるいはその近くの福祉施設なんかの給湯も、また別途50キロワットぐらいでやれるんじゃないかと。

50キロワットっていうのは、実は低圧連携の上限なんですよね。ですので、高圧線がないところでもやれると。

それから、多分木材の量も、荒っぽい計算ですけども、多分日量2トンくらいでしたかね、毎日2トン運ばなくてもいいんですけれども。それで、予熱で乾燥してペレットにして回すということは実現可能じゃないかというふうに考えました。

ですので、今日は非常に抽象的なお話ですけども、さっきの森林林業をできれば黒字で回したい。それで、なおかつ、それでもって収益を得たいというメカニズムが飯島では可能ではないかというふうに思うんですけど、今の段階ではそういう抽象的な話なので、直感的な御返事でいいんですけども、町長の今のお話に対するコメントをいただければと思いますが、いかがお考えでしょうか。

町長 やはり林業の再生産ということになりますと、やはり何かしらの外部からの収益がないと駄目だと思います。

農業もそうなんです。農業も、やはり土手草刈りをするとか、そういったことに対しても外部からの収入がないとなかなかできない。ですから、ソーラーシェアリングもその一つの手だったと思います、そこから出たエネルギーの対価によって草刈りの費用出していくとか。

そういったことで、そういったものをエネルギーに換えて、そういった対価を頂きながら林業生産に生かしていくということは非常に重要な視点だと思いますので、今の言われたバイオマス発電がいいのかどうかっていうところはまた違う問題になると思いますけれども、そういった、やはり今の林業体系の中では内部の内的な再生産はできませんので、やはり外部からのそういった収入を得ながら林業に回していくという考え方は必要だと思いますので、先ほど言われました森林整備計画をどういうふうにしていくかっていうところの中に入れてながら考えてまいりたいと思います。

浜田議員 非常に抽象的な説明で申し訳なかったんですけども、1つの構想としてはあり得るといふ御返事というふうに理解してよろしいんでしょうかね。

それで、もう少し私どもも具体的な事業化の案を持って、また御相談をさせていただきたいし、これはあくまで町がバックアップしている事業っていうのは非常に有力で、銀行の貸付けなんかも非常にスムーズに、前回の太陽光発電なんかについても進めるこ

とができたので、もちろん私が関わっている会社が必ずしもやらなきゃいけないというわけではないんですけども、可能な限り町内で自給自足のエネルギー体系をつくると、補助金も拒否しないというスタイルで行きたいと思いますので、また今後、具体化しましたら、またいろいろ町としても考えていただきたいということを求めて、一般質問を終わります。

[浜田議員復席]

議長　ここで昼食のため休憩といたします。再開時刻を午後1時30分といたします。休憩。

休憩　午前11時45分

再開　午後1時30分

議長　会議を再開いたします。

休憩前に引き続き一般質問を行います。

2番　坂井活広議員。

[坂井議員質問席へ移動]

2番

坂井議員

それでは通告に従って一般質問を始めさせていただきます。

今回の私の一般質問は大きく分けて2つです。1つ目が「七久保小学校防災倉庫の雨漏りについて」、2つ目が「小学校の統廃合について」ということになっております。

では、まず初めに「七久保小学校防災倉庫の雨漏りについて」ということについて質問します。

七久保小学校の敷地内には防災倉庫が設置されているんですけども、雨漏りが発生している状態です。これは、ちょっと口で言っても分かりづらいんで、ちょっと百聞は一見にしかずなんで、写真をお見せします。

10枚ぐらいあるんで、写真とともに説明します。

まず、これは、防災倉庫の中に雨漏りによる雨染みができているところですね。

これも同様です。

こちらも同様。

これは雨染が至るところでできています。

それで、この写真なんですけれども、これは、もう雨漏りがして、それで床に水が滴ってしまっている状態になります。

これは棚、棚の上に雨漏りがして、もう棚が、木の棚がぬれてしまっているという状態です。

これは、もう分かりやすいですね。雨漏りがしてコンクリートの床がぬれてしまっているという状態です。

それで、これが一応防災倉庫の全体を撮ったものなんですけど、これと、これです。これが一応全体を撮ったものです。

これが防災倉庫の全体を撮ったもので、それで、これが最後ですね。ここを見たら

うと分かると思うんです。これ、ちょっとぬれているのが分かりますかね。防災倉庫の中にあるものがぬれているんですね。これは何かって言うと、緊急災害用簡易組立てトイレいう上の段ボールがぬれているという状態です。

写真を確認していただいた上で1—1に移ります。初めてこの防災倉庫で雨漏りが発生したのはいつかについて答弁を求めます。

〔片桐教育長登壇〕

教育長 七久保小学校防災倉庫の雨漏りについてであります。

今写真で示していただきましたとおり、この場所は、小学校の校舎の東側の平成18年にパソコン室棟を増築しておりまして、その1階部分を七久保地区の自主防災会の備蓄倉庫として利用していただいているという状況であります。

初めて雨漏りが発生した時期でございますが、関係者へ確認いたしましたけれども、明確な時期についてはちょっと不確定なところがありました。

最初の時点では、雨漏りが発生したということではなく、防災倉庫内備蓄品にカビが発生するという報告を受けたのが令和3年頃になるかと思われまます。

〔片桐教育長降壇〕

坂井議員 明確な時期は不明ということで、カビの発生が分かったのが令和3年ということですので、かなり最近ということだと理解しております。

その上で1—2に移ります。雨漏りしている、雨漏りが発生しているということが分かった後、雨漏りの発生箇所の調査は行われたか、行われた場合、調査結果はどのようなものであったか、答弁を求めます。

教育次長 発生箇所の調査は行われたか、行われた場合、その結果はどうだったか、御質問にお答えいたします。

当時、カビの発生については確認をしましたが、降雨後に点検した際、雨水のしみ出しや雨漏りは確認することができませんでした。

今年度、改めて9月から10月にかけて雨漏り箇所の点検を行ったところでございます。

点検の結果、建物の南面外壁にひび割れや、メッチコーキング——充填材ですが——そういったものにはがれ、それから欠損が見られました。

降雨後の点検では、1階防災倉庫内への雨水のしみ出しや雨漏りが確認されましたが、防災倉庫上の2階パソコン教室では確認がされませんでした。

これらの状況から、1階部分の外壁ひび割れやサッシ周りのコーキング部分が原因という結果となりました。

坂井議員 確認ですけれども、2階のパソコン室では雨漏りがなくて、1階の防災倉庫で雨漏りがあったと、それで、そのことから推測すると1階の外壁、サッシ、コーキング周りから雨水が侵入したのではないかと考えられる、こういう理解でよろしいでしょうか。

教育次長 議員の御質問のとおりでございます。

坂井議員 それでは1—3に移ります。原因ですね、原因がある程度明らかになったというふうには理解しているんですけれども、修理費の見積りというのは取ったんでしょうか、取った場合、その金額というのは幾らだったんでしょうか。

教育次長 見積りにつきましては、現場の確認をしてもらった後に修理費の見積りをいただきました。金額につきましては、工事費、それから設計管理費、合わせて164万円ほどでございます。

坂井議員 これは、164万円支払って工事をすれば、一応雨漏りは防げるという見通しなんでしょうか。

教育次長 今回につきましては、設計士さんに一応見ていただいております。現場の状況から、また見積りの内容を見ますと、南側の壁面の塗装を最終的にはするよう形になっておりますので、これで雨漏りを直せるということで、こちらのほうは考えております。

坂井議員 今の答弁なんですけれども、私としては積極的に評価したいというか、1-4にちょっと続くんですけれども、雨漏りっていうのは発生箇所の特定が実はすごく難しく、かなり、工事するときどの範囲まで工事すればいいかっていうのが分からなくて、だからもう、結局、過大に直すしかないから、結果、修理費も過大になるっていうのが雨漏りでありがちな状況なんですけれども、これは私の主観なんですけれども、164万円であればそんなに高額ではないと思っていて、雨漏りの修理に関しては、

それで、その上で、1-4にも書いてあるんですけれども、防災倉庫内には、この写真にあるとおり、ぬれると使い物にならなくなるもの、特に毛布だとか、これ、食料もたしかあるというふうに聞いているので、そうであれば、防災倉庫という性質上、早急に修理をするべきだと考えるんですけれども、所見を求めます。

教育次長 答えいたします。

議員の御質問のとおり、建物の雨漏りは、発生箇所、それから原因の特定が困難で、場合によっては修理費も課題になる傾向がありますが、今回の防災倉庫につきましては、その性質上、水にぬれることを限りなく避ける必要がございます。

このたび新年度予算へ工事費を計上させていただいておりますので、本会議においてお認めいただいた折には、新年度になり次第、修理に取りかかりたいと考えております。

坂井議員 分かりました。新年度、予算が通れば修理に取りかかるということで、大変評価したいと思いますので、これからまだ調査がありますけれども、予算が通った暁には修理をしてもらえればと思います。理由は、やはり、今言ったとおり、防災倉庫という性質上、修理は早急に必要だと思いますので、ぜひそれをお願いします。

では、続いて2ですね、2の飯島町内の小中学校の統廃合に関することについて質問をいたします。

まず初め、令和7年1月30日付の長野日報において飯島町内の小中学校の統廃合に関する報道がありました。一部読み上げます。

飯島町の唐澤隆町長は29日、児童、生徒数が減少している町内小中学校の在り方について、将来的に見込める子どもの数が一定の基準を下回った時点で再編などの検討に着手する考えを町総合教育会議で明らかにした。(中略)

「取材に唐澤町長、片桐教育長は、ともに中学校で1学年2学級の運営ができなくなる35人以下が、基準の目安になると説明。出生者数で基準を下回った段階で検討に入る方針だが、今年度は1月1日」——これは令和7年ですね、令和7年1月1日「現在で35

人を下回っている。」と、このような報道がなされております。

では、続けて2—1ですね、質問に移ります。中学校で1学年2学級の運営ができなくなる35人以下が統廃合の基準とのことですが、中学校で1学年2学級の運営ができなくなることがなぜ統廃合に結びつくのか、この点に関して答弁を求めます。

御質問の町内小中学校の今後につきましては重要な課題であると認識しております。報道にありますように、この件について私どもは、統廃合の議論のスタートの時期というよりは、飯島町内小中学校のこれからの在り方について議論を始めていく時期と捉えております。その際には、時期的な基準についてお示しし、町民の皆さんの御理解を得ていく必要があると考えております。

まず、その基準についてお話しさせていただく前に、飯島町内小中学校の学校の現状をお話いたします。

当初は、七久保小学校が複式学級対応をしなければならなくなってしまうときを一つの基準と考えておりました。しかしながら、七久保小学校につきましては十数人の児童数維持が続いていく見込みであります。

それに対して、当初は想定しておりませんでしたけれども、飯島小学校が単級——1学級になる状況が4年後から生じてくる状況であります。

また、現時点においては、今年度、飯島町内で生まれたお子さんについては、住民基本台帳によりますけれども、昨日——2月27日現在35名となっており、3月中に1名のお子さんが生まれた場合には、本当にぎりぎりではありますが、この子たちが中学入学時においては辛うじて2学級編成維持の基準36名を満たしていくことができるのではないかと状況になっております。

しかしながら、中学校の2学級編成維持が今後安定して継続される状況ではありません。出生数の推移から、いずれ単級となっていく状況も想定されているところであります。

現状においても、小学校の先生方からは理科専科や英語専科教員等の不在による先生方の負担増、それから中学においては委員会活動や部活動運営の担当職員の配置に苦慮しているという声が聞こえてくる現状であります。そのような状況の中で、町内小中学校全てが単級になってしまうということは、さらなる職員数減につながり、先生方の負担が増し、子どもたちの多様な学びの場を提供することが非常に難しくなってくるのではないかと危惧しております。

そこで、私どもといたしましては、一つの基準としまして、町内3校全てが数年にわたり単級の学校になる見込みとなったとき、つまり中学校が数年にわたり単級になっていく見込みとなったときを町内小中学校再編について具体的検討していく時期であると判断しているところであります。

しかしながら、現状の児童生徒数の推移を考えると、そのときを待たず、町内小中学校の将来像、在り方について、どのような子どもたちに育ててほしいのか、どのような学校での学びを期待しているかなど、保護者を含め、町民の皆さんや子どもたちによる懇談等を通して率直なお考えをお聞きしていく機会が必要であると考えているところで

あります。

坂井議員 35人の基準というのは一定程度理解できたんですけれども、今の答弁でよく分からなかったのが、安定して2学級以上は今後困難になっていくだろうと、それで単級になると教員の負担が増えて子どもたちへ目が行き届かなくなるということが危惧されるっていうことなんですけれども、そうすると、その話し方だと何か教員の負担が増えるからっていうふうに聞こえてしまうんですけど、そういうことなんですかね。

教育長 それだけではありませんけれども、子どもの数、学級数による教員配置数っていうのが決まっております。それで、そういう中で、教員数が減ることで、子どもたちへの、やっぱり間接的なことでありますけれども、子どもたちのいろんな多様な学びというか、そこに対応することが非常に難しくなってくるのではないかなというところがあります。

ですので、間接的には教員が減ってしまうっていうところなんですけれども、行く行くは、要は子どもたちの学びについて弊害が出てくるのではないかというふうに捉えていただければと思います。

坂井議員 分かりました。それで35人を切るっていうのを待たずに今懇談することが必要ではないかという答弁をいただいたんで、それは私も全く同感です。

じゃ2-2に移ります。過去10年間の飯島町における出生数の推移についてお答えください。

健康福祉課長 平成26年度から令和5年度までの出生数でございますが、平成26年度は73人、平成27年度は62人、平成28年度は52人、平成29年度は55人、平成30年度は49人、令和元年度は59人、令和2年度は43人、令和3年度は61人、令和4年度は38人、令和5年度は35人というふうになっております。

坂井議員 2-3に移ります。2-1でも少し話があったんですけども、平成26年は73人で、令和6年ですかね、もうちょっと増えると思いますけど35人ということで、半分くらいにはなってしまうっております。それで、35人という基準を設けずに、すぐにも議論を始めるべきだと考えるがという質問なんですけども、ここに関しては、そのときを待たずに懇談会等を検討していると、そういう理解でよろしいでしょうか。

教育長 十分にいろんな方の御意見を聞く機会を持ちたい、懇談等をしたりアンケートをしたりっていうことで、これからの飯島町の学校についてどうあったらいいのかっていう御意見はいろんな角度からお聞きできればなと思っております。

坂井議員 では2-4に移ります。

現在の児童数の比較からすると飯島小学校よりも七久保小学校が廃校になる可能性が高いんじゃないかと私は思うんですけども、まずその点についての所見を求めます。

教育長 人数的には、先ほどもお示ししましたとおり、七久保小学校のほうが児童数は少ないです。ただ、先ほどもちょっと触れましたけれども、七久保小学校の子ども数って十数人でずっと推移しているっていう状況であります。

ですので、どちらがどっちへということではなく、私どもとしましては、やっぱり中学校も含めた町内の学校を総合的に再編していくっていう観点で考えてければなという

ふうにご考えております。

坂井議員 では2—2の後段に移ります。

どちらかが廃校とか、統廃合になるかっていうことは、まあ今の点ではということな
 んですけども、結局、どちらの学校が廃校となっても、その場合、七久保区の子ども
 たちはバスで飯島区に行くことになるでしょうし、仮に七久保のほうに学校が残るって
 なれば飯島の子どもたちが七久保のところに行くっていうことになると思うんですけど、
 その場合、スクールバスを利用する児童生徒が増加することが見込まれるんですけども、
 その対応について現在何か考えはあるんでしょうか。

教育長 現在の通学、現状でも電車通学の生徒の通学費用の負担が課題になっているところ
 があります。やはり、これ、どのように子どもたちの通学方法を確保していくかっていう
 ことは、再編の検討の際にも十分課題になってくるところかなっていうふうに思ってい
 ます。

当然、学校再編の場合にはスクールバスの増便等の通学方法を検討し、一番は、やっ
 ぱり子どもたちの学校生活に支障がないようにっていうことを考えながら取り組んでい
 かなければならないと考えています。

坂井議員 すみません。今、電車通学の費用負担が課題という答えがあったんで、ちょっとその
 点についてお聞きしたいんですけども、今って、補助とかってしていないんですたっけ。

教育長 全てのお子さんではなく、一部地域のお子さんに補助をしているという状況でありま
 す。

議長 どこで？

教育長 高遠原地区。

坂井議員 そうすると、今、高遠原っていうふうなお答えがありましたけども、それ以外の地域
 についても、今後、統廃合とかっていうことになれば補助っていうのも考えていくと、
 こういう理解でよろしいでしょうか。

教育長 補助もそうですし、先ほども触れられましたスクールバスをどのようにしていくか、
 増便していくのかってあたりの検討は必要になってくると思われま。

坂井議員 それでは2—5に移ります。

今、スクールバスと電車の話がありましたけれども、もちろん保護者による送迎とい
 うのも想定されます。統廃合が行われた場合、送迎を要する保護者が増加すると、これ
 は当然そうなるんですけども、それが見込まれるんですけども、保護者の負担増に関
 して何か所見は今ありますでしょうか。

教育長 保護者が子どもたちの送迎に当たってさらなる負担にならないためにどういう方法
 を取っていくかということは検討していかなければならないことですし、学校再編に当
 たって、そこで保護者に負担をかけるような状態であってはいけないと思いますし、そ
 れから、それぞれの、やっぱり家庭の事情がありますので、やはりそこは責任を持って、
 子どもたちの送迎、登下校については私たちが責任を持たなければならぬのではない
 かと思っております。

坂井議員 負担増にならないようにしたいということなんですけども、その方針自体は分かった

んですけども、今の時点で何かこういった策を考えているとか、そういったことはあるんでしょうか。

教育長 現状ではどのような形になっていくかっていうことが不明確ですので、今のところ、こういう場合の想定はありますけれども、具体的にはっきりとこういう方法を取っていくってということについては、まだ検討の途中であります。

坂井議員 では2—6に移ります。先ほどは取っていないっていうふうな答えだったと思うんですけど、統廃合について保護者アンケートは取っているんでしょうか。それで、取っていない場合はその理由についてお答えください。

教育長 先ほどもお話ししたように、アンケートについては実施していない状況であります。すぐに学校再編に向けてっていう状態が想定というか、されていませんでしたので、今のところ取っていなかったっていう状況で、特別な理由は、すみません、ありません。

坂井議員 先ほどは35人という基準にこだわらずに、できるだけ懇談の機会等を早めに持ってきたっていうことだったんで、そうすると、当然、保護者アンケートだったり意向調査っていうのも今後は必要になってくると思うんですけど、その点はいかがでしょう。

教育長 保護者、それから、この場合には、もっと先のっていうか、将来のことも想定されますので、保護者、それから現状の子どもはもちろんですけども、本当に町民全体の課題としてアンケートを取っていく必要があるっていうふうに思っております。

坂井議員 では続いて2—7に移ります。

これから検討していくということだと思うんですけども、既存の七久保小学校とか飯島小学校とか飯島中学校がある場所じゃなくて、新たに別の場所に小中学校を建設したりとか、もしくは小中学校以外の既存の施設を学校に転用するとか、そういった可能性っていうのはあるんでしょうか。

教育長 現在、町では、町民にとってのよりどころとなるような居場所の充実をという願いの下、町内の様々な施設の改善を図っているところであります。

今後につきましては、総合的なまちづくりの中で町全体の施設の在り方についても考慮しながら検討していく事柄だと思っております。

それで、その一つの選択肢として今お話になりました既存の施設の再利用についても考えていかなければならないのではないかと思っております。

坂井議員 じゃ、そうすると、今ある小中学校の場所だけではなく、選択肢としては既存の小中学校以外の施設の転用もあり得るという理解でよろしいですか。

教育長 幾つかの選択肢のうちの一つではあると思います。

坂井議員 ちょっと資料を示します。

これは、文部科学省のよく分かるよう御説明という、そういったページがあったんで、そこから取ってきたんですけども、1番は——ちょっとこの先の議論で聞いている人も分かりやすいように、ちょっと説明します。

まず、就学校の指定というのは、市町村の教育委員会は、市町村内に小学校が2校以上ある場合、就学予定者が就学すべき小学校を指定するということですね。なので、飯島の場合は小学校が2つあるので、入学予定者に対して教育委員会が誰々君は飯島小学

校、誰々君は七久保小学校と指定するという事になっています。

次、2です。通学区域ですね。これは小学校の指定をする際の判断基準として市町村教育委員会があらかじめ設定した区域をいうということで、飯島町でいうと七久保の子は七久保小学校という、そういった判断が恐らくされていると思うんですけども、これは「通学区域」の一番下に書いてあるとおり「各市町村教育委員会の判断に基づいて設置されている。」ということなので、今、七久保小学校の子が七久保小学校に通っているのは教育委員会がそういった判断をしているからということです。

それで、次、学校選択制になります。学校選択制というのは、

市町村教育委員会は、就学校を指定する場合に、就学すべき学校について、あらかじめ保護者の意見を聴取することができる。(中略)この保護者の意見を踏まえて、市町村教育委員会が就学校を指定する場合を学校選択制という。

ということで、飯島の場合は飯島小学校と七久保小学校があるんですけども、保護者の意見を聞いた上で、飯島町に生まれた子はどっちに行ってもいいよという、そういった制度を取ることが学校選択制といいます。

もっと広い意味でいうと、市町村外の学校に行ってもいいと、町外の学校に行ってもいいというのが学校選択制の定義として用いられることもあるんですけども、一応、同じ市町村内で自由で選べるというのが学校選択制になっております。

それで、最後、4つ目が就学校の変更及び区域外就学ということで、就学校の変更というのは、例えば七久保小学校に行っていた子が飯島小学校に変わる事、これが就学校の変更です。同一の市町村内で学校を変えることが就学校の変更となっております。学校選択制が取られていれば基本的に自由なので、あまりこういったことは問題とならないんですけど、指定された学校から変更する場合は就学校の変更といいます。

それで、次に、最後、区域外就学っていうんですけども、区域外就学っていうのは「一定の手続を経て、関係市町村教育委員会間の協議が整えば、他の市町村等の学校にも就学することができる。」ということで、これは、飯島町と駒ヶ根市があつて、飯島町の子どもが駒ヶ根市に通うときに、飯島の教育委員会と駒ヶ根の教育委員会、両方がオーケーを出せば飯島町内にいながら駒ヶ根市に通えるというのが区域外就学ということになっております。

なので、就学校の指定、通学区域、学校選択制、就学校の変更及び区域外就学ということが大きく学校の制度としてあります。

それで、質問に戻ります。2—8です。

結論から言うと、私自身は、いかなる事情があつても、もう絶対に統廃合するべきじゃないという立場ではないです。

まず、ちょっとそこをお示した上で、その後、ただ、統廃合の議論をスタートするに当たって、なぜこのような状況になったのかについて当事者全員の共通認識は持つておくことが必須であると考えます。

何となく子どもが減っているから統廃合しましょうっていうことだと、多分、そのうち統廃合後の学校も廃校になってしまうので、当事者の共通認識っていうのを持つてお

教育長

くべきだと考えるんですけども、この点に関する所見を求めます。

今、坂井議員のほうから学校選択制の話もありましたので、ちょっとお話をしたいと思っています。

現在、飯島町内は、先ほどお話しされたように、七久保区の皆さんは七久保小学校へ、飯島、本郷、田切の皆さんは飯島小学校へという指定をしておるところです。

ただ、子どもの事情とか家庭の事情においては、例えば、飯島小学校に本来は行く、指定されているのは飯島小学校だけれども七久保小学校へ行くっていう場合には、申請を出していただいて、その御家庭、お子さんの事情等を教育委員会のほうで協議して、認めるかどうかということの審査をしているという、そういう判断の下にしているっていうことになります。

これ、学校再編について皆さんの話をお聞きしていく中で、もしかすると、学校選択制、取りあえずは町内に限ってになると思うんですけども、学校を選択できないかというふうなお話も想定できるかなというふうなことも思っております。そういう御意見が出る可能性もあるなというふうには思っています。その辺も学校再編の中の一つの検討するものになるのかなというふうには思っています。

それから、すみません、その後の御質問ですけども、統廃合、それから学校再編については、前任の教育長より、いずれ検討の時期がと引き継がれてきているところでありました。

出生数の減少につきましては、正直、ここ数年はコロナ禍によるものでもあるのではないかとことを思っておりますけれども、現在の出生数等を見ると、コロナ禍だけの原因ではなくて、私たちの本当に想定上に進んでいる、子どもの減少、児童数の減少が進んでいるというふうなところを再認識したところであります。

今後につきましては、先ほどもお話ししましたけれども、町内小中学校再編に向けて取り組んでいかなければならない時期に来ているという町民の皆さんの共通認識に立って、まずは、今後の在り方、それから学校の将来像等、様々なお立場の方や町民の皆さんの思いやお考えをお聞きすることを行い、次の段階として町内小中学校の再編について、ここでは具体的な検討段階に入っていきたいと考えております。

その際に、やはり学校は単に子どもたちが学ぶ場ではなくて、その歴史の中で地域の皆さんのよりどころになってきた場所だと私は思っております。そして、これからは学校はそんな場所ではなければならないと思っております。

統合とか廃校とかの形だけが先走ることなく、飯島町の子どもたちがどう育ってほしいのかとか、飯島町の子どもたちが自らの存在価値を認め伸び伸びと豊かに育っていくためにはどうあったらいいのかを町民の皆さんで考え、大事にしながら町内小中学校の再編に向けて取り組んでいくことができたらと思っております。

坂井議員

学校は地域のよりどころであると、それで、町民の意見を聞いて飯島の子どもたちにどう育ってほしいのかということを考える必要があるということにして、その点については、私もおおむね同意をいたします。

それで、あと、コロナ禍のみが原因ではないっていうのは本当にそのとおりだと思います。

ます。コロナ禍だから減っているから、きっとこの後増えるっていうのは、私は 100% ないと思っているので、それは、もうはっきり、それは確信を持っております、この推移からいくと。

それで、ちょっと別の資料を示します。

今、教育長が答弁されたとおり、学校をどうしていくのかっていう問題に結局関わってくるんですけども、これは文部科学省が平成 29 年に出した通達なんですけれども、「地方移住等に伴う区域外就学制度の活用について」ということで、区域外就学っていうのは市町村の枠を超えて就学するっていうことなんですけれども、これ、ちょっと長いんで、最後ら辺のほうだけ読みますけれども、要するに、相当と認めるときは区域外就学ができますよっていう規則がありまして、その規則の相当と認めるときっていうのを幅広く考えて、一時的な移住や二地域に居住するといった理由から児童生徒を住所がある市町村外の学校で就学させようとする場合も適用できますよというふうな、そういったことを認めた通達になっているんです。

それで、ちょっとここで恐縮ながらスケールが大きい話をさせてもらうんですけど、投資家のジム・ロジャーズっていう人がいまして、それで、その人が日本国に対してつい最近こういうことを言っています、日本国は自国民の出生数を増やさず、かつ移民にも反対となったら、いずれ消滅するというふうに言っているんですよ、これはちょっとスケールの大きい話ではあるんですけども。

もう、本当にさっきの話につながってくるんですけど、飯島の子たちだけを増やしていくのか、それとも外からも呼び込んでいくのか。

例えば、長野県だと思えるんですけども、北相木小学校というのがありまして、それで、ここが平成 21 年の時点で全校児童が 27 人になったと、それで、もう廃校もうわさされていたんですけども、その後、村長だと思えるんですけども、村長か教育長が音頭を取って埼玉県に本部を置く塾生 2 万人の民間学習塾花まる学習会との提携を開始したということで、それで、ここの子どもたちが山村留学に来るようになって、平成 27 年度で 60 名と、ここまで児童数が回復したということがあります。

それで、この村長の言葉で、「私は北相木という村を残したい。それには小学校が必要であるし、そのためには山村留学事業が重要である。小学校がなくなれば、隣町との合併で、村は無くなる。(中略)しかし、村を残すには今のやり方しかない。」ということをおっしゃっています。

山村留学をやっているところはありますけれども、要するに都会の子を呼んでくるっていう選択肢をここは取りまして、それで 27 人から 60 人まで回復したっていうことが載っているんです。

都会の子を呼んで、それで生徒数をちゃんと維持して、それで学校の維持を図るのか、それとも、飯島町生まれの子どもたちが増えるっていうことは正直言ってもうほぼ私はあり得ないと思っているので、もう統廃合やむなしっていうことを前提に飯島で生まれた子どもたちをどういうふうに教育していくのかということを考える時期に来ているんじゃないかと思うんですけども、その点について何か所見はありますでしょうか。

教育長

皆さん御存じのように、伊那市の移住者が多いうという要因の一つに魅力ある学校を求めて移住してくる方がいると聞いております。そういうためには、1つは、今、坂井議員さんがおっしゃる統廃合検討の前提として、やはり私たちとしては、飯島町の学校を魅力ある学校にしていくということをまずはしていかなければいけないというふうに思っている、そこがまず一番の前提になることだということに思っています。

それで、山村留学等については、今、北相木の例もありましたし、県内にも結構、東海地方とか、そういうところから入っているところもあります。その辺については、今後、やはり、そのニーズを見ながら、もちろん魅力ある学校にする前提ですけれども、そこの兼ね合わせの中でなかなか難しいということになれば、その辺も、やっぱり再編していく中で一つの検討していかなければならないところかなというふうに思っています。

ただし、私の聞いている範囲で、山村留学について、数は増えているけれども、中身の課題を持つところはあるということも、非常に難しいんだということもお聞きしていることもありますので、そこら辺も含めて学校再編等の中の一つとして検討していく必要はあるかなということには考えています。

坂井議員

今、教育長が言った、山村留学は留学で、やっぱり課題があると、数だけ増えればいいという問題じゃないということ、それは本当に私も同感で、結局、子どもを出発点に考えなきゃいけないんで、その学校に通うことによって子どもにどう幸福とか、いい効果があるのかっていうのを考えなきゃいけないんで、数だけ増やせば、学校を維持するために数だけ増やすっていうのは、それが適切かどうかっていうのはちゃんと検討しないといけないなとは思っています。

それで、その上でなんですけれども、とはいえ、このまま生徒が、子どもが増えるということとはほぼないと私は思っているんで、そうすると、もう、いずれ統廃合は絶対避けられないと思うんですよ。

なので、早めに、どちらにかじを切るのか、要するに、都会の子とかを呼んできて、そういった山村留学とかをやっていくのか、それとも、もう飯島生まれの子どもたちにとっていい教育を提供すると、でも、子どもはもう減っていくから、いずれ統廃合していくと、そういうふうに考えていくのかっていうのを決めないといけないと思うんですけども、現時点でっていうのは難しいかもしれないですけども、何かその点に関して所見とか、こうしたいという思っているのはあるんでしょうか。

教育長

学校のこれからの在り方について懇談等をしていくというお話を先ほどさせていただきましてけれども、そんな中で、やはり、こういう実情、現状をお示ししながら、どういうふうになっている中で検討をしていかなければならない内容なのかなということには思っています。ですので、特別それだけを取り立ててっていうよりも、学校がどうあったらいいかという検討の中の一つの、何ていうか、課題として検討はしていく必要があるかなというふうに思っています。

坂井議員

そうすると、今後の協議の内容次第では、例えば山村留学とか、そういったことを行うということもあり得るということなんでしょうか。

教 育 長 検討し、その中身によっては、可能性としてはゼロではないのだろうというふうに
思っています。

坂井議員 これ、本当に難しい問題で、私もどちらがいいっていうのは今の段階では全くないで
す、どちらがいいっていうのは言えないです。

ただ、出発点としては、この学校に通う子どもたちにとって幸せっていうことを出発
点に考えてもらえればなと思います。

それで、この学校に通えば都会の子も幸せになれるとか、そういった学校ができて、
よそから来るようになるということも、もちろんすごくいいことだとは思いますが、取
りあえず数だけ増やすっていうのは、やっぱり取るべきではないと思っております。

それで、繰り返しになって恐縮ですけど、とはいえ、飯島の子どもたちだけだと、統
廃合、本当にもう間違いなくすると思うんで、そこはよく保護者、子どもたち、町民の
意見を聞いて決断してもらいたいなと思っています。これは意見ですので答弁は結構で
す。

以上で私の一般質問を終わります。

[坂井議員復席]

議 長 以上で本日の日程を終了いたします。

これをもって散会といたします。

御苦労さまでした。

事務局長 御起立をお願いいたします。(一同起立) 礼。(一同礼「お疲れさまでした」)

散 会 午後4時18分

令和7年3月飯島町議会定例会議事日程（第4号）

令和7年3月11日 午前9時10分 開議

1 開議宣告

1 議事日程の報告

日程第 1 諸般の報告

日程第 2 第 6号議案 飯島町生物多様性保全条例

日程第 3 第 24号議案 令和7年度飯島町一般会計補正予算

日程第 4 第 25号議案 令和7年度飯島町国民健康保険特別会計予算

日程第 5 第 26号議案 令和7年度飯島町後期高齢者医療特別会計予算

日程第 6 第 27号議案 令和7年度飯島町介護保険特別会計予算

日程第 7 第 28号議案 令和7年度飯島町水道事業会計予算

日程第 8 第 29号議案 令和7年度飯島町下水道事業会計予算

日程第 9 発議第 1号 飯島町議会ハラスメント防止条例

日程第 10 請願・陳情等の処理について

日程第 11 議会閉会中の委員会継続調査について

令和7年3月飯島町議会定例会議事日程（追加日程第1号）

令和7年3月11日

追加日程第 1 発議第 2号 第 24号議案 令和7年度飯島町一般会計予算に対する付帯決議

追加日程第 2 発議第 3号 持続可能な学校の実現をめざす意見書

追加日程第 3 発議第 4号 核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書

1 町長挨拶

1 閉会宣言

○出席議員（12名）

1 番	伊藤 秀明	2 番	坂井 活広
3 番	折山 誠	4 番	坂本 紀子
5 番	宮脇 寛行	6 番	浜田 稔
7 番	三浦寿美子	8 番	堀内 学
9 番	星野 晃伸	10 番	片桐 剛
11 番	吉川 順平	12 番	久保島 巖

○欠席議員（0名）

○説明のため出席した者

出席を求めた者	委任者
<p>飯島町長 唐澤 隆</p>	<p>副 町 長 宮下 寛 総 務 課 長 大島 朋子 企画政策課長 座光寺満輝 住民税務課長 松村 和夫 健康福祉課長 林 潤 産業振興課長 堀越 康寛 建設水道課長 片桐 雅之 地域創造課長 久保田浩克 企画政策課財政係長 小林 正司</p>
<p>飯島町教育委員会 教育長 片桐 健</p>	<p>教 育 次 長 齊藤 鈴彦</p>
<p>飯島町代表監査委員 本多 昇</p>	<p>飯 島 町 監 査 委 員 事 務 局 長 (議会事務局長兼)</p>

○本会議に職務のため出席した者

議会事務局長	那須野一郎
議会事務局書記	松下 知冬

本会議再開

開 議	令和7年3月11日 午前9時10分
事務局長	御起立をお願いいたします。(一同起立) 礼。(一同礼「おはようございます」) 御着席 ください。(一同着席)
議 長	おはようございます。(一同「おはようございます」) 町当局並びに議員各位におかれましては、大変御苦勞さまでございます。 これから本日の会議を開きます。 今定例会も本日をもって最終日となりました。 会期中は、それぞれ、本会議はじめ各委員会において提出されました案件につきまして大変御熱心に審査に当たられ、感謝を申し上げます。 去る2月25日、本会議において、条例案件1件、予算案件6件について、本日——最終日に採決することといたしております。 また、各常任委員会に付託いたしました条例案件1件、請願・陳情案件3件につきましては、委員長よりお手元に配付のとおり委員会審査報告書が提出されております。 本日はこれらの案件について審議を願うこととなっております。議事運営のルールにのっとり慎重に御審議をいただくよう、また適切な御議決をされるようお願いをいたします。 本日の議事日程についてはお手元に配付のとおりです。
議 長	日程第1 諸般の報告を申し上げます。 本日、松澤会計管理者より欠席の旨の通知がございました。 以上で諸般の報告を終わります。
議 長	日程第2 第6号議案 飯島町生物多様性保全条例 を議題といたします。 本案につきましては社会文教委員会に審査を付託してありますので、委員長から議案 に対する審査報告を求めます。 星野社会文教委員長。 〔星野社会文教委員長登壇〕
社会文教委員長	それでは御報告いたします。 3月6日、委員会を開催し、第6号議案 飯島町生物多様性保全条例について、担当 課の出席の下、質疑を行いました。 問い1としまして「指定区域、希少種の調査はできているのか」、答えとしまして「希 少種の調査をし、サポーターを通じてアドバイザー会議を開いていく。当面はミヤマシ ジミの保全に8か所の指定に向けている」ということでした。

議長 討論としまして「町の自然を守るためにも条例は必要なので賛成」。
 お手元に配付のとおり、賛成4で可決すべきものと決しました。
 以上です。

議長 これから委員長報告に対する質疑を行います。
 質疑はありませんか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議長 質疑なしと認めます。
 星野委員長、自席にお戻りください。
 [星野社会文教委員長降壇]

議長 以上で第6号議案 飯島町生物多様性保全条例に係る委員長報告及びこれに対する質疑を終わります。
 これから討論を行います。
 初めに原案に反対討論はありませんか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議長 次に原案に賛成討論はありますか。

4番 坂本議員 賛成の立場で討論いたします。
 大変よい条例ですので、ぜひ、これをもって、点で——8か所というお話でしたけれども——なるべく一点が面的な形の中で保全が、ミヤマシジミだけでなく、ほかの希少生物とか植物なんかも面の中でだんだん町内に広がっていけばという思いを託しまして、賛成討論といたします。

議長 ほかに討論はありませんか。

6番 浜田議員 賛成の立場で討論いたします。
 大変先進的な取組であると同時に、保全すべき生物と並んで、外来種についてもしっかり視点を持っているという点で優れた内容だと思いますので、賛成といたします。

議長 ほかに討論はありませんか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議長 討論なしと認めます。
 これで討論を終わります。
 これから第6号議案 飯島町生物多様性保全条例を採決いたします。
 お諮りいたします。
 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
 [「異議なし」と呼ぶ者あり]

議長 異議なしと認めます。したがって、第6号議案は原案のとおり可決されました。

議長 日程第3 第24号議案 令和7年度飯島町一般会計補正予算
 日程第4 第25号議案 令和7年度飯島町国民健康保険特別会計予算

日程第5 第26号議案 令和7年度飯島町後期高齢者医療特別会計予算

日程第6 第27号議案 令和7年度飯島町介護保険特別会計予算

日程第7 第28号議案 令和7年度飯島町水道事業会計予算

日程第8 第29号議案 令和7年度飯島町下水道事業会計予算

以上、第24号議案から第29号議案までの令和7年度会計予算6議案を一括議題といたします。

それでは、本6議案について一括して質疑を行います。

質疑はありませんか。

4番

坂本議員

では質問をいたします。

人事においてですけれども、今回の予算の中では、一般職で14人が減、それから会計年度任用職員で15人減ということで、かなりの数が減っているわけですけれども、それで令和7年度の町の仕事が、事務事業がきちっと回るといってこれだけの人が減るといって認識でいいんでしょうか。

それとも、今回は課長職が多く、一度辞めてまた入るといってそのような話も来ておりますので、その部分で再雇用の中で賄われているといつか、そこら辺のことを聞きたいと思っております。

副町長

確かに人的には減っています。見ていただいたとおり、昨日も異動を出しましたが、50人の異動ということで、4人、課長さん方が役職定年、それで、そのまま係長として残ります。この方たちがいないと、多分、今回の人事はできなかったかもしれないというふうに思っています。

人的には、採用試験を4回ぐらいやっておりますけれども、あまり人が来ない、来ても併願が多くて、ほかのところへ行くという状態は、ここ二、三年ずっと続いています。それで、何回も試験をやりながら人数の確保に努めておりますが、それなりに雇用ができていないというのが実態でございます。

会計年度任用職員につきましては、できるだけ正規職員で賄っていくという方針の下に、これから町の人口も減ってまいりますし、それなりに対応していかなくてはならないというふうに思っております。一時的には増えても、将来的には人数は減っていくという方向に向かわないと方向的にはまずいんじゃないかなというふうに思っております。今いろいろ進めています。DXとか、そういうのを使いながら効率的に事務をするというような格好にしないとまずいというふうに思っております。

それで、私も十分だというふうには、完全に7年度をこの人数でやっていけるという完全な人数になっているかどうかと言われますと、ちょっとそこところは、実際問題、始めてみないと分からないところもあるかなあというふうに思っておりますが、できるだけ今いる人数の中で配置して7年度をやっていこうということで人事異動もいたしましたし、それなりに、試験を4回もやりながら、必要のところへ補充をしたというふうに考えておりますので、その分の人数が、数的には減っていると思っておりますけれども、やっていけるというふうに思っております。

議長
2番
坂井議員

以上でございます。

ほかに質疑ありませんか。

49 ページ、地域力創造推進プロジェクトの地域力創造アドバイザー業務なんですけども、これ、昨日、全協で少し説明がありましたけども、地域力創造アドバイザー業務について、現在の人とは更新しないという理解でよいのかというのがまず1点。

続いて2つ目が86 ページ、86 ページの自殺対策事業の報償金及び賞賜金と、あと費用弁償で大体100万円くらい計上されているんですけども、これ、自殺対策の町の報告書を読むと、平成30年から令和4年までの自殺者の数自体は平成30年以前よりも減ってはいるんですけども、これは全体が減っただけで、男性の自殺者数は増えています。それで、これまで自殺者は8割が男性だったんですけども、平成30年から令和4年までの5年間で、とうとう自殺者の9割が男性になっています。

それで、私は、これはちょっと異常なことだと思っていて、町としては男性に特化した対策として、広報だったり、ホームページに記載だったり、しているということなんですけれども、私はそれでは足りないんじゃないかというふうに考えております。

何か自殺対策で男性に特化した対策ができないかというのが1点と、もう一点が、これはちょっと分からないですけども、自治会の在り方研究会等でも話し合っていたければと思うんですけど、何か男性だからという理由だけで責任ある役を押しつけられているとか、そういった現状があるんじゃないかという、そこをちょっと私は危惧しておりますので、その点に関する町の考え方の答えを求めます。

それで、すみません、最後、3点目、154 ページの土地購入費のところ、1,000万円計上されているんですけども、これは陣屋に大型バスが止まれるように土地を購入するというので1,000万円計上されているということです。

ただ、町の行政報告書を読むと、陣屋の入館者数は、ここ5年間、毎日の平均入館者数が5人ということで、極めて少ないので、そのところに1,000万円かけて土地を購入する必要性が私はちょっと分からないので、それに対してお答えをいただきたいと思っています。

町の考え方としてはバス利用者を取り込むということなんですけども、そもそも陣屋がコンテンツとして弱いんじゃないかという私は危惧もしているんですけども、この点に関する答弁を求めます。

以上です。

町長

まず1点目の地域力アドバイザーの事業の関係です。

昨日は総体的な中で判断をしたという課長答弁したと思いますけれども、具体的には、活性化企業人の採用が2人あったんですけども長期間続かなかったということ、それから、もう一つは、地域おこし協力隊、こちらの採用が、数々の手を打っていただいたんですけども採用がなかったということ、それから業務上に遅滞が見られた、この3点を考慮しまして次年度以降は契約を結ばないという結論に至ったところであります。

今後、新年度の予算に当たりましては、提案型のプロポーザルですとか、あるいは十

分に相手方の調査をしながら採用をしていきたいと考えております。

2番目の自殺対策の関係ですけれども、やはり自分も、非常に男性が亡くなっている、去年も若い方が亡くなったということで、非常に危惧しているところであります。

命を守るということは非常に町の最大の課題だと思っておりますので、その辺は、しっかり連携をしながら命の大切さを皆さんに訴えていきたいと思っております。町には相談に乗っていただけるお医者さんも来ていただきましたので、そういったお医者さんとしてしっかり連携しながら相談業務にしっかりと対応して、命の大切さを皆さんに訴えていきたいと考えています。

もう一つ、自治会運営の関係で、やはり、まだまだ飯島の場合には男性社会というようなことで、男性の方がかなり地域の中でも責任を持って行動せざるを得ないような状況になっております。そんな状況でございますので、新年度からは自治会の研究委員会を立ち上げまして、その中で様々な在り方、また男性女性に限らず、共に支え合えるような、そんな地域をつくっていきけるような形を模索していきたいと考えているところであります。

もう一つが陣屋のことですけれども、バスが止まれるスペースがありますので、バスが止まれるということで駐車場を確保していくというのはもちろんなんですけれども、陣屋も、入館者、そんなに多くはないんですけれども、やはり町の中には、いろいろな文化財、それから特色あるいろいろな町並み等があります。

空き家の活用も含めて、そういったものも今後検討していきたいと、その中で、町なか歩きができるような、散策ができるような、そんなコースをつくったりして、以前はいなの中路ということで文化館まで歩いて回れるようなコースがあったわけですけれども、やはりもう一度、そういった、文化施設だけではなくて、少しお茶を飲んで皆さんと語り合えたり、そんな町なか歩きができるような場所の拠点として、今回は駐車場を購入して町なか歩きを施策として進めていきたいと考えております。

議 長
10 番
片桐議員

ほかに質疑はありませんか。

今の陣屋の件なんですけれども、今後、土地購入をした後、アスファルト舗装も考えているという話も聞きました。ツアー、団体を増やしていきたいという中で、ハード整備はもちろん大切なことだと思いますけれども、やはりそこに呼ぶ仕組みづくりが重要ではないかというふうに考えています。

ハード整備後の計画等があれば、その辺、お話ししたいと思えます。

副 町 長

今、町長が申しましたように、文化の伝統を守っていく、文化、伝統を守っていくというのは大切なことだというふうに思っております。

それで、今、駐車場を造りまして——すぐに舗装をかけられるかどうかはちょっと分かりませんが——当面、今までのように、コロナの後、物すごくでかいバスが来てくれるかという、ちょっと期待はできないかもしれませんが、幸い、うちでは、i i ネイチャー春日平、日本旅行が入っております。そういうものを使いながら、町へ人を呼び込むようなこと、それから今言ったように空き家を使いながら歩いていくような散

策の関係ですとか、そういうものをコンテンツにしながらか発信をしていくように考えております。

それで、今、陣屋のところですか、あとは上に陣嶺館ですか、そういうものも、やはりこれからは文化をしっかりと守っていくものを拠点としてつくっていく必要があるというふうに思っておりますので、そこらを連携しながら、きちっとしたそういうコンテンツをつくって、外にも発信できるものを作っていきたいというふうに考えておりますので、駐車場としてあそこを取得しながら、一つの拠点としてやっていききたいというふうに考えております。

議 長
4 番
坂本議員

ほかに。

質問ってというか、意見というか、希望なんですけれども、新聞報道がありました。伊那市で地域計画というのが、これは文化的な部分での地域計画を策定する中で、高遠とかなにかの文化財を——その計画で補助金が出ていると思うんですけれど——守っていくというようなことが新聞報道でありました。

それで、当町でも、今回の予算の中には、文化財保存活用地域計画というのを、生涯学習のほう、そちらのほうでつくっていくという中で、陣嶺館の保存というか、中の資料なんかも、その建物を造るための費用など、その中で補助金が出るのではという、そういう思いの中でつくるといようなお話も聞きました。

ですので、ぜひ、伊那市の地域計画を参考にさせていただいて、せっかく町が新しい文化財の保存活用地域計画というのをつくるのであれば、それに値する、計画をつくった後、広域、町内全域の中で、計画を加味した中で、うまい具合に補助金も出たりして文化財の保護に当たったらいいのではないかと思うわけですが、その点はどうなんでしょうか。

副 町 長

今言われたとおり、地域計画をつくることによりまして財源の確保をしながら、伊那市のようにいくか分かりませんが、ここら辺では宮田村が最初に多分つくっているはずでございますので、そういうのを参考にしながら、飯島町としても、その計画にのっとって、今言った陣嶺館、それから陣屋の記念館、そういうのを含めて計画の中に入れながら、文化を守っていくような計画をつくって、財源確保をしていって、将来にわたって支援できるものをつくっていききたいと考えております。

議 長
3 番
折山議員

ほかに。

坂本議員と関連しておりますが、この間まで総務産業委員会で予算の調査をしてまいりました。それで、所管課の調査を通じて、総務産業委員会の委員のほぼ全員が4月以降の体制、運営について不安を感じて、町民に迷惑をかけない行政サービスが引き続き行われるのかどうか不安になって、折山が代表して町長の姿勢を聞いて来いと、こういうようなことでしたので、これから聞くことは総務産業委員会の全員の質問だということでお聞きいただきたいと思います。

まず初めに、この間、確定申告の会場で相談を受けた住民から、私のところへ、とて

もその場所で親切に寄り添った対応をしていただいたっていう声を、言葉をいただきまして、廊下で行き会った職員にすぐそれを言って、所管へ伝えて、頑張っしてほしいと、こんなようなことで評価をした一方で、最近、通路側を向いて座っている職員なんだけれど、ずっとパソコンを眺めていて、なかなか目が合わないっていう声も増えてまいりました。

これまで一般質問を通じて、この3月4月っていうのは住民の移動が激しい時期で、ここで大規模な異動をかけるっていうのはそれぞれの職員にかなり負荷をかけ過ぎるから慎重に対応を願いたいという一般質問もしてまいりました。

それから、本年度については、いろんなシステムが新たに加わったり変更するということで、その点でも職員にはかなりの負荷をかける、こういったことも申し添えてまいりました。

ですが、振り返ってみると、本日の新聞ではこれまでにない大規模な人事異動の発表があり、また少し前には、阿智村で収納事務の遅れにより、一部はもう時効が来てしまって再度収納することが困難だ、理由は、その職員に言わせると、その業務に携わる時間がなかった、こんなような報道がなされたところであります。

それで、申し上げたいのは、この先——これだけ過酷な状況の中でこれだけの大規模な異動をするというのは、我々が総務産業委員会で各調査をしてきた中で、いわゆる今の職員体制でも4月以降にちょっと自信が持てないという不安視をする現職の声を散見してきたところであります。

それが、副町長に言わせると、DXを活用しながら、将来の人口減少見据えながら、体制は減にしていかなきゃならないという、それは理解できるんですが、DXを一つ取っても、人工知能を活用するには技術が要るんですね、いきなり全てをやってくれるわけじゃないんですね、やはり何回か勉強をさせながら、また行政についていう、一つ、これも技術を養う必要がある。

そうすると、将来を見据えてもいいんですが、今の住民サービスを低下させないだけの体制を取ってかなきゃならない、しかしながら応募がない、来手がない、ちまたでは、飯島町は他の自治体に比べて処遇が悪い、こういううわさも流れているわけです。

いろんな悪循環が今出ようとしているんで、何か問題が起こったときに無理なことをさせられている職員に責任を負わせるのか——阿智村では4人だか5人の職員が処罰の対象になっています。これは、そういう環境に追い込んだ理事者の責任なのかも含めて、できれば、4月以降、円滑に事務が進むように——先ほど申したように、確定申告の会場で親切に対応するためには職員に気持ちの余裕もなければなりません。体制も整っていなければそんな対応はできません。そこら辺を含めて、4月以降、安全に住民サービスが引き続き円滑に行われる、どのように考えておられるか。

もう一つ付け加えますと、今、報道で発表されている、閉じるのは町営業部で進めてきたような仕事、それから楽天の事業を手じまってしまうことは出ていますが、これを見る限りは、新規事業、物すごい膨大な新規事業がここへ入っています。新しい仕事が出てくる。こうした異動の環境の中、無理を押しつけてはいませんかという点を中心に

理事者の考えを伺います。

特に副町長には、この人事について、どのような思いでやったのか、あれだけ言ってきたのに、なぜこの時期にこれだけ大規模にやったのかを含めてお伺いいたします。

副町長 では、私のほうから最初に答えさせていただいて、多分、町長さんがまた答えるというふうに思いますので、よろしくお伺いいたします。

今回の異動の大きいということでございますけども、事業的なものを考えて、それはそれなりに人を回したつもりでおります。

それで、窓口業務ですとか、そういうところについても、今までの人数を確保するようなこと、それから人を替えなければならないところ、それからシステムのことを今言われておりましたが、システムは、やはり年度切替えをしないと、途中等で、また 10 月ですとか、そういうふうに切り替えると負担が大きくなる面もございます。そういうことも考えまして 4 月で切替えをしなきゃならんというふうに考えました。

それで、人も限られた中で、今年は、国スポの関係ですとか、そういうものもございしますので、そこへも人を配置し、そのことについてはできるだけハードの面に強い者を充てたつもりでございます。そういうことを考えながら、一つ一つの事業をこなしていく関係で人事異動をやったというのが私の心情でございます。決して職員のことを考えていないということではございません。

以上でございます。

町長 先ほど、確定申告のお話が出ましたけども、申告も、それぞれ職員が考えていただいて、土日はなくしました。それで、受付も予約制ということで、その分、余裕が出て、町民の皆さんに親切に対応できてきているのかなと思います。

自分もちょっと担当に住民の皆さんから土曜日にやってよってという声が来ているよってお願いしましたけども、やはり、今の体制では、なかなか土曜日は受付ができないということで返答がありました。そんなことで、職員も、かなりいろいろな業務にわたって自分たちができる工夫をしながらやっていただいているということがあります。

そのほか、いろいろな、今は経済対策等で緊急な申請が上がってきたりしておりますけれども、それらについてもできるだけ手間を省くような仕組みをお願いしているところでもあります。

また、昨年 10 月ですけれども、今回の機構改革に伴う大規模な異動が予想されましたので、事前に忙しい職場については半年前に人事異動実施しまして、業務が重ならないように、また 4 月に業務が煩雑にならないような、そんな対応も取ってきたところであります。

やはり、今の限られた 124 名の職員でこの膨大な事業を回していくというのは非常に大変なことだというふうに予想されます。

その中で、やはり職員からいろいろな事業を提案してきていただいております。そこに今掲げられております事業も職員の提案がかなり多いものになっております。こちらからこれをやってほしいという提案で指示をしたものは、そんなにはないというふうに考えています。それぞれ、私の 8 つの公約の中で、職員の皆さんがそれぞれに考えてい

ただいで提案されてきた業務だと思えます。

それをやらなければいけないということもありますので、今までの、従来の業務と併せてやっていくということになると、非常に業務が煩雑になってきたり、あるいは過重になってきたりすると思えます。

先ほどDXって言いましたけども、一言でDXっていてもなかなか難しいところがありますので、できる限り自分たちで、業務の簡素化、あるいは省くところはきちんと省いていく、やめるものはやめていく、そういった取捨選択をしながらやっていただくように、これから新年度はお願いしていきたいと思っております。

なお、これから人口減少になっていきます。先ほど副町長が申しましたように、その中でどのように行政運営していくか、これは非常に大きな課題立だと思えます。人数的な課題もありますし、また予算の課題もありますので、そういったことを総合的に含めながら、職員全体で検討をしてみたいと思えます。

4月の訓示で話す内容の中では、やはり自ら考え自ら行動する職員に自分としてはなっていたきたいというふうに考えていますので、今までの業務を8割くらいの中でやっていただいて、あとの2割は、やっぱり考えて、自分たちが何をやるべきかということを考えて行動できるような、そんな職員になっていただくように訓示でお願いしていきたいと考えております。

3番
折山議員

この件は総務産業委員の調査をしてきた印象として代表して申し上げましたんで、そういうふうに受け止めていただければいいんですが、ただ、心配するのは、町長がふだんから申されておるとおり、職員が宝だと、職員がここで楽しく生きがいを持って明るく働けることがそのまんま町民の福祉の向上につながるんだという思いと職員の中に広がる雰囲気とがあまり開かないように、そのことをよく考えながら行政のトップに立って運営をしていっていただきたいということを申し添えて、もう一点だけ伺います。

以前に循環バスのことをお聞きしたことがあったんですが、今度は移動購買がまた一つ新たな形で始まるということで、移動購買を産業振興というふうに考えるのか、それとも福祉の政策として考えるのかということの大きい基本の部分をお尋ねしたいんですが、これから始まっていくっていう内容で。

それで、産業振興っていうと、いろんな産業があって、立ち上げ資源、こういったものが一定の期間は必要ということで支援するわけですね。ところが、いつまでもっていう、商工業、製造業、いろんなそういう支援はあまりないと思うんです。

しかしながら、移動購買って、よく考えると買物弱者のための政策っていうことが色合い的には大きいような気がするんですね。とすると、福祉の視点を持つと、福祉であれば継続してそこを支援していく、買物弱者の皆さんの生活を支える、こういった見方もできるわけなんです。

立ち上げ地点は今度の予算で分かるんですが、将来的に移動購買車をどの視点で継続していこうと思ってるのか、全く民間の力だけで、産業という形の中で捉えるのか、あるいは弱者を助けるための福祉の一視点として行政で引き続きの支援を考えて

いるのか、ちょっとその点だけ、1点お聞きします。

町長 当然、買物弱者の視点で立ち上げていくわけですがけれども、やっぱり、ウエルシアという特殊な業態でやっていただきますので、将来的には、モバイルクリニックではないですがけれども、モニターもついていきますので直接店にいる薬剤師と話をしながら、そういった薬の相談ですとか、あるいは生活相談、そういったものに携わっていただくということで、そういったほうにも重点を置きながら運営していきたいと考えています。

それで、やはり、買物弱者という、買物をしたいっていうこともありますけれども、そこに来て話をすると、店員さんと話をしたり、あるいはそこに集まってきたりした皆さんと話をするという、そういう居場所づくりの面もありますので、そういった面で、福祉の面も半分、経済対策の面も半分ということで運営をしてまいりたいと思っております。

議長 ほかに。

9番 星野議員 国スポに向けて柏木運動場が整備されるわけですが、その中で、この本当に大きなイベントの中で、飯島町に対する経済効果っていうのはかなりあると思うんですね。

今お聞きしたとおり、もう役場の職員の皆さんも大変だっていうことはよく分かります。

そこで、やっぱり町民の力っていうのは大事だと思うので、柏木運動場と今は名前がついていますが、ネーミングをお願いするとか、それからまた食の部分で、飲食部会やなにかを通じて飯島の特産品がまずテントの周りで売れる、初めはもう練習場だと思っていたら、そこでも試合が行われるということなので、かなりの集客が望めると思います。その分の経済効果をどのように考えていくかをお聞きします。

副町長 国スポということで、かなりお金も使って会場整備を行います。それで、当然、これから立ち上げます実行委員会の中で、どういう皆さんに入っていてどういうことをやっていくかっていうのを検討しなきゃならんというふうに思っております。

それで、国スポをそのまま終わらせないというのが、多分、町としての命題だろうというふうに思っております、その後の利用をどうするか、経済効果を持続するにはどうするかっていうことを考えなきゃなりませんので、その辺については、実行委員会に集まった皆さん、商工会も含めて、スポーツ団体も含めて、あらゆるところにお声がけをしながらこれからつくっていくかと思っておりますので、その中で検討しながら、主体的には町が主体となってこれからどういうふうに継続していくかというのを十分検討させていただいて、今後につなげていきたいと考えております。

よろしくお願いたします。

9番 星野議員 かなりの町としてのチャンスだと思いますので、ぜひ経済効果を期待して、私たちもみんな協力すると思いますので、よろしくお願いたします。

議長 ほかにありませんか。

8 番

堀内議員

まず、先ほど折山議員のものに関連するところではあるんですけども、確定申告時、行政——町でやっている部分ありますが、一時期から、コロナ禍が明けてから予約制になったりした経過もありました。その中で、やっぱり、町でやりたかったんですけど、予約が全く取れなくて、困っているからどうかしてくれっていう方も御相談がかなり来るようになりました。

ある意味では、行政として救わなきゃいけないところが救えてないんじゃないかっていう一部の考えも出てくるかなと思うんですけども、そのあたり、予約制によるメリット、デメリット、職員についてはメリットありますけれども、行政サービスとしてはちょっとデメリットになるんじゃないかなと思うんですけど、そのあたり、1点、お聞かせいただければと思います。

また、45ページにありますけれども、若者Uターン促進事業の送料ということで、これは、昨年行われたALIVEプロジェクトによって出てきたもので、大賞を取ったものを採用していくというところでございます。

この中で、かなりALIVEプロジェクトでは様々な意見があって、かなり効果的なものもあるんじゃないかというところも考えているんですけども、それを、多分担当課が解体されて違うところに部署移動するっていう中で、今までのALIVEプロジェクトの成果っていうものを改めて引き継いで事業のほうに移行していくような検討を続けていっていただけるようなものなのかっていうところをお聞かせいただきたいと。

それで、もう一つ、最後3点目になりますけれども、64ページにあります町長公約の下で作る街角ベンチでございますけれども、お話を聞いていると、取りあえず今回は各地区に配置したらどうかみたいな話の御回答はあったんですけども、これも、町長の公約の下、目的があって作るものですので、本当にどこに置くことが街角ベンチとしての人の交流っていうところをつくれるかをしっかり試しながら効率的に設置をしていくべきかなと思うんですけども、そのあたり、お考えをお聞かせください。

町 長

確定申告の対応につきましては、御迷惑をおかけしている場面も多々あるかと思えます。なかなか予約が取れなくて、日程に入らないという方もいらっしゃることは承知しております。今はマイナンバーカードによる申告もありますし、そういったことも含めながら、しっかりと住民の皆さんにPRしながら、簡易に申告できるような仕組みを、申告相談に本当に乗らなければならないような申告があれば、それは十分に応えていきたいと思えますし、簡単に申告できるものがあれば、そういった簡単に申告できるような仕組みをしっかりとお伝えしていきたいと考えています。

それから、ALIVEの関係ですけれども、これは、自分も参加しまして、自分に対して提案を幾つかいただきました。自分もその中で幾つかの提案を採用しました。ですので、その採用した部分については町の施策として実施をしていくということになります。

課は変わりますけれども、その内容についてはしっかりと引継ぎをしながら町政の中に反映していきたいと思っております。

また、そのほかにもALIVEの中で若い皆さんが、都会の企業の皆さんがいろいろな提案をされていますので、いいものは町の中でどんどん取り入れてまいりたいと考えているところでもあります。

それから、街角ベンチですけれども、これについては担当課のほうで各公民館にということでありましたけれども、やはり、それをどういうふうに生かしていくか、公民館に置いても、なかなか公民館に常時人が来るというのはあまりありませんので、やはり町なかの、今、居場所づくりを進めている場所がありますので、そういったところを中心に置きながら、様子を見て、まただんだんに増やしていきたい。

また、文化館にももう既にベンチが置いてありまして、小中学生が使ったりとか、あるいは来場された皆さんが使ったりしておりますので、やはりちょっと座ってみんなで語り合ったり、あるいはお弁当を食べたり、そんなような場所を町の中に増やししながら、町の中がにぎやかくなるような、そんな仕組みをつくっていききたいと考えております。

議 長
11 番
吉川議員

ほかに。

予算概要の10ページに、集落営農、私も一般質問で何回もやっておりますけど、地域複合営農への道パートVの後期の見直しという話があります。

営農センターも40年ぐらいになりますけども、今、承知のとおり、飯島方式ということで、二階建て方式、地区営農組合、担い手方針でやっております。

ですが、前も申しあげましたように、協議会でも言っておりますけど、70歳以上の高齢者になっておる。

それで、これが、もう5年後になるとどうなるかっていうことを見据えて、やはり、これをどうしたらいいかっていうことを、もう今から、もう令和7年度から、後期の見直しっていうのがあるんで、私も一緒に考えますけど、やっぱり、担い手法人、あるいは地区営農組合の役員含めて、今の問題は何かということ、課題解決を出してもらおう。

それと、むら夢楽塾でありましたように、外部ですけど、酒井教授が聞いていただいておりますけども、やはり地域みんなで農業を守るんだと、やはりそういうことが、農村RMOという話がありましたけど、やはりそこを、やっぱり大事にしていく、国産国消含めて。

今、国会でも検討しておりますが、やはり消費者とタイアップしながら、価格転嫁の問題、米の問題を含めて、これは、ひとつ飯島でも大事になってくるというふうに思っておりますので、ぜひとも理事者の今後の、飯島方式といった飯島のこれからの農業の考え方、これをちょっとお聞きしたいと思っております。

町 長

今から20年ぐらい前にコモンズっていうことがよく言われていました。ローカルコモンズっていうことで、地域の資源をその地域に住む皆さんが共有しながらみんなで管理していこうっていう運動だったんですけども、なかなか、ちょっと下火になっちゃいまして。その頃、町の地域複合営農への道の中に、居心地のいいまちづくりということで、地域の資源を地域のみんで守っていきましょう。本当にローカルコモンズの考え

方がパートⅡのときにうたわれまして、それに基づいて今の計画があるわけです。

やはり、その中で、サカイ先生も言われていたとおり、RMO、地域の中でそういった全体を動かしていくような組織、地域の資源を農家、非農家を問わずに農地を守ったり、あるいは地域の資源を守ったり、また自分たちでできる地域の仕組みを守っていく、やっぱりそんな大きな広がりの中で、それをRMOが担っていく、今は地区の営農組合や法人がそういった農地は守っているんですけど、農地だけじゃなくて、地域のいろんな資源をみんなですべて守っていく、農家、非農家を問わず守っていくというRMO的な組織をつくりながら、これから営農センターは運営していくべきかなと思っています。

そんなことを次の計画の中で——次の計画というか、後半の中で考えながらやっていきたいと思っています。

一村一農場というような考え方もありますけれども、今4つに分かれています、それを一つの大きなくくりの中で考えながら、さっき申し上げましたRMO的な組織をきちんとつくって、農家、非農家に関わらず地域の皆さんがみんな関わって地域を守っていけるような仕組みをつくっていければと考えています。

11 番
吉川議員

分かりました。

提案ですけども、森税理士っていう有名な税理士がいらっしやいます。私もずっとお付き合いをしておりますけども、やっぱりその方は——今はちょっと言ってないです。当時言っていたのは、もう十何年前ですけども、やはり、今言われたように地域循環型、要するに、今、自治会でも川掃除をやったり、それで、今言った農業の問題は何かあっていったら草刈りが大変だっという話があります。

ですから、今、地域住民、農家ではなくて、草刈りが大変となると、その地域の衆に草刈りに出てもらって、それは法人としてやっぱり雇う——雇うっていうか、非常勤っていう形で草刈りをしてもらって、教育制度になるかと思えますけど、やっぱりそれでお金を払うっていうことで、やはりみんなで家の周りの草刈りをする、そういったことが大事かということで、今、町長が申されたようなことが大事かなというふうに思っておりますので、そんなことも入れながら地域循環型農業含めた考えをこれから求めて、終わりにしたいと思えます。

議 長

ほかにありませんか。——よろしいですか。

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから議案ごとに討論、採決を行います。

初めに第24号議案 令和7年度飯島町一般会計補正予算について討論を行います。

初めに原案に反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第 24 号議案 令和 7 年度飯島町一般会計補正予算を採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、第 24 号議案は原案のとおり可決されました。

次に第 25 号議案 令和 7 年度飯島町国民健康保険特別会計予算について討論を行います。

初めに原案に反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 次に賛成討論はありませんか。

6 番 堀内議員 賛成の立場で討論をさせていただきます。

国民健康保険については、しっかり積極的に健康診断等も受診をしていて、長野県でも上位 5 位ということで、かなり積極的にやられているというふうに考えております。

また、昨年 12 月からはマイナ保険証と資格確認書ということで、かなり確認業務も増えてきている中で、積極的に皆さん動いていただけているので、積極的に健康な飯島町をつくってもらいたいという意味でも、この予算に賛成する立場で討論いたします。

議 長 ほかに討論はありませんか。

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第 25 号議案 令和 7 年度飯島町国民健康保険特別会計予算について採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、第 25 号議案は原案のとおり可決されました。

次に第 26 号議案 令和 7 年度飯島町後期高齢者医療特別会計予算について討論を行います。

初めに原案に反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 次に原案に賛成討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第 26 号議案 令和 7 年度飯島町後期高齢者医療特別会計予算について採決

いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、第 26 号議案は原案のとおり可決されました。

次に第 27 号議案 令和 7 年度飯島町介護保険特別会計予算について討論を行います。

初めに原案に反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 次に原案に賛成討論はありませんか。

8 番 堀内議員 賛成の立場で討論をさせていただきます。

介護保険については、団塊の世代が入ってくるというピークの年となっております。

その中で、かなり介護保険のほうの費用が上がってきている中で、町として元気アップ講座やフレイル予防っていうのがかなり拡充されるということで、健康な若々しい老人が増えることを期待して、賛成といたします。

議 長 ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第 27 号議案 令和 7 年度飯島町介護保険特別会計予算について採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、第 27 号議案は原案のとおり可決されました。

次に第 28 号議案 令和 7 年度飯島町水道事業会計予算について討論を行います。

初めに原案に反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 次に賛成討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから第 28 号議案 令和 7 年度飯島町水道事業会計予算について採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、第 28 号議案は原案のとおり可決されました。
次に第 29 号議案 令和 7 年度飯島町下水道事業会計予算について討論を行います。
初めに原案に反対討論はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 次に原案に賛成討論はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 ほかにありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 討論なしと認めます。
これで討論を終わります。
これから第 29 号議案 令和 7 年度飯島町下水道事業会計予算について採決いたします。
お諮りいたします。
本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、第 29 号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 日程第 9 発議第 1 号 飯島町議会ハラスメント防止条例
を議題といたします。
本案の提出委員会議会運営委員長から提出に関わる趣旨説明を求めます。
〔坂井議会運営委員長登壇〕

議会運営委員長 それでは飯島町議会ハラスメント防止条例の提案理由の説明をいたします。
この条例は、全ての議員及び職員が相互に人格を尊重し、信頼を深め、快適に働くことができる環境を確立することで、町民等から信頼される議会を実現するために制定をするものです。
これに加えて、ハラスメントは許されないという時代の流れ、そしてパワーハラスメントというものは議員から職員に対して発生するものですが、セクシュアルハラスメント、マタニティーハラスメントというものは職員から議員に対しても発生するものです。
提案理由は、全ての議員及び職員が相互に人格を尊重し、信頼を深めるということが提案理由になっておりますので、適用範囲に議員から他の議員、議員から職員、職員から議員、これらを適用の範囲としております。
提案理由は以上です。

議 長 これから質疑を行います。
質疑はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 質疑なしと認めます。
坂井委員長、自席にお戻りください。

		[坂井議会運営委員長降壇]
議	長	質疑を終結し、これから討論を行います。 初めに原案に反対討論はありませんか。 [「なし」と呼ぶ者あり]
議	長	次に賛成討論はありませんか。 [「なし」と呼ぶ者あり]
議	長	討論なしと認めます。 これで討論を終わります。 これから発議第1号 飯島町議会ハラスメント防止条例を採決いたします。 お諮りいたします。 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。 [「異議なし」と呼ぶ者あり]
議	長	異議なしと認めます。したがって、発議第1号は原案のとおり可決されました。 ここで休憩といたします。再開時刻を午前10時30分といたします。休憩。
休	憩	午前10時09分
再	開	午前10時30分
議	長	会議を再開いたします。
議	長	日程第10 請願・陳情等の処理についてを議題とします。 去る2月25日の本会議におきまして各常任委員会へ審査を付託いたしました案件3件につきまして、お手元に配付のとおり委員長から請願・陳情審査報告書が提出されております。 各請願、陳情等の審査について委員長より委員会審査報告を求め、これに対する質疑の後、案件ごとに討論、採決を行います。 初めに総務産業委員長から報告を求めます。 宮脇総務産業委員長。 [宮脇総務産業委員長登壇]
総務産業委員長		それでは本委員会に付託されました2件の陳情について報告いたします。 去る3月6日、委員会を開いて審査をいたしました。 初めに7陳情第2号 消費税率の5%への引き下げを求める陳情書について報告いたします。 参考人として下平和幸氏に陳情の趣旨をお伺いした後、質疑に入りました。 出された主な質疑であります。問いとして「12月にも5%引下げの陳情があったが、5%へ引下げの根拠、それについての理由は」ということでありまして、答えとしては「全廃が望ましいわけですけれども、急激な引下げは大きな影響があるため」と、こういう回答でありました。

この時点で進行に対する動議がありまして、全員の賛同によりまして中断し、進行に対する協議会を開催いたしました。

その後、再開をいたしまして討論に入りました。

反対討論として「消費税は、別途、社会保障に使われているということ、その中で、4分野で32.2兆円で、半額となると社会保障も削られ、大きな問題になる」と、「引下げに伴う財源案を示すべきだ」と、こういう反対討論がありました。

次に賛成討論であります。「物価高の中で即効性があるということ、また持続可能な対策を求めている」、それから「議会として住民の意見を強調する立場でなければならない。消費税は特定財源ではないため、社会保障は削られない。法人税を上げればカバーできる」と、このような賛成意見がありました。

次に反対討論です。「昨今の国会で財源確保に苦慮している。前回の提案時よりも、ますます財源見通しが立たないと考える」、このような反対討論がありました。

次に採決であります。採決は原案に賛成が1、そういうことで、お手元の委員会審査報告のとおり不採択とすべきものと決しました。

次に7陳情第3号 核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書を国に提出することを求める陳情について報告いたします。

参考人として高橋和恵氏に陳情の趣旨をお伺いした後、質疑を行いました。

質疑は特にありませんでした。

次に討論、採決でございます。

賛成討論が5件ありました。

初めに「飯島町は非核平和宣言の町である」と、「核軍縮交渉は行われていたが、現在は動きが鈍いということ、核兵器を持っていても入れる包括的な条約であるため賛成」ということです。

それから、「国がちゅうちょしている原因として、世界的情勢の中で、核の傘は必要であるが、未来を見据え縮小すべきだ」と、こういう討論でした。

次に「日本は核兵器による悲惨な過去を経験してきた歴史があるため、条約に賛同すべき」。

それから、「非核平和宣言の町である。非核への意識を持ち、高めるべきである」と、こういうことであります。

採決の結果、原案に賛成5で、お手元に配付のとおり、委員会審査については採択すべきものと決しました。

以上であります。

議長 ここで委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長 質疑なしと認めます。

宮脇委員長、自席にお戻りください。

〔宮脇総務産業委員長降壇〕

議 長 次に社会文教委員長の報告を求めます。
星野社会文教委員長。
〔星野社会文教委員長登壇〕

社会文教委員長 3月6日に委員会を開催し、7陳情第1号「持続可能な学校の実現をめざす意見書」採択を求める陳情について飯島町公立学校教職員組合水上氏に陳情の趣旨をお聞きし、質疑をしました。
討論として「状況は大変だと感じたので、改革につながるように賛成としたい」、「定額で働いているので議会でも声を上げ、法改正につなげていきたい」。
委員会の結果としては、お手元に配付のとおり、賛成5で採択すべきものと決しました。

議 長 以上です。
ここで委員長報告に対する質疑を行います。
質疑はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 質疑なしと認めます。
これで質疑を終わります。
星野委員長、自席にお戻りください。
〔星野社会文教委員長降壇〕

議 長 以上で請願、陳情等の処理に係る委員長報告及びこれに対する質疑を終わります。
これから案件ごとに順次討論、採決を行います。
初めに7陳情第1号「持続可能な学校の実現をめざす意見書」採択を求める陳情について討論を行います。
本陳情についての委員会審査報告は採択ですので、初めに原案に反対の討論はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 次に原案に賛成の討論はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 討論なしと認めます。
これで討論を終わります。
これから7陳情第1号「持続可能な学校の実現をめざす意見書」採択を求める陳情について採決いたします。
お諮りいたします。
本陳情に対する委員長の報告は採択です。
本陳情を委員長の報告のとおり採択とすることに御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、7陳情第1号は採択することに決定いたしました。
次に7陳情第2号 消費税率の5%への引き下げを求める陳情書について討論を行います。

本陳情についての委員会審査報告は不採択ですので、初めに原案に賛成の討論はありませんか。

7番

三浦議員

消費税率の5%への引き下げを求める陳情について賛成の立場で意見を述べます。
消費税が5%になったら本当にありがたいことだという町民の皆さんの声を多くいただいております。

この物価高騰の中で家計を支えるためには、ぜひ飯島町議会として町民の皆さんの声を意見書として国へ上げるということが町民の期待に応えることだと考えておりますので、賛成をいたします。

議長

次に原案に反対の討論はありますか。

3番

折山議員

原案に反対の討論でいいんだな……。

議長

はい。

3番

折山議員

を申し上げます。

ちょっと今の国会を見ていると、少数与党ってこと政権の中で、町民、いわゆる国民要望がありとあらゆる方面から出されております、財源の確保に苦慮している中。

それで、この上で、また消費税を5%に下げていくということになると、今、棚上げになりそうな高額医療費のこと、将来の年金、社会保障費、こういったもので財源がきつくなって、改悪になっていくと、それこそ町民の負託に応えられない場面が出てきてしまうのではないかという心配をすることから、今回は、この件に対しては不採択すべきものに賛成をいたします。

議長

ほかに討論はありますか。

4番

坂本議員

私は、消費税、これの陳情書に対して賛成の立場で討論いたします。

ここにもあるように、1989年に消費税が導入されて、それで、35年というふうな形の中で現在の10%ということになってきましたけれども、10%になったことで、非常に低所得層に対しては厳しい生活環境となってきております。

それは、食品だけではなく、生活用品にまで及びまして、過去にありました累進課税は、やはりそれを是正するためのものでしたが、大手企業への減税率がどんどん高くなって累進課税が壊れつつある中で、また消費税ができてきた経過があります。

なので、やはり、今の物価高騰、それから、特に地方の企業、中小企業が、長野県内でも、ここを見ましても倒産しております。それは物価高騰とコロナによる影響がすごく大きいわけで、ずっとでなくてもいいと思うんですけども、やはり5%に一時期下げる政府の必要性を感じます。それなので、この陳情書に賛成といたします。

議長

ほかに討論はありますか。

6番

浜田議員

この陳情に賛成の立場で討論をいたします。

世界的に物価高騰は問題になっていまして、それぞれの国がいろんな対策を取っています。スペイン、電気代の税率を半分に引下げ、イタリア、天然ガスの税率10%を5%に、ポーランド、天然ガス、肉、野菜、乳製品の税率をゼロ%に、ペルー、砂糖、パン、鶏肉、パスタ、卵をゼロ%に、ポルトガル、食料品をゼロ%に、ベルギー、野菜、果物、医薬品、衛生製品、公共交通をゼロ%に、これが世界の趨勢です。

それぞれの国の在り方は違いますが、やはり国は国民の生活を守ることを第一義的にすべきだというふうに考えております。

飯島議会が国の心配をする必要は、私はないんじゃないかというふうに思います。

それと、委員長報告の中にもありました点ですけれども、そもそも消費税は目的税ではありません。ですので、これは、誤解を与える説明を政府がしていたという問題はあるわけですが、消費税に頼る福祉ではなくて、やはり国民の福祉を最優先する財政、政策を組むべきだということを我々は主張すればいいんだと思っています。

それで、もう一つは、この間、消費税が国家の歳入をひっくり返してきました。つまり、もともと、消費税率を3%とかいう時代には、国の歳入の圧倒的な部分は法人税だったわけですね。ところが、法人税率がどんどんどんどん引き下げられて、現在では歳入の割合は消費税のほうが法人税を上回るに至っています。

それで、そこまで保護していて、じゃあ日本の企業は強くなったのかというと、御存じのとおりですね。それだけの保護を受けても競争力を失っているというのが日本の企業の現状で、単に甘やかしたただけだということでもあります。

ですので、財源は法人税率を元に戻せば可能です。ゼロ%が望ましいわけですが、これは激減緩和の措置が一定程度は要るだろうということで、まず一旦5%ということになります。

それで、そういったことでもって、これは本当に町民の要求です。やはり飯島町議会は町民の要求にどう応えるのかということをこの場でもってそれぞれの立場から表明すべきであるというふうに考えます。

そういう意味で、多くの議員の御賛同を求めて、賛成討論とするものです。

議 長
1 番
伊藤議員

ほかに討論はありませんか。

それでは反対の立場から討論いたします。

まず、消費税の使い道の大部分は国の社会保障に使われております。具体的には、1番目として年金、2番目としては医療、3番目としては介護、4番目としては子ども支援であります。

社会保障は、高齢者に支払う年金だけではなくありません。国民健康保険、みんな入っていますけど、その制度が大事な社会保障です。また、妊娠をした際に無料で受けられる妊婦の健診、地域の子育て支援などにも使われております。

誰でも、消費税が下がれば、買物等、様々な出費が減り、消費者にはいいかとは思いますが、その一方で、社会保障の4分野を合わせると現在32.2兆円使われております。10%が5%になると16.2兆円の財源が不足します。その財源はどこから捻出するので

しょうか。

社会保障から 16.2 兆円の大金が削られることは、社会保障制度が大きく成り立たなくなるおそれがあります。安易な 5% 引下げの要求をしても、社会制度の混乱を招くだけで、実現することは非常に厳しい、難しいことだと思います。

責任ある要求をするのならば、財源をどうやって捻出するかもきちんと説明がないと、この要求は採択することはできません。

したがって、以上のように反対をするものであります。

議長 ほかに討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

議長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから 7 陳情第 2 号 消費税率の 5% への引き下げを求める陳情書について採決いたします。

本陳情に対する委員長の報告は不採択です。

ここで念のため申し上げますが、委員長報告は不採択であります。議事の整理上、本陳情の採択について採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本陳情は原案を採択することに賛成の方は御起立ください。

[賛成者起立]

議長 お座りください。(起立者着席)

起立少数です。したがって、7 陳情第 2 号は不採択することに決定いたしました。

次に 7 陳情第 3 号 核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書を国に提出することを求める陳情について討論を行います。

本陳情についての委員会審査報告は採択ですので、初めに原案に反対の討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

議長 次に賛成討論はありませんか。

討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

議長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから 7 陳情第 3 号 核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書を国に提出することを求める陳情について採決いたします。

お諮りいたします。

本陳情に対する委員長の報告は採択です。

本陳情を委員長の報告のとおり採択とすることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

議長 異議なしと認めます。したがって、7 陳情第 3 号は採択することに決定いたしました。

議 長 日程第 11 議会閉会中の委員会継続調査についてを議題といたします。
 会議規則第 72 条の規定によりお手元に配付のとおり議会閉会中の継続調査について
 各委員長から申出があります。
 お諮りいたします。
 申出の事件について議会閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。
 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、本件については各委員長から申出のとおり継続調
 査といたします。
 ここで暫時休憩といたします。

休 憩 午前 10 時 51 分
 再 開 午前 10 時 52 分

議 長 会議を再開いたします。
 ただいまお手元に配付しましたとおり片桐剛議員、三浦寿美子議員、浜田稔議員より
 各 1 件の議案が提出されております。
 お諮りいたします。
 本案を日程に追加し、追加日程第 1 から第 3 として議題にしたいと思いますが、御異
 議ありませんか。
 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 異議なしと認めます。したがって、本件を日程に追加し議題とすることに決定しまし
 た。

議 長 追加日程第 1 発議第 2 号 第 24 号議案 令和 7 年度飯島町一般会計予算に対する
 付帯決議
 を議題といたします。
 事務局長に議案を朗読させます。

事務局長 議案朗読

議 長 本案に対する提出者の趣旨説明を求めます。
 10 番 片桐剛議員。
 〔片桐議員登壇〕

10 番 片桐議員 それでは提出に当たって説明をさせていただきます。
 今回の予算の中には地域力創造推進プロジェクトの費用として 2,300 万円余が計上さ
 れています。
 現在も実施されている事業であります。本議会、また委員会調査の中でも、業務委
 託の委託先、業務内容、実施スケジュールなどについて多くの質問が上げられました。

また、全員協議会の中では、委託先は変更となるが、事業は引き続き実施をする旨、説明がありました。

このようなことから、さらなる事業の透明性と適正な事業実施を行い、住民の皆さんの理解を得るためにも、本附帯決議を提出するものであります。

多くの皆様の賛同をいただきますようお願いいたします。

以上です。

議長 これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

提出者は自席にお戻りください。

〔片桐議員降壇〕

議長 これから討論を行います。

初めに原案に反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長 次に賛成討論はありませんか。

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから発議第2号 第24号議案 令和7年度飯島町一般会計予算に対する付帯決議を採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長 異議なしと認めます。したがって、発議第2号は原案のとおり可決されました。

議長 追加日程第2 発議第3号 持続可能な学校の実現をめざす意見書を議題といたします。

事務局長に議案を朗読させます。

事務局長 議案朗読

議長 本案に対する提出者の趣旨説明を求めます。

7番 三浦寿美子議員。

〔三浦議員登壇〕

7番

三浦議員 それでは持続可能な学校の実現をめざす意見書の提出について提案説明をしたいと思

います。
社会文教委員会では、持続可能な学校の実現を目指す意見書を提出してほしいという陳情が出されておりまして、教員の方に参考人として来ていただいて、学校の実態を、

いろいろお話をお聞きしました。そうした中で、本当に子どもたちに向き合う時間がない状況だというようなお話も伺いました。

1998年は週6日で945時間、2008年では980時間ということで、週6日の中でそうした時間の中の標準授業時数だったそうですけれども、2017年からは週5日になって1,015時間という授業時数になったということで、本当に先生たちが子どもたちと向き合って対応するのはとても大変になってきているということや、教員の皆さんは、自分の担当するクラスだけではなくて、それぞれの先生方がほかの、教員以外の、学校の中の授業を皆さんで分担して、受持ちがあって対応をしているということで、時間、授業、子どもたちに関わる以外のそうしたことも請け負ってやっているというふうに言われておりました。

それから、一番嫌だなと思っているのが、上伊那郡内の教員の勉強会とか、そういうのではなくて、県のそうした学ぶ研修みたいなものがあるそうなんですけれども、それは本当に負担だというふうなお話もありました。

ということで、本当に、学校の先生たちは、子どもたちの授業を請け負う中でも、さらにそれ以外の時間も費やしながら、なかなか子どもたちと関わる時間も減っているということで、子どもたちに負担をかけているのではないかというようなお話もされておりました。

そういう中で、やはり、どうしたらいいですかとお聞きしましたら、やっぱり教員の人を増やしてほしいというお話がありました。

学校の現場のお話をお聞きしまして、今回、このような5つの項目を持ちました。陳情では4番目までの陳情でしたけれども、お話を聞く中で子どもたちの学びに支障が出ているというようなお話もお聞きしましたので、5番目に「子どもたちの学びに支障が出ないよう、教職員体制の充実を図ること。」と入れさせていただきまして、ぜひこの意見書を国に対して、関係機関に上げていただきたいということで提案をいたしますので、皆さんの賛同をお願いしたいと思います。

議 長 これから提案に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

提出者は自席にお戻りください。

〔三浦議員降壇〕

議 長 これから討論を行います。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから発議第3号 持続可能な学校の実現をめざす意見書を採決いたします。

お諮りいたします。
 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
 [「異議なし」と呼ぶ者あり]

議 長 異議なしと認めます。したがって、発議第3号は原案のとおり可決されました。

議 長 追加日程第3 発議第4号 核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書を議題といたします。
 事務局長に議案を朗読させます。

事務局長 議案朗読

議 長 本案に対する提出者の趣旨説明を求めます。
 6番 浜田稔議員。
 [浜田議員登壇]

6番 浜田議員

それでは意見書の趣旨説明を行います。
 本文の朗読のとおりでありますけれども、今、世界的には本当に核兵器を恫喝の道具として使うという非常に危険な流れが生まれています。
 そんな中だからこそ、私たちは、被爆国として、またノーベル平和賞を受けた被団協のある国として、一刻も早く政府に核兵器禁止条約への参加、調印、批准を求めたいということであります。
 皆様の御賛同を求めて、説明といたします。

議 長 これから質疑を行います。
 質疑はありますか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 質疑なしと認めます。
 提出者は自席にお戻りください。
 [浜田議員降壇]

議 長 これから討論を行います。
 討論はありますか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 討論なしと認めます。
 これで討論を終わります。
 これから発議第4号 核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書を採決いたします。
 お諮りいたします。
 本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。
 [「異議なし」と呼ぶ者あり]

議 長 異議なしと認めます。したがって、発議第4号は原案のとおり可決されました。(「議長、動議」と呼ぶ者あり) 浜田議員。

6 番	
浜田議員	過日の一般質問でいわゆるヘイトスピーチ法に抵触する発言があったというふうに認識しております。
	それで、発言の取消しは本会議中ということに限られておりますので、発言の取消しを求めることを議題として提案したいというふうに考えております。
議 長	ただいま浜田議員から発言の取消しの動議が提出されました。
	暫時休憩といたします。
休 憩	午前 11 時 11 分
再 開	午前 11 時 19 分
議 長	それでは本会議を再開いたします。
	浜田議員から提出されました一般質問の修正を求める動議につきましては、これに賛成の方、挙手を願いたいと思います。動議を取り上げることに賛成の方。
	[賛成者挙手]
議 長	賛成です。多数です。動議は成立いたしました。
	ここから動議を議題として採決をいたしたいと思います。
	それでは、浜田議員が提出しました動議につきまして詳細の説明をお願いしたいと思います。
	浜田議員。
6 番	
浜田議員	「議員必携」によれば、本会議中に発言を修正することはできると、ただし、発言の趣旨を変更することは禁じられています。ですので、表現のところだけを修正するように私は求めるものであります。
	それで、その理由は、先ほど動議の理由について御説明したとおり、ヘイトスピーチ自身が法律によって禁じられている、とりわけ地方自治体もそれを遵守することが求められている、この 2 点からいって、星野晃伸君の一般質問の中にある特定の国名を「外国」というふうに修正することが議会の法律の遵守と、それから議会の品位を保つ上でも必要だろうということでありまして、それを修正内容として提案したいというふうに考えております。
議 長	ただいまの説明に対する質疑はありますか。
	折山議員。
3 番	
折山議員	ちょっと、どういう言葉のいきさつだったんだか、ちっとも分からないんですが、ちょっと浜田議員から提出を受けた、これを見ると、特定の国名が入っているか入っていないかではなくて、本邦出身者以外っていうことは、外国人っていう言葉を当てはめてもこれに抵触するのかなというふうに感じるんですが、その点はどうなんでしょうか。
議 長	浜田議員、分かりますか。

6 番
浜田議員
議長
議長

浜田議員。ややはり特定の国名を当てはめること自身が問題だというふうに私は考えています。特定の国名がいけないと……。特定の国名を出してはいけないということですね。

6 番
浜田議員
議長

浜田議員。そうです。これは、ここ、かなり微妙な問題でしてね、表現の自由とか、いろんな問題がある中で法律ではあるんですけども、やはり、本邦が出身者、要するに外国籍のある人が、一般質問の中では日本国内で行うことについての批判的な一般質問だったというふうに考えていますので、それは該当するというふうに考えております。それは、一般論として言うのであればまだ許容されると思いますけれども、特定の国に限定するのは望ましくないという趣旨であります。

議長
議長

議長。要するに、不当な差別に当たるってということですね。折山さん。

3 番
折山議員
議長

折山議員。私の聞いたことに答えていただきたいんです。この法律に書いてあるのは「本邦以外の出身者」と書いてある。「本邦以外」というのを「外国人」と読み替えて、そのとおりじゃないかと思うんですが、その点、外国人という微妙な問題ではなくて、これに引っかかるのではないですかという質問をしました。そのことに引っかかるか引っかからないか、これでお答えいただきたい。

議長
議長

議長。外国人という表現がどうかっていう……。浜田さん。

6 番
浜田議員
議長

浜田議員。外国人という一般論であれば、私は問題ないというふうに考えています。引っかからないと思います。

議長
議長

議長。ほかに質疑ありますか。星野議員。

9 番
星野議員
議長

星野議員。私の一般質問だったと思うんですが、これは共産党議員の浜田さんから必ず指摘があるなというふうには思っておりました。その中で、私は、私自身の一般質問の中の内容については、テレビや、もう新聞などで報道されております。これは本当に事実でありますので、私の信念として、中国共産党から日本民族を守るためにも、この発言は変えたくないと思います。よろしくお願ひします。

議長
議長

議長。ほかに質疑ありますか。質疑なしと認めます。坂井議員。

2番	
坂井議員	ちょっとこれ、質疑か分かんないですけど、法務省の解釈では、一応特定の国であることを理由にっていうふうになっているので、一応外国であれば問題ないと私は考えます。
議長	外国であれば……
2番	
坂井議員	特定の国であることを理由に差別的発言をすることをヘイトスピーチといているので、外国という表現であれば別に問題ないというふうに私は考えます。
	これ、ちょっと質疑じゃないんですけど……
議長	外国という表現はいいと。
2番	
坂井議員	法務省の解釈では特定の国ということっております。
	ちょっと質疑じゃないですけども。
	星野議員。
9番	
星野議員	私の中で、一番は、ヘイトっていうところを、どこがヘイトに当たるのか説明していただきたいと思いますけど。
議長	分かりますか……。
	浜田議員。
6番	
浜田議員	同じことの繰り返しになりますけれども、特定の国が日本を害しているという断定的なやり方は、それこそヘイトスピーチそのものだったというふうに私は思います。
	それは個人の認識かもしれませんが、少なくとも飯島町議会はこの法律を守ることを求められているわけですから、ということであります。この法律は先ほどの坂井議員の説明のような解釈が正しいというふうに考えています。
議長	折山さん。
3番	
折山議員	ちょっと、これ、極めて、ちょっと微妙な話になってきちゃって……。
	大体分かりました、今の星野議員のことで。
	それで、今の外国っていう言葉を当てはめても、ちょっとかなり厳しい状況があるのかなと思うんで、一回、全協にちょっと切り替えてもらって、ちょっとお互いの理解を深めんと、ちょっと、このまま討論、採決へ入っていくと、ちょっと国際問題になり兼ねんなど思いながらお聞きしておりますんで、一旦全協に、ちょっと切り替えてもらいたいと思います。
	まだ理解が十分できていない。
議長	理解を深めるため、ここで暫時休憩といたします。
休憩	午前11時26分
再開	午前11時40分

議 長 それでは会議を再開いたします。
 浜田議員から出されました星野議員の一般質問の修正については、これから討論を行
 いたいと思います。
 浜田議員の動議に賛成の方の意見を求めます。
 三浦さん。

7 番
 三浦議員 私は浜田議員の動議に賛成の立場で討論したいと思います。
 特定の国を名指しで飯島議会の中で出されたということに対して私は本当に驚いたん
 ですけども、ぜひその部分は修正をしていただきたいというふうに思っていますの
 で、浜田議員の動議に賛成です。

議 長 反対討論はありますか。
 [「なし」と呼ぶ者あり]

議 長 討論なしと認めます。
 坂井議員。

2 番
 坂井議員 一応、賛成の立場で討論をいたします。
 ヘイトスピーチは差別的意識を助長する目的を持って外国、特定の国であることを、
 出身に著しく侮蔑することっていうふうに定義がありまして、著しく侮蔑なんで、なか
 なかこれには当たらないかなというふうに思っはいたんですけども、ちょっとさつ
 きの読み上げを聞くと、ちょっと大分ハードなことを言っているなというのは思いまし
 た。
 それで、ただ、私がちょっと危惧するのは、特定の国に対する批判的な言動自体が、
 今後、質問とかで出なくなるっていうのはすごく問題だと思っいて、例えば北朝鮮に
 よる拉致問題とか、そういうのってすごく重要な問題じゃないですか、そういうのとか
 が、今後、敬遠されてしまうってことはちょっと心配はするんですけども、この
 動議自体には賛成します。
 以上です。

議 長 ほかに討論ありますか。
 討論なしと認めます。
 それでは、本採決は起立によって行います。
 浜田議員の動議に賛成の方の起立を求めます。
 [賛成者起立]

議 長 起立全員です。
 お座りください。(起立者着席)
 動議は可決されました。
 以上で本日の日程は全部終了いたしましたので、会議を閉じます。
 ここで町長から議会閉会の御挨拶をいただきます。

町 長

〔唐澤町長登壇〕

3月議会定例会の閉会に当たりまして一言御挨拶を申し上げます。

去る2月25日から本日まで15日間の会期をもって開催されました3月議会定例会におきまして、議員各位におかれましては、慎重審議をいただき、上程いたしました32議案、全てを原案どおり御議決、御同意いただきまして誠にありがとうございました。心から厚くお礼を申し上げます。

また、本会議や一般質問、予算に関わる調査委員会での総括質疑を通じまして、多くの議員の皆様から町政の重要課題全般にわたりまして貴重な御意見や御示唆をいただきました。このことを重くかつ謙虚に受け止めまして、全職員が一丸となって行政運営に努めてまいる所存でございます。

令和7年度予算につきましては、御議決いただきましたので、4つの重点ポイント、子ども元気と学びの力、安全で安心なまちづくり、共に支え合える地域づくり、環境共生・GXの推進をはじめ、各種事業につきまして適切な時期に適切な方法で事業を実施してまいる所存でございます。

また、公約に掲げましたつなぐ力で楽しく豊かに暮らせるまちづくりに関わる8つの施策についても、第6次総合計画にひもづけて実現に向けた取組を実施してまいります。

本日は東日本大震災から14年目となります。被害に遭われたうち死者は1万5,900人に上ります。また、行方不明者2,500人、関連死に至っては3,808人いらっしゃいます。また、当時、避難された方は47万人と言われております。そのうちまだ避難を引き続きされている方は2万9,000人、こんなにたくさんいらっしゃいます。建物につきましては、12万棟が全壊、また28万棟が半壊という甚大な被害が報道されたところであります。

そして、復興して14年目になりますけれども、地域の人口、特に岩手、宮城、福島、この3つの人口は当時と比べて57万人以上減っているということでございます。被災を受けて新たな学校もできたということでもありますけれども、人口減少で廃校になった学校もあるということをお聞きしております。人口減少に歯止めがかかっていないところであります。

今もなお震災の影響が大きく続いているところであります。亡くなられた皆様の御冥福をお祈りするとともに、心の傷はまだ癒えないと思っておりますけれども、未来に向かって歩んでいただきたいと思っております。

私たちも、こうした教訓を踏まえ、南海トラフの大地震も予想されます。改めて防災対策を考えてまいりたいと思っております。

さて、3月を迎え、春の訪れを感じる季節になりました。三寒四温という言葉が示すように、寒暖の差が激しい日々が続いておりますけれども、それでも徐々に暖かさを増し、春が近づいていることを感じるこの頃でございます。

今週には小学校の、また来週には中学校の卒業式を迎え、その後には保育園の卒園式が控えております。子どもたちには、それぞれ新たな夢と希望を持って元気に巣立って行ってほしいと心から願うものでございます。

また、高校を卒業され進学や就職で飯島町を離れる皆さんには、新天地で大いに勉強や仕事に励まれますことを願うとともに、行く行くは町に戻って来ていただき、まちづくりの推進役として力を発揮していただくことを願ってやみません。

議員をはじめ町民の皆様には、令和6年度の町政運営に御協力を賜りましたことに深く感謝を申し上げ、来る令和7年度におきましても、大きな災害がなく、飯島町がさらに発展を遂げられますよう、一層の御理解と御協力をお願い申し上げる次第でございます。

さて、議員各位の任期も残り僅かとなってまいりました。

来る3月23日執行の町議会議員一般選挙に引き続き立候補される皆様におかれましては、御健闘をお祈り申し上げる次第でございます。

また、お伺いいたしますと、今期をもって御勇退される方もいらっしゃると思います。今後、議会を離れられましても、町の発展のために従来にも増して御指導、お力添えをいただきますよう心からお願い申し上げるところでございます。

最後になりましたけれども、本定例会に御出席いただきました本多代表監査委員さんには、大変お忙しいところを誠にありがとうございました。

議員をはじめ皆様方には、ますます御健勝で御活躍されることを心からお祈り申し上げます。3月議会定例会閉会の御挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

[唐澤町長降壇]

議 長
事務局長

以上をもって令和7年3月飯島町議会定例会を閉会といたします。

御起立をお願いいたします。(一同起立) 礼。(一同礼「お疲れさまでした」)

閉 会

午前11時49分

上記の議事録は事務局長 那須野一郎の記載したものであるが、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

飯島町議会議長

署 名 議 員

署 名 議 員